平成２８年度　地（知）の拠点整備事業
コミュニティ・キャンパス佐賀
アクティベーション・プロジェクト活動風景

プロジェクトＡ：嬉野市塩田町「豊ふぁー夢」での農業支援
プロジェクトＢ：佐賀市東よか干潟における中学生対象の生物観察会
プロジェクトＣ：佐賀大学で開催する「健康教室」
プロジェクトＤ：小城市石体地区で実施したフットパスイベント
プロジェクトＥ：唐津市離島における医学生の実習風景
プロジェクトＦ：鹿島市肥前浜宿での「環アジア国際セミナー」
プロジェクトＧ：佐賀市商業施設でのキクイモのＰＲ活動

ご挨拶

佐賀大学　理事・副学長
コミュニティ・キャンパス佐賀
運営委員会委員長
門出　政則

平成２５年度から本学と西九州大学と共同で推進している文部科学省の地（知）の拠点整備事業「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」が、４年間に亘って実施されています。３年経過後の平成28年度評価では、本事業は順調に進んでいるとの評価が得られています。この事業の４年目に当たる平成２８年度の活動状況を報告書としてまとめ、発行することになりました。

本プロジェクトは、地域を志向した教育・研究・社会貢献に力を入れている両大学が佐賀県全域をキャンパスと位置づけ、学生と教職員による実践的な教育・研究を通して地域が直面する課題の解決に向けて一体となって活動し、地域の再生と活性化を図ろうとするものです。従って、本プロジェクトが対象とする地域である、佐賀県及び県内６市１町において、佐賀大学では、「学生参画による調査・交流・活動を通した地域創成プログラム」などの7つのプロジェクト、また西九州大学では、「介護（認知症）予防事業に着目したリハビリテーションプログラム」など5つのプロジェクトが進められています。各プロジェクトが、地域と密接な連携を取りながら進められているというのが地（知）の拠点整備事業の特徴です。

本事業に関連して、両大学およびＣＯＣ＋連携大学合同で、「ＣＯＣ/ＣＯＣ+さがの未来を創る地方創生と人材育成シンポジウム」を平成２８年11月２３日に開催し、地域志向型教育やインターンシップ、地域産業・雇用についての講演会と分科会を実施し、学生、連携企業・団体等から１５９名の参加を得ました。

平成２８年度における佐賀大学プロジェクトの各事業内容・成果は本報告書に記載された通りです。本事業のミッションである本学学生の研究教育と地域連携に関する事業として、連携する自治体及びＮＰＯ団体を含む地域社会が抱える多様な課題の解決に向けた地域志向型の教育研究を、教養教育と学部専門教育（一部大学院教育を含む）において全学的な取り組みとして推進することができました。

平成２８年度はＣＯＣ＋事業と一体となって、国が掲げる地方創生政策のもと「地域の創生と活性化」を一層推進しているところです。本学が佐賀の地における知の拠点として地域社会の発展に寄与し続けることは当然の任務であり、本事業を積極的に進めることが益々重要であると思われます。学内外の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げる次第です。

目　次

Page

はじめに

03 ご挨拶
佐賀大学　副学長・理事　門出　政則
05 平成２８年度年表
06 ご挨拶
佐賀大学　事業実施責任者　三島　伸雄

コミュニティ・キャンパス佐賀 アクティベーション・プロジェクトについて

08 プロジェクト概要
プロジェクトA～G紹介
62 地域志向教育研究経費事業
72 学生活動

シンポジウム・研修会等の記録

74 COC／COC+
さがの未来を創る地方創生と人材育成シンポジウム
76 コミュニティ・キャンパス佐賀
アクティベーション・プロジェクトFD・SD研修会
78 外部評価委員会

広報関係

80 新聞掲載記事

88 資料
94 編集後記

平成28年度

年　表

2016年

- ４月25日　第14回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会
  大学ＣＯＣ事業推進部門会議
- ５月23日　第14回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議
- ５月27日　大学ＣＯＣ事業推進部門会議
- ８月８日　第15回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会
  大学ＣＯＣ事業推進部門会議
  第15回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議
- ９月8日・9日　「九州・沖縄ＣＯＣ学生情報交換会
  （九州・沖縄ＣＯＣインカレキャンプ）」参加
- ９月16日　大分大学来訪
- ９月26日　ＦＤ・ＳＤ研修会開催
  鹿児島大学来訪
- 10月29日　「九州・沖縄ＣＯＣ／ＣＯＣ+シンポジウム
  ＩＮ鹿児島２０１６」参加・ポスター出展
- 11月４日　第16回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会
  大学ＣＯＣ事業推進部門会議
  第16回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議
- 11月23日　ＣＯＣ／ＣＯＣ+「さがの未来を創る
  地方創生と人材育成シンポジウム」開催
- 12月８日　宮崎大学来訪

2017年

- ２月１日　「さがを創る交流会」開催
- ２月３日　第17回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会
  大学ＣＯＣ事業推進部門会議
- ２月６日　第17回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議
- ２月14日　外部評価委員会
- ３月6日・7日　平成28年度ＣＯＣ／ＣＯＣ+全国シンポジウム
  参加・ポスター出展
- ３月10日　金沢大学来訪

第14回運営委員会

第14回推進会議

九州・沖縄ＣＯＣ学生情報交換会

ＣＯＣ／ＣＯＣ+シンポジウム

ご挨拶

地（知）の拠点整備事業と地方創生

事業実施責任者
三島　伸雄
工学系研究科　教授

本学と永原学園西九州大学の共同申請による文部科学省「地（知）の拠点整備事業―コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト―」は、事業採択から４年を経過しました。地域のアクティベーション（活性化）は、地域（住民と行政）に責務があります。大学の本分は教育と研究であり、地域の活性化ではありません。しかし、地域を成立させる一員でもあることから、地の拠点の一つとしての知の役割が求められています。

このようななか、昨年度以上に今年度力を入れたのは、地域に出ていき、地域の強みと弱みを知り、地域の改善を学生自ら考えるきっかけを作る取り組みでした。

西九州大学との共同プロジェクトとしては、キクイモの栽培方法の確立や６次産業化など地域資源を活用した中山間地域活性化、佐賀市中心部の活性化をにらんだサガ・ライトファンタジーへの共同参画などを積極的に行いました。地域自体とその活性化を学び意識させるべく、プロジェクトのすり合わせを行った結果、学生たちも相互のことを意識するようになりました。

一方で、本学においては、学生を地域に連れ出して学ばせる地域志向科目の充実に昨年以上に取り組みました。時間や移動手段の確保にも苦労しましたが、土日や休暇中の時間を活用しながら、学外授業を行いました。地域を実感して、学生たちの地域に対する思いや意識、共同で取り組む力などのスキルは着実に向上していると思います。それらの力を把握するために、ＰＲＯＧも導入して継続的な把握も行なうようになりました。現在は、学生の専門科目等での学び向上と評価のために、ルーブリックの試験的導入も進めています。

しかしながら、今後の課題もまだ残っています。ＳＮＳやミニコミ誌などを使った情報発信、地域の実感の把握、事業継続のための資金作りなどです。特に来年度は補助事業の最終年度を迎えますが、事業継続のためには資金が必要です。その資金を自治体や地元企業から得るためには、地域の方々からの認識を高める必要があります。ステークホルダーである地域に大学の存在を実感してもらい、評価してもらうことが望まれます。来年度はその正念場になろうかと思います。

最後になりましたが、本事業の企画・推進に際して、ご協力いただいた学内の教職員、西九州大学・関連自治体、そして「場の教育」にご協力頂いた地域住民の方々に、お礼申し上げます。次年度以降も、地域課題を意識した学生教育と地域課題解決に向けた取り組みを推進しますので、さらなるご支援とご協力をお願いします。

コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクトについて

プロジェクト概要　8〜13
プロジェクトA　14〜21
プロジェクトB　22〜27
プロジェクトC　28〜31
プロジェクトD　32〜37
プロジェクトE　38〜43
プロジェクトF　44〜53
プロジェクトG　54〜61

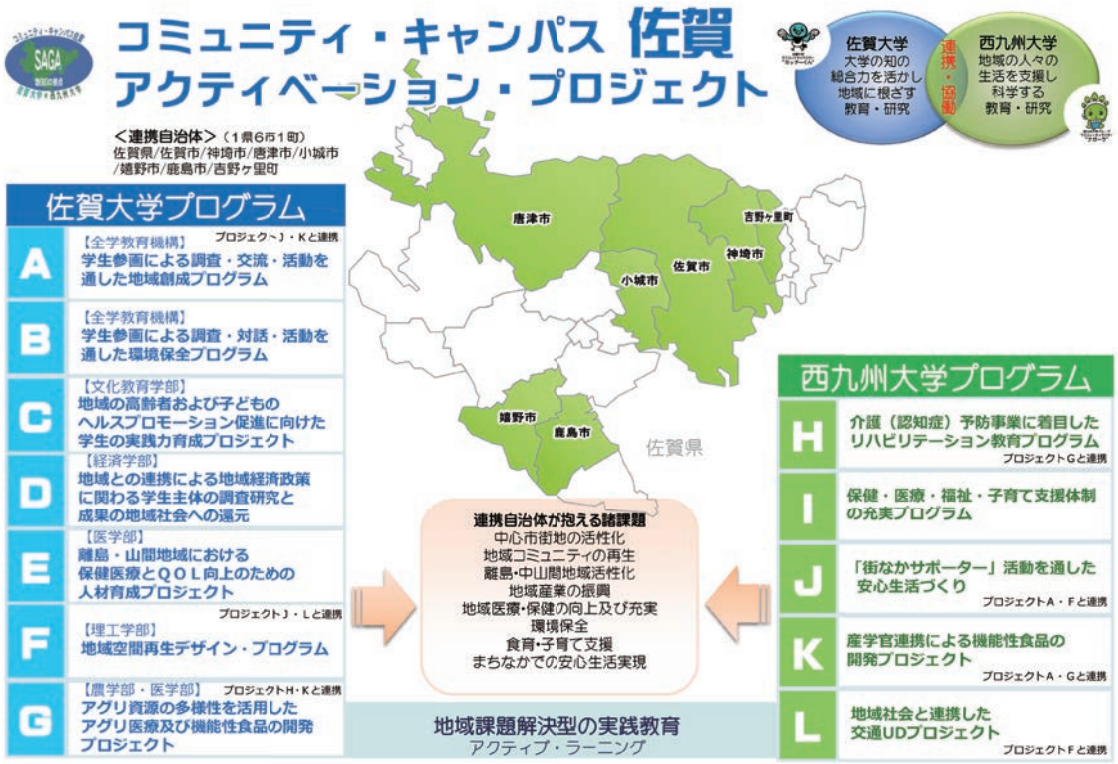
プロジェクト概要

コミュニティ・キャンパス佐賀 アクティベーション・プロジェクトとは

佐賀大学と西九州大学は、佐賀県全域をキャンパスと位置づけ、学生・教職員による実践的な教育・研究を通して、地（佐賀県域）と知（教育研究）のアクティベーション（活性化）を進めることで、佐賀の地における知の拠点としての機能を強化します。

このプロジェクトは、佐賀県、佐賀市、唐津市、鹿島市、小城市、嬉野市、神埼市、吉野ヶ里町の1県6市1町と連携し、両大学とも地域での学修機会を増加させる教育カリキュラムの改革を行い、事業の実効性と持続性のある全学的なプロジェクトとして推進します。

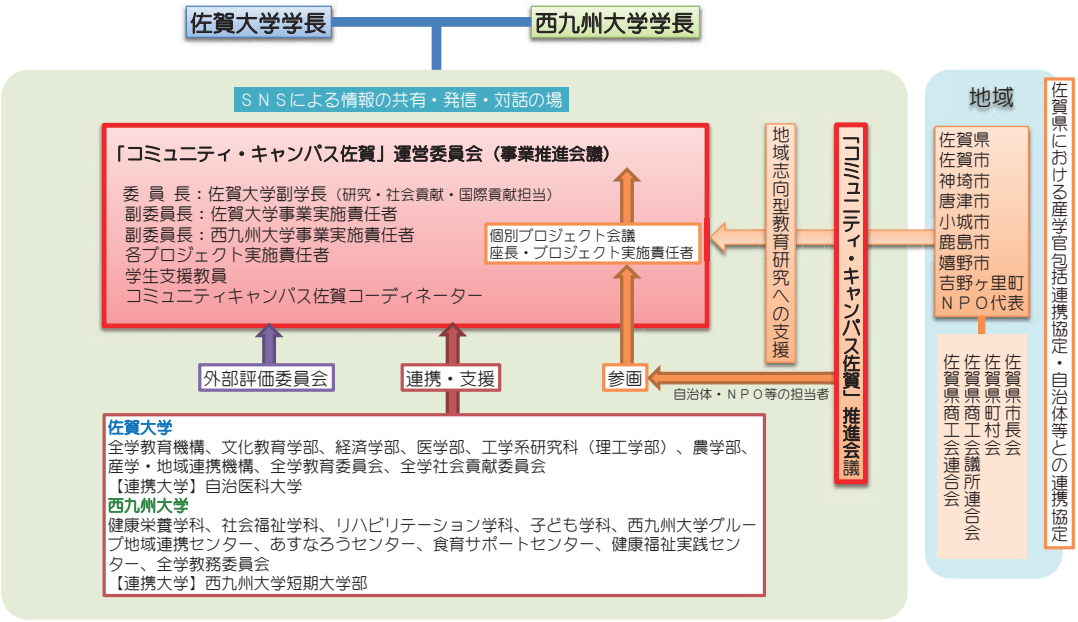
図1　佐賀大学・西九州大学によるコミュニティ・キャンパス佐賀 アクティベーション・プロジェクト事業一覧と連携自治体



事業推進体制

佐賀大学と西九州大学の連携強化のため、各大学の事業実施責任者及びプロジェクト代表等が集まる「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト運営委員会」を設置し、プロジェクト実施に関する企画の立案と推進や自治体等との連携の推進に関すること等を協議します。また、連携自治体の担当者と各大学の事業実施責任者、ＮＰＯ関係者で「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト推進会議」を開催し、事業の円滑な推進を図ります。

図２　佐賀大学・西九州大学、及び地域連携による推進体制



「運営委員会」と「推進会議」の役割

運営委員会

地（知）の拠点整備事業「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」の実施に関し、必要事項を審議するために設置。委員長、副委員長、各プロジェクト代表者などが集まり、隔月１回開催。プロジェクト実施に関する企画の立案・推進に関することや、自治体等との連携推進に関すること等を審議する。

推進会議

連携自治体（佐賀県、佐賀市、神埼市、唐津市、小城市、鹿島市、嬉野市、吉野ヶ里町）担当者及び両大学事業実施責任者、ＮＰＯ関係者等が集まり、隔月１回開催。地域のニーズに対応した教育研究の推進についてや、地域と大学間の積極的な連携・対話の推進に関すること等を審議。H26年5月には自治体関係者等約100名が集まる拡大推進会議を開催。

教養カリキュラム改革

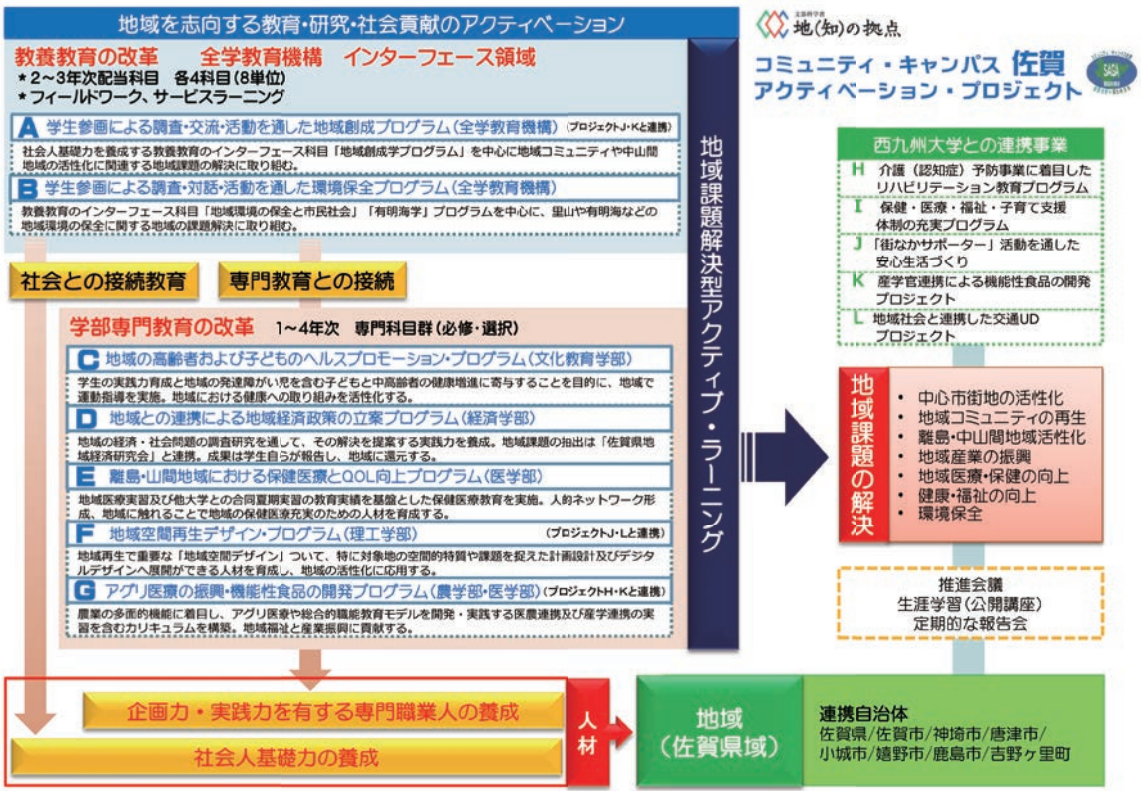
教養教育の改革は、専任教員を配置する全学教育機構（責任部局）が推進する「インターフェース科目」からなる新カリキュラム（平成26年度より開始）によるものです。この科目は2～3年次の2年間で4科目を履修する（選択必修）もので、5コースに分かれ、「インターフェースプログラム（4科目・8単位）」、及びプログラムの担当教員が必要に応じて開講する「インターフェース演習」からなります。これは、社会との接続を目的とする社会人基礎力を養成するプログラムで、アクティブ・ラーニングを基盤にした学生の主体的な学びを推進します。平成28年度からは、インターフェースプログラムの4科目のうち、最低1科目を地域志向型科目とし、全学生が選択必修で地域志向型科目を履修することとなりました。

インターフェース科目中、本COC事業では「環境コース」と「地域・佐賀学コース」の「有明海学」「地域環境の保全と市民社会」「地域創成学」等を中心に、フィールドワーク、ボランティア活動を含むサービス・ラーニング及び実習、実験を重視する地域課題解決型のコース科目群に特色を有します（プロジェクトA・B）。これらの科目では、土日祝日等を利用した学外授業で実施します。

学部専門教育（プロジェクトC～G）においては、実習・演習科目を中心とした地域課題解決型の実践的教育を進め、企画力や実践力を有する専門職業人を養成します。

これらは、佐賀大学学士力に基づいた教育として推進します。

図3　地域課題解決型アクティブ・ラーニングを基盤とする教養教育の改革

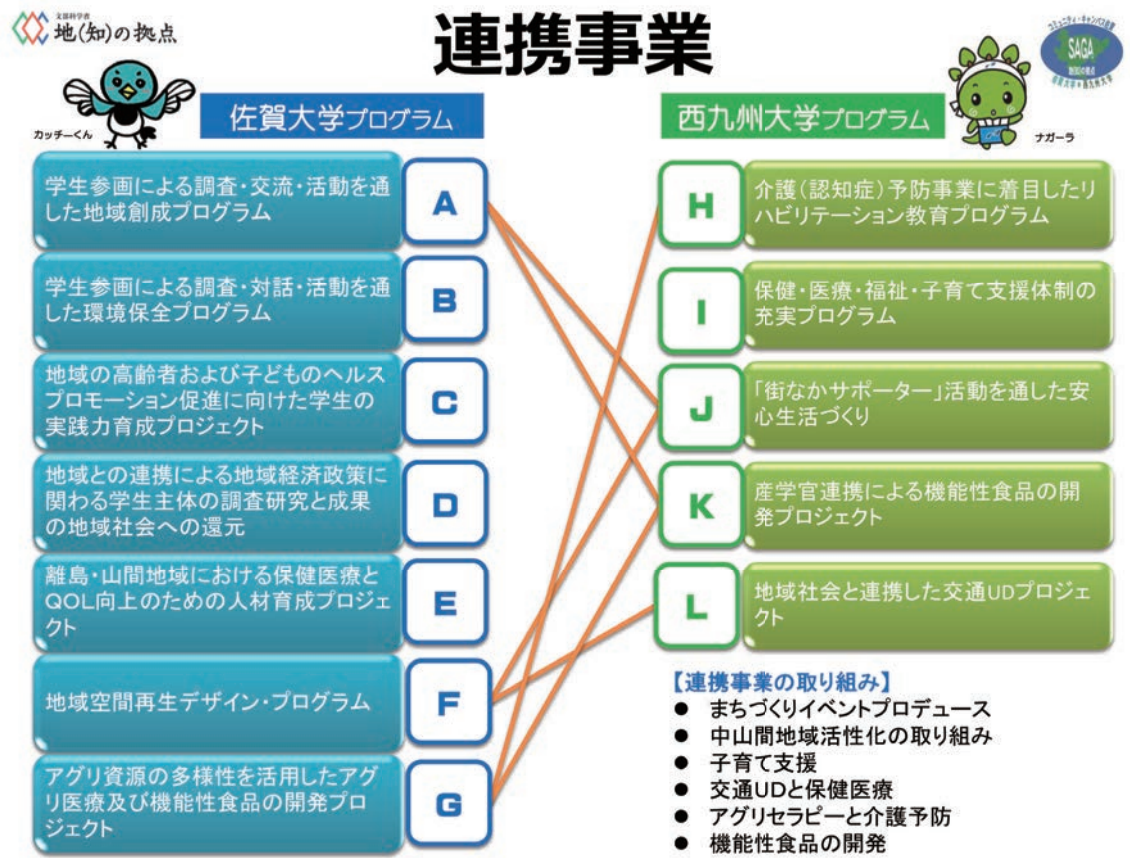


佐賀大学・西九州大学、両大学連携事業

両大学は、連携自治体において全12事業を実施しています。佐賀大学はプロジェクトAからGまでの7つ、西九州大学はプロジェクトHからLまでの5つの事業を行っており、佐賀大学プロジェクトA・F・G、及び西九州大学プロジェクトH・J・K・Lが連携して事業に取り組みました。連携自治体別では、佐賀市で4件、嬉野市で1件の計5件の事業に連携して参画し、両大学のシーズを活かした取り組みを実施しました。

	関連プロジェクト	連携自治体	実施内容
1	A・J	佐賀市	佐賀市中心市街地活性化のための調査研究、及びイベントプロデュース
2	F・J・L	佐賀市	佐賀市中心市街地活性化イベント「サガ・ライトファンタジー」への参画
3	G・H	佐賀市	佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センターにおけるアグリ医療講習
4	G・K	佐賀市	キクイモの栽培方法の研究及び機能性の分析・研究、商品開発、認知度向上のための広報活動
5	A・K	嬉野市	地域活性化拠点「豊ふぁー夢」における地域活性化イベントの企画・運営及び機能性食品開発

図4　大学間連携事業概要



佐賀大学の7つのプロジェクト

全12プロジェクト中、佐賀大学ではプロジェクトAからGの7つのプロジェクトを実施しています。

プロジェクト A　学生参画による調査・交流・活動を通した地域創成プログラム

（連携自治体）佐賀市、唐津市、鹿島市、嬉野市、吉野ヶ里町

「中心市街地の活性化」や「離島・山間地域の活性化」「地域コミュニティの再生」を目的に、全学教育機構における教養教育改革の一環として行います。教養教育のインターフェース「地域・佐賀学コース」の「地域創成学プログラム」を基盤に、「文化と共生コース」、「生活と科学コース」等との連携によって、地域活性化を目指します。

代表：五十嵐 勉　全学教育機構教授

★

プロジェクト B　学生参画による調査・対話・活動を通した環境保全プログラム

（連携自治体）佐賀県、佐賀市、鹿島市

「地域資源の保全と活用」「有明海の環境保全と活用」を目的に、全学教育機構における教養教育改革の一環として行います。教養教育のインターフェース「環境コース」の「有明海学」「地域環境の保全と市民社会」プログラム、及び「文化と共生コース」の「映像・デジタル表現」において、主体的な環境学習プログラムを実施・構築します。

代表：郡山 益実　全学教育機構准教授

プロジェクト C　地域の高齢者及び子どものヘルスプロモーション促進に向けた学生の実践力育成プロジェクト

（連携自治体）佐賀県、佐賀市、鹿島市、嬉野市

学生の実践力育成と、地域の発達障害児を含む子どもと中高齢者の健康増進に寄与することを目的に、文化教育学部の健康スポーツ科学講座による地域での運動指導等を行います。地域の子どもから高齢者までを対象にすることで、ヘルスプロモーション能力を底上げし、運動・福祉の側面から、地域の健康への取り組みを活性化します。

代表：井上 伸一　教育学部教授

プロジェクト D　地域との連携による地域経済政策に関わる学生主体の調査研究と成果の地域社会への還元

（連携自治体）佐賀県（佐賀地域経済研究会）、佐賀市、唐津市、小城市

学生自身が、地域の経済問題を調査して課題を発見し、対策の検討とまとめを行います。地域が抱える課題への対策は、佐賀県下の市部における地域経済政策立案主体からなる「佐賀地域経済研究会」の協力を得ながら行い、その成果は大学の公開講座等で発表して地域に還元します。

代表：戸田 順一郎　経済学部准教授

プロジェクト E 離島・山間地域における保健医療とQOL向上のための人材育成プロジェクト

（連携自治体）佐賀県、佐賀市、唐津市

地域医療実習及び自治医科大学との合同夏期実習の教育実績を基盤として、全学教育機構や農学部のプログラムとも連携して保健医療教育を実施。学生同士の交流や将来の人的ネットワークの形成、地域の文化や伝統に直に触れる機会を持つことによる地域貢献意欲の涵養等を行い、地域での保健医療充実のための人材を育成します。

代表：杉岡 隆　医学部教授

プロジェクト F 地域空間再生デザイン・プログラム

（連携自治体）佐賀市、唐津市、鹿島市、小城市、嬉野市

景観や街並み整備等、地域再生において重要な「地域デザイン」。特に地域の空間分析と将来像をわかりやすく伝えられるよう、対象地の空間的特質や課題を捉えた計画設計、及びデジタルデザインへの展開ができる人材（デザインクリエーター）の育成を行います。また、西九州大学のプロジェクトLと連携し、都市のUD（ユニバーサル・デザイン）による再生にも寄与します。

代表：三島 伸雄　工学系研究科教授

★

プロジェクト G アグリ資源の多様性を活用したアグリ医療及び機能性食品の開発プロジェクト

（連携自治体）佐賀市

平成24年度に農学部に新設された附属アグリ創生教育研究センターと医学部、西九州大学のプロジェクトH・Kが連携して実施するプログラム。農の多面的機能に着目して、生き物を通じた医療や総合的食農教育モデルを開発・実践する「医農連携」と、産学連携の実習を含めたカリキュラムです。

代表：上埜 喜八
農学部附属アグリ創生教育研究センター准教授

★

プロジェクト H 介護（認知症）予防事業に着目したリハビリテーション教育プログラム

（連携自治体）佐賀市、小城市、神埼市、吉野ヶ里町
代表：上城 憲司　准教授 ★

プロジェクト I 保健・医療・福祉・子育て支援体制の充実プログラム

（連携自治体）佐賀市、小城市、神埼市
代表：桝田 晃良　教授

プロジェクト J 「街なかサポーター」活動を通した安心生活づくり

（連携自治体）佐賀市、小城市
代表：岡部 由紀夫　講師 ★

プロジェクト K 産学官連携による機能性食品の開発プロジェクト

（連携自治体）佐賀県、佐賀市、小城市、神埼市、嬉野市、吉野ヶ里町
代表：安田 みどり　教授 ★

プロジェクト L 地域住民と連携した交通UDプロジェクト

（連携自治体）佐賀市、小城市、神埼市
代表：酒井 出　教授 ★

【★マーク】は佐賀大学と西九州大学が連携するプロジェクトです。

プロジェクト A 学生参画による調査・交流・活動を通した地域創成プログラム

唐津市蕨野の棚田保全活動

Ⅰ.プログラムの概要

実施代表者
五十嵐　勉
（全学教育機構・教授）

■事業実施主体：全学教育機構

■連携部局：文化教育学部人間環境課程、工学系研究科都市工学専攻、医学部地域医療支援学講座、農学部生物環境科学科地域社会開発学コース

■取り組む地域課題：
- 中心市街地の活性化
- 離島のQOL向上
- 中山間地域の活性化
- 地域コミュニティの活性化

■連携プロジェクト：B、E、F、J

■連携自治体等：佐賀市、唐津市、鹿島市、嬉野市、吉野ヶ里町、NPO法人まちづくり機構ユマニテさが、認定NPO法人地球市民の会、NPO法人みんなの森プロジェクト、NPO法人蕨野の棚田を守ろう会、豊ふぁー夢、道の駅鹿島 等

■教育カリキュラム：
- 全学教育機構「インターフェース科目」におけるPBL/SL型フィールドワーク、community-based learning
- インターフェース
  「地域・佐賀学コース」：地域創成学プログラム
  「文化と共生コース」：映像・デジタル表現プログラム、異文化交流プログラム
  「生活と科学コース」：アントレプレナーシッププログラム

■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ（自治体別）

佐賀市
- サテライト「ゆっつら～と館」を利用した世代間交流、イベントプロデュースの企画と実践
- ゲストハウスプロジェクト支援
- バルーンミュージアム活用支援
- 中山間地域における耕作放棄地の抑止・活用のための「参加型農地管理」のビジネスプラン、「村おこし」イベント等イベントプロデュースの企画・実践

唐津市
- 離島における地域資源の発掘とその活用
- 蕨野の棚田保全活動の企画・支援

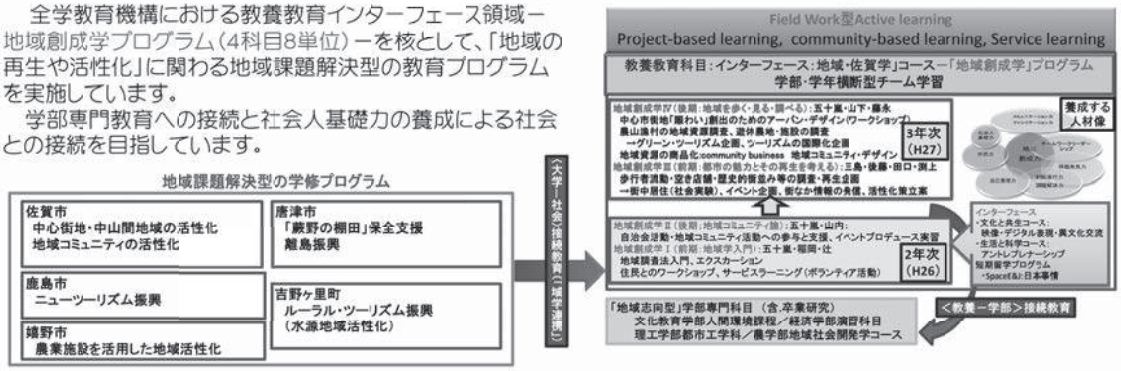
鹿島市
- ニューツーリズム振興の企画・支援

吉野ヶ里町
- 国際ルーラルツーリズムの企画・支援

プログラムの目的と方法

全学教育機構における教養教育インターフェース領域ー地域創成学プログラム（4科目8単位）ーを核として、「地域の再生や活性化」に関わる地域課題解決型の教育プログラムを実施しています。

学部専門教育への接続と社会人基礎力の養成による社会との接続を目指しています。



■ 中山間地域の活性化に関する調査・交流・活動

佐賀市大和町での「「干し柿の里活性化プロジェクト」

佐賀市大和町の地域資源「柿」を活用した地域活性化に取り組んでいます。地域の柿生産者の方が講師となった勉強会では、地区に伝わる柿の栽培方法、品種、加工方法、歴史などを学びました。さらに調査を重ねて、地域の方々と交流を深めつつ、柿を活用した地域活性化イベントプロデュースに向け活動しています。

■ 農山村の農業施設を活用した地域活性化の取り組み

嬉野市塩田町の農業体験施設「豊ふぁー夢」を中心として、地域の方々と地域活性化に取り組んでいます。この取り組みは活動場所を自分たちで整備することから始まりました。“農”を活用したイベント開催や営農支援を行っています。

嬉野市塩田町「豊ふぁー夢」を中心とした地域活性化の取り組み

■ 離島における地域資源の発掘とその活用

唐津市肥前町向島（むくしま）において農学部２年生が「フィールドワーク基礎演習」合宿を実施。２泊３日の滞在で、島内エクスカーションや島民とのワークショップ、奉仕活動を通して、離島地域の魅力や島の資源とともに課題を発見し解決方法を模索しました。

今後の研究課題選定につながる合宿となりました。

唐津市肥前町向島での2泊3日の合宿

■ 棚田保全活動の企画・支援

唐津市相知町蕨野地区では、プロジェクトBと連携して活動を推進しています。平成26年度から、援農活動プラス、イベント支援活動を開始。

「地域創成学」の授業の一環として、蕨野の棚田のライトアップコンサートの企画・運営に参画し、農業資源を活用した中山間地域の活性化を進めています。

■ 中心市街地の活性化活動

佐賀市中心市街地では、「地域創成学Ⅰ」を受講する学生が「国際ゲストハウスづくり」「高齢者のまちなかでの居場所づくり」「佐賀駅北地区でのイベント支援」の３つのグループに分かれて活動をしました。

イベント支援グループは「ふれあいフェスタ2015」（11/8開催）の企画・運営にも携わりました。

授業では課題にどう取り組むかワークショップで案を出し合う

今後の活動

- インターフェース「地域創成学」を主とした持続的な地域活性化
- 中山間地域、離島地域におけるイベントプロデュース
- 国際ルーラルツーリズム振興の企画や支援

Ⅱ.平成28年度の活動

佐賀市：

■外国人留学生と連携した取り組み

4～7月（全15回）　多言語ガイドブックの制作

全学教育機構　インターフェース科目

・異文化交流Ⅲ（45名）

活動内容：

留学生25名、日本人学生20名が8チームに分かれ、チームごとにテーマを決めて多言語ガイドブックを制作した。

成果（学生教育の観点から）：

ガイドブック制作の過程で、現地調査や電話での聞き取り等を行い、佐賀について学ぶことができた。また、日本語や中国語、韓国語、ベトナム語などを加えた多言語ガイドブックを完成させ、ホームページで公開した。

教室でのガイドブック制作風景

■中心市街地活性化の取り組み

4～3月　佐賀市中心市街地活性化のための支援・参画事業

全学教育機構　インターフェース科目

・地域創成学Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ（20名）

連携団体：

認定NPO法人地球市民の会

活動内容：

佐賀市中心市街地のエクスカーションを行い、佐賀市に開業を計画しているゲストハウスの予定地や中心市街地の商店街等を視察。まちなかの特性を踏まえたうえで、平成29年4月にオープンする

地域創成学Ⅳの最終報告会

国際ゲストハウス事業を支援するため、外国人のための市内マップ及び県内マップづくりを実施した。

成果（学生教育の観点から）：

日本語版の便利マップを作成し、地球市民の会との連携による多言語化を次年度に実施することで、地活性化の企画案作成に役立てた。

■農を利用した中心市街地活性化の取り組み

①5/13　呉服「元町ファーム」開園

②5～2月　呉服「元町ファーム」の運営（ゆっつら～と街角大学との協働）

農学部　生物環境科学科

・地域資源学研究室（①2名、②2名）

活動内容：

佐賀大学サテライト「ゆっつら～と館」で開催する高齢者向け公開講座受講生と、佐賀大学の学生が共に管理するまちなか農園を開園。「ユニバーサル コミュニティ ファーム」として運営し、緑のカーテンづくりや季節に合わせた農作物を栽培した。

成果（学生教育の観点から）：

まちなか農園を設置したことで、農作業を通した世代間交流が図られた。

呉服「元町ファーム」開園

■市民活動団体支援の取り組み

6/16〜17　チカラットパネル展

全学教育機構　インターフェース科目

・地域創成学Ⅰ（39名）

連携学生サークル：

NPO法人佐賀大学スーパーネット、For.S

連携団体：NPO法人佐賀県CSO推進機構

活動内容：

佐賀市の市民活動団体応援制度「チカラット」のパネル展・投票を学内で開催。佐賀大学の学生サークルも展示を行い、佐賀市に住民票がある18歳以上が投票した。

成果（学生教育の観点から）：

佐賀市の市民活動団体や地域で活動する学生サークルを知ることができた。投票総数は45票となった。

学生会館でのパネル展示

■里山資本主義in富士町プロジェクト

①7/18　地域環境保全のための社会貢献活動

②1/20　「木使い」事業への参画

①農学部　生物環境科学科

・地域資源学研究室（4名）

②農学部　生物環境科学科

・環境地理学（25名）

・地域資源学研究室（4名）

連携団体：NPO法人みんなの森プロジェクト

活動内容：

①佐賀市富士町の北山中学校前を流れる神水川（しおいがわ）沿いに植えられた約400本のアジサイの手入れを行った。

アジサイの剪定作業

②県民の森での広葉樹の除伐作業及び木の実クラフト体験を行い、パレットストーブの普及を含む「木使い」事業の企画を実施した。

成果（学生教育の観点から）：

地域での環境保全活動に参加することで、地域の歴史や地域活動の担い手不足などの課題について理解することができた。

■佐賀バルーンミュージアム活用事業

① 6/18　佐賀市中心市街地エクスカーション

②10/12　佐賀バルーンミュージアムの見学

③ 1/11　外部講師によるヒンメリ教室開催

④ 3/20　バルーンミュージアムでの一般参加者とのWS

①全学教育機構　インターフェース科目

・地域創成学Ⅰ（10名）

②③全学教育機構　インターフェース科目

・地域創成学Ⅱ（②12名、③5名）

④全学教育機構　インターフェース科目

・地域創成学Ⅱ（5名）

・地域創成学Ⅳ（1名）

活動内容：

佐賀バルーンミュージアムを活用したまちなか活性化の企画案を作成し、イベントを実施した。

成果（学生教育の観点から）：

佐賀市のまちなかの現状を学ぶとともに、まちなかの施設を活用した中心市街地活性化の企画提案と実施を行い、今後の施設利用の可能性を示すことができた。

オープン直後のバルーンミュージアム見学

■中山間地域における獣害対策支援

12/17　イノシシ避け設備の移設

全学教育機構　インターフェース科目

・地域創成学Ⅰ（15名）

活動内容：

田んぼ周辺に設置したイノシシ避けワイヤーメッシュを、山の尾根付近まで移設した。

成果（学生教育の観点から）：

イノシシの獣害の深刻さと地域のコミュニティ力について学ぶことができた。

ワイヤーメッシュの設置作業

唐津市：

■唐津市相知町蕨野地区での棚田保全活動

①5/15　棚田の用水路「横溝」の清掃活動、「AQUA SOCIAL FES!!」会場の棚田の除草作業と生物調査

② 6/5　第1回「AQUA SOCIAL FES!!」開催

③10/1　第2回「AQUA SOCIAL FES!!」開催

④10/8　蕨野の棚田で「月灯りコンサート」の実施

①全学教育機構　インターフェース科目

・地域環境の保全と市民社会Ⅲ

第1回AQUAでの環境教室

農学部

・アグリ創生教育研究センター

・生物環境科学科地域資源学研究室（計20名）

②全学教育機構　インターフェース科目

・地域環境の保全と市民社会Ⅲ（13名）

・地域創成学Ⅰ（39名）

農学部　生物環境科学科

・地域資源学研究室（10名）

経済学部

・経済学講座（3名）

③④全学教育機構　インターフェース科目

・地域創成学Ⅱ（③14名、④10名）

農学部　生物環境科学科

・地域資源学研究室他（③10名、④3名）

連携団体：NPO法人蕨野の棚田を守ろう会

活動内容：

蕨野地区の地域資源である棚田を活用した地域活性化イベントを開催。環境保護・保全活動では、子ども向け環境教室を開催し、棚田に生息する生き物を紹介した。

成果（学生教育の観点から）：

中山間地域の現状を知り、その魅力や課題を学んだうえで、地域課題解決に向けた環境保全やイベントの開催等に取り組み、実体験を通して学ぶことができた。

■向島における合宿型フィールドワーク

①6/30、7/7　事前学習会の実施

②7/22～24　2泊3日「フィールドワーク基礎演習」合宿

①農学部　生物環境科学科

・地域社会開発学コース（14名）

②農学部　生物環境科学科

・地域社会開発学コース（14名）

農学研究科　生物資源科学専攻

・地域社会開発学コース（5名）

活動内容：

①文献資料から唐津の離島の現状や向島の概要について学んだ。

②島内エクスカーションや島民の方々との交流会、奉仕活動、海士漁見学、ホームビジットを行い、最後に島民の方々へ発表を行った。

成果（学生教育の観点から）：

事前学習と2日間のフィールドワークで得た情報を基に、班ごとに島の資源をどのように活かせるかをまとめ、島民の方々に提案発表を実施することで、地域の魅力や課題等への理解が深まった。

船に乗って海士漁見学

鹿島市・嬉野市：

■県西部地区のCOC活動拠点視察

7/3　嬉野市塩田町「豊ふぁー夢」と鹿島市「道の駅鹿島」の視察

全学教育機構　インターフェース科目

・地域創成学Ⅰ（39名）

連携団体：豊ふぁー夢、道の駅鹿島

活動内容：

今年度の「地域創成学」の活動対象地を視察し、各施設の概要説明を受けた。

成果（学生教育の観点から）：

各施設を実際に訪問することで、現場の状況を理解することができた。また、今後の活動計画作成に役立てた。

豊ふぁー夢を視察

嬉野市：

■豊ふぁー夢を拠点とした地域活性化プロジェクト

①11/16　豊ふぁー夢での農業支援・エゴマ脱穀作業

②12/ 7　豊ふぁー夢での農業支援・エゴマ商品開発提案

③12/14　エゴマ料理の試作・試食

④ 1/18　豊ふぁー夢エゴマ油のラベル提案

⑤ 1/25　豊ふぁー夢エゴマ油のラベル提案・決定

①～③全学教育機構　インターフェース科目

・地域創成学Ⅱ（①6名、②7名、③6名）

④⑤全学教育機構　インターフェース科目

・地域創成学Ⅱ（④6名、⑤7名）

・地域創成学Ⅳ（④2名、⑤2名）

連携団体：豊ふぁー夢

活動内容：

エゴマの栽培支援とエゴマを使った商品の提案、商品ラベル作成、販売等、6次産業化に向けた取り組みを支援した。

エゴマ脱穀の様子

成果（学生教育の観点から）：

農作物の生産から商品開発、販売まで、6次産業化の過程を実体験を通して学ぶことができた。

Ⅲ.授業科目・担当者一覧

■関連するインターフェース科目

「地域・佐賀学コース」―「地域創成学」プログラム

・地域創成学Ⅰ：五十嵐勉（全学教育機構）、稲岡司・辻　一成（農学部）

・地域創成学Ⅱ：五十嵐勉・山内一祥（全学教育機構）

・地域創成学Ⅲ：三島伸雄・後藤隆太郎・渕上貴由樹・田口陽子（工学系研究科）、五十嵐勉（全学教育機構）

・地域創成学Ⅳ：五十嵐勉（全学教育機構）、山下宗利・藤永　豪（文化教育学部）

「文化と共生コース」―「異文化交流」プログラム

・異文化交流Ⅲ：中山亜紀子（全学教育機構）

「生活と科学コース」―「アントレプレナーシップ」プログラム

・アントレプレナーシップⅠ～Ⅳ：松前あかね他

■関連する主な学部専門科目

文化教育学部

・地理学フィールド実習（山下宗利）

・集落実地調査（藤永　豪）

理工学部

・建築デザイン手法（三島伸雄他）

・卒業制作（三島伸雄他）

農学部

・フィールドワーク基礎演習（辻　一成他）

・農村開発学（五十嵐勉）

・国際農村保健学（稲岡　司）

・半島島嶼産業論（小林恒夫）

・観光人類学（中井信介）

・地域ビジネス開発学演習Ⅰ・Ⅱ（辻　一成・白武義治）

・人類生態学演習Ⅰ・Ⅱ（稲岡　司・藤村美穂）

・地域資源学演習Ⅰ・Ⅱ（中井信介・五十嵐勉）

・卒業研究

Ⅳ.関連する主な教育・研究・社会貢献業績

＜教員＞

（論文等）

・畑中　寛・五十嵐勉：「佐賀地域における地方創生を担う人材育成に関する研究」、『海峡圏研究』、第16号、95-109頁、2016

（講演等）

・五十嵐　勉：「ゆっつら～と街角大学－地方創生論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ（全10回）」、佐賀大学公開講座、ゆっつら～と館、2016.5～12

・五十嵐　勉：「なぜ、今、地域コミュニティなのか」、佐賀市東与賀町まちづくり協議会総会記念講演、2016.5.22

・五十嵐　勉：「佐賀の地方創生論－干し柿の里、大和町松梅から考える農村の活性化－」、肥前通仙亭生涯学習講座、2016.5.26

・五十嵐　勉：「教養教育における地域と連携したPBL教育　－大学COC事業での実践から－」、九州地区大学教育研究協議会、鹿児島大学、2016.9.15

・五十嵐　勉：「地方創生と人材育成－学び続ける社会の構築による地域活性化」、西九州大学創立70周年記念講座、西九州大学、2016.10.29

・五十嵐　勉：「里山保全と地域活性化－農用林野としての里山とSATOYAMA－」、平成28年度九州地区森林技術者講習会、アバンセ、2016.11

・五十嵐　勉：「地方創生を担う人材育成と農業版MOT教育」、東京農業大学創立125周年記念シンポジウム、東京農業大学オホーツクキャンパス、2016.11.5
・五十嵐　勉：「まちづくり協議会（地域コミュニティ組織）と地域力」、佐賀市地域づくり研修会、佐賀市文化会館、2016.12
・五十嵐　勉：「まちづくり協議会と公民館、佐賀市公民館長研修会」、佐賀市久保田町公民館、2016.12

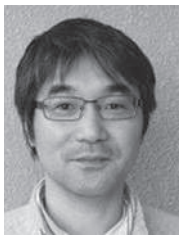
<学生>

・中島　美咲：「地域連携による6次産業化－有田町農産物特産品開発協議会を事例に－」、平成28年度佐賀大学農学部地域社会開発学コース卒業論文
・高瀬　怜：「地域コミュニティの活性化と農家民宿－佐賀市三瀬村中鶴集落を事例に－」、平成28年度佐賀大学大学院農学研究科修士論文
・鶴田　貴文：「佐賀県におけるイノシシによる獣害被害の減少要因－捕獲と防御の側面から－」、平成28年度佐賀大学大学院農学研究科修士論文
・森部　光貴：「小規模離島における漁業の持続可能性－唐津市肥前町向島の海士漁を事例に－」、平成28年度佐賀大学大学院農学研究科修士論文
・鶴田　貴文：「エミューの家畜化と企業参入－(株)日本エコシステムによるエミュー事業を事例に－」平成28年度佐賀大学大学院農学研究科副コース（農業技術経営管理学）修了研究論文

プロジェクト B 学生参画による調査・対話・活動を通した環境保全プログラム

東よか干潟での生態調査

Ⅰ.プログラムの概要



実施代表者
郡山　益実
（全学教育機構・准教授）

■事業実施主体：全学教育機構

■連携部局：農学部、低平地沿岸海域研究センター、総合分析実験センター、理工学部

■取り組む地域課題：

・地域環境の保全と活用
・有明海の環境・干潟の保全と活用
・市民協働型の環境教育

■連携プロジェクト：A、F

■連携自治体等：

佐賀県、佐賀市、鹿島市、七浦地区振興会干潟体験事業部、東与賀まちづくり協議会、佐賀環境フォーラム、NPO法人有明海再生機構、NPO法人ビッグ・リーフ、NPO法人みんなの森プロジェクト、佐賀自然史研究会、日本野鳥の会佐賀県支部等

■教育カリキュラム：

・全学教育機構「インターフェース科目」におけるPBL/SL型フィールドワーク
・インターフェース
　「環境コース」：有明海学プログラム
　　地域環境の保全と市民社会プログラム
　「文化と共生コース」：映像・デジタル表現プログラム

■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ（自治体別）：

佐賀市：

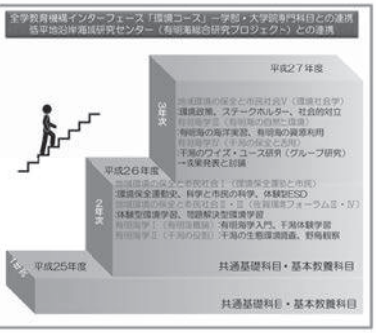
・佐賀県生物多様性重要地域―クリークと有明海―における地域環境の保全

鹿島市：

・有明海の環境保全とエコツーリズム振興

プログラムの概要

「地域資源の保全と活用」「有明海の環境保全と活用」を目的に、全学教育機構における教養教育改革の一環として行います。教養教育のインターフェース「環境コース」の「有明海学」「地域環境の保全と市民社会」プログラム、及び「異文化理解コース」の「映像・デジタル表現」において、主体的な環境学習プログラムを実施・構築します。



これまでの活動内容

■ 有明海奥部底質の広域調査

この調査では、有明海奥部に多地点の底質調査地点を設置して、詳細な底質のマッピングデータを作成し、そのデータを集積することを目的としています。

■ インターフェース科目による有明海干潟の環境学習

インタフェース科目「有明海学」では、座学的な講義に加え、干潟体験学習、生態調査、野鳥観察、有明海の海洋実習などの現地実習を体系的に取り込んでいます。現地実習を通して、座学の講義だけでは伝わらない、有明海干潟の「手触り」、「臭い」、「色」などを直接体感し、有明海干潟の環境の理解を深めます。有明海学Ⅳでは、有明海学Ⅰ～Ⅲで学んだ知識を基に、人文社会系と自然科学系のグループにわかれて調査し、その成果発表を行います。

有明海学Ⅰ（干潟体験学習）

有明海学Ⅱ（野鳥観察）

有明海学Ⅳ（グループ成果発表会）

有明海学Ⅳ（生態調査）

有明海学Ⅲ（海洋実習）

■ 有明海干潟に通じた地域活動

佐賀市と鹿島市で、佐賀大学や地元のまちづくり協議会、市民の会などが協力し、一般の方や地元小中学生を対象に有明海干潟の自然観察会及び交流会事業を開催し、学生はそのスタッフとして参加しました。参加した学生は、講師として子供たちに干潟の生物や環境について説明し、大学で学んだ知識を地域に還元する活動を積極的に行っています。

東与賀小学校の自然観察会（2015.1.23）

東よか干潟の養成ガイド講座（2016.3.5）

ラムサール条約湿地1周年記念（2016.5.7）

東与賀中学校の自然観察会（20199.27）

■ 市民が憩う公園づくり

インターフェース科目「地域環境の保全と市民社会」では、金立公園をフィールドに活動しています。平成28年度前期は、ビオトープをつくるための生物調査や、ため池の底泥の状態を確認しました。
後期の授業では、公園の資源を活用して、生物はもちろん、人々の憩いの場として公園を活用できるよう推進しています。

■ 環境保護・保全活動「AQUA SOCIAL FES!!」

「AQUA SOCIAL FES!!」は、トヨタの「AQUA」のプロモーションとして全国で行っている参加型の環境保護・保全活動です。佐賀大学は、3年前から協力し、インターフェース科目の「地域創成学」や「地域環境の保全と市民社会」を受講する学生が参画し、イベントで一般参加者に環境教室や田植えや稲刈りの指導などを行っています。

今後の活動

- 干潟環境学習、海洋調査実習、森林環境学習などのプログラムを通して、実践的な環境教育を推進する。
- 地域環境に関連するNPOや自治体等による環境保全活動に参画し、地域の環境保全に関する実践活動や環境コミュニケーションを促進する。
- 「有明海学-市民の科学講座」との連携などによる市民協働型の環境保全モデルの構築や有明海干潟の環境啓発活動を展開する。

Ⅱ.平成２８年度の活動

佐賀市：

■金立公園活用提案プロジェクト

①4/13、4/23　金立公園視察

②7/17、12/10　生物調査・ビオトープづくり

③12/18　植樹活動

①～③全学教育機構　インターフェース科目

・地域環境の保全と市民社会Ⅰ（①9名、②12名、11名、③9名）

連携団体：佐賀市建設部緑化推進課

活動内容：

佐賀市の金立公園活用のため、企画案作成から実施までを年間を通して行った。具体的には公園整備のためのビオトープづくりと地域の方々との植樹活動を実施した。

成果（学生教育の観点から）：

環境保全のための企画立案から実施までを経験し、活動実施のための基礎を身に付けることができた。また、地域住民と共に活動することで、地域における環境保全活動の可能性について理解を深めた。

金立公園でのビオトープづくり

■東よか干潟ラムサール1周年記念式典

5/7　東よか干潟ラムサール1周年記念式典

農学部　生物環境科学科

・浅海干潟環境学研究室（7名）

連携団体：佐賀市環境政策課

活動内容：

東よか公園においてラムサール条約湿地登録1周年記念イベントが開催され、郡山ゼミの学生が出展内容の企画立案と準備、当日のブース運営を行った。当日は、学生がクイズやパネル展示を通して、

ラムサール登録1周年式典参加

ブース来訪者（85名程度）に有明海・干潟の環境や生物について説明した。

成果（学生教育の観点から）：

学生が出展内容の企画立案・準備を行うことにより、有明海・干潟の環境についてより深く学ぶ動機づけとなった。また、当日のブース運営を行うことにより、環境コミュニケーション能力の向上につながった。

■中学生対象の東よか干潟観察会

①9/14　観察会の事前学習会

②9/27　干潟観察会

①農学部　生物環境科学科

・浅海干潟環境学研究室（2名）

②農学部　生物環境科学科

・浅海干潟環境学研究室（2名）

・生物環境学研究室（1名）

農学部　応用生物科学科

・システム生態学研究室（5名）

・動物行動生態学研究室（2名）

連携団体：

東与賀まちづくり協議会、佐賀自然史研究会、日本野鳥の会佐賀県支部

活動内容：

①9/27に実施される東与賀中学校2年生を対象とした「東よか干潟の生物観察会」の打ち合せと調査方法の事前学習会を佐賀自然史研究会と共に行った。

②東与賀中学校2年生（90名程度）を対象に干潟の底泥環境、巣穴やシチメンソウの計数、底泥中のマクロベントスの採取、石膏を用いた巣穴の型どりを分担して行った。

中学生の干潟観察会

成果（学生教育の観点から）：

①事前学習会の実施により、当日中学生へ説明する調査法についての理解が深まった。

②中学生へ平易に説明するため、干潟の環境や生物に関する基礎知識の定着や、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力の向上が図られた。

■有明海学Ⅳによる有明海・干潟のグループ研究と成果発表

10～2月（全15回）　インターフェース科目「有明海学Ⅳ」

※1/26、2/2　グループ研究の成果発表

全学教育機構　インターフェース科目

・有明海学Ⅳ（40名）

活動内容：

インターフェース科目「有明海学Ⅳ」で、自然科学系と人文社会系の5つのテーマに学生を振り分け、後学期を通じて各テーマでグループ研究を行い、最後に成果発表会で発表した。

成果（学生教育の観点から）：

グループ研究を行うことにより、現地調査や、データの整理・解析などの理解が深まった。また、成果発表会を行うことで、プレゼンテーション資料の作成方法、構成、発表技法などの理解が深まった。

■干潟の生態調査で学ぶ地域環境

①11/5　東よか干潟での生態調査

②11/9　干潟の生物同定作業

①全学教育機構　インターフェース科目

・有明海学Ⅱ（39名）

農学部　生物環境科学科

・浅海干潟環境学研究室（6名）

②全学教育機構　インターフェース科目

・有明海学Ⅱ（40名）

活動内容：

①佐賀市の東よか干潟で、干潟底泥中のベントスの採取、干潟表面の巣穴の分布状況、干潟底泥の酸化還元環境のフィールド調査を実施した。フィールド調査では、6～7名を1グループとし、計6グループで分担・協働しながら作業を行った。

②11/7の東よか干潟の生態調査で採取したベントスの種の同定と調査データの取りまとめを図書館のラーニングコモンズで行った。

成果（学生教育の観点から）：

①フィールド調査により、干潟の基本的な生態調査に関する調査方法とその取りまとめ方を習得できた。また、調査の結果は、「干潟の環境と生態系」に関する一連の講義で適宜紹介したため、講義内容の理解が深まった。

②グループワークを通して、グループ内での役割分担やレポート作成の協働作業により、調査テーマや干潟環境への理解の掘り下げにつながった。

■小学生対象の東よか干潟観察会

①11/17　観察会の事前学習会

②11/18　干潟観察会

①農学部　生物環境科学科

・浅海干潟環境学研究室（3名）

②農学部　生物環境科学科

・浅海干潟環境学研究室（5名）

・生物環境学研究室（1名）

干潟の生態調査

農学部　応用生物科学科
・システム生態学研究室（4名）

連携団体：
東与賀まちづくり協議会、佐賀自然史研究会、日本野鳥の会佐賀県支部

活動内容：
①佐賀自然史研究会と共に、11/18に実施される東与賀小学校5年生を対象とした「東よか干潟の生物観察会」の打ち合せと調査方法の事前学習会を行った。
②東与賀小学校5年生（100名程度）を対象に干潟の底泥環境、巣穴やシチメンソウの計数、底泥中のマクロベントスの採取、石膏を用いた巣穴の型どりを分担して行った。

成果（学生教育の観点から）：
①事前学習会の実施により、当日小学生へ説明する調査法についての理解が深まった。
②小学生へ平易に説明するため、干潟の環境や生物に関する基礎知識の定着や、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力の向上が図られた。また、このような地域活動との連携を通して、地域の環境保全に関する実践的活動やキャリア教育の促進につながった。

■東よか干潟での野鳥観察

12/4　東よか干潟での野鳥観察
全学教育機構　インターフェース科目
・有明海学II（38名）
農学部　学部専門科目
・干潟環境学（11名）

小学生の干潟観察会

連携団体：日本野鳥の会佐賀県支部

活動内容：
日本野鳥の会佐賀県支部から講師を招き、東よか干潟で野鳥観察を行った。野鳥の種類や生態、野鳥を取り巻く干潟の流域環境について説明を受けた。

成果（学生教育の観点から）：
干潟の多様な生態系や干潟の環境保全及びワイズユースに関する思考力が深まった。

■干潟環境の学生実験

12/17　干潟環境の学生実験
全学教育機構　インターフェース科目
・有明海学II（38名）
農学部　生物環境科学科
・浅海干潟環境学研究室（6名）

活動内容：
干潟の基礎生産に寄与する底泥の付着性藻類の抽出及びその分析と、クリークから流入する懸濁物負荷量の測定を行った。

成果（学生教育の観点から）：
実験を通して、干潟の豊かな生態系を支える付着性藻類に関する理解が深まると同時に、干潟における物質循環に関する基礎知識が身に付いた。

鹿島市：

■泥干潟を実感する体験学習

5/21　鹿島市干潟体験学習
全学教育機構　インターフェース科目
・有明海学I（40名）

活動内容：
鹿島市の干潟体験学習を実施した。干潟体験では、実際に泥干潟に入り、泥干潟の環境や潟スキーなどの体験をし、泥干潟の生物の観察を行った。

成果（学生教育の観点から）：
泥干潟の環境を実体験することで泥干潟の色、におい、感触などを五感で体感し、後学期に開講する有明海学IIへの関心が深まると同時に、有明海学IIで行う干潟のフィールド調査の動機付けとなった。

■有明海の海洋実習

6/4　有明海学Ⅲでの海の実習

全学教育機構　インターフェース科目

・有明海学Ⅲ（40名）

活動内容：

有明海での実習を行った。実習では、有明海の水環境の調査と海底のベントス調査を行った。

成果（学生教育の観点から）：

海の現地調査の方法や、水環境データの整理・解析法の基礎知識が身に着いた。また、有明海学Ⅲで行う有明海の海域環境に関する講義内容の理解の促進に繋がった。

有明海の海洋実習

Ⅲ.授業科目・担当者一覧

■関連するインターフェース科目

「環境コース」ー「有明海学」プログラム

・有明海学Ⅰ：速水祐一・木村圭（低平地沿岸海域研究センター）、五十嵐勉・郡山益実（全学教育機構）、阿南光政（農学部）

・有明海学Ⅱ：郡山益実（全学教育機構）

・有明海学Ⅲ：速水祐一・木村圭（低平地沿岸海域研究センター）、郡山益実（全学教育機構）、阿南光政（農学部）

・有明海学Ⅳ：速水祐一・木村圭（低平地沿岸海域研究センター）、五十嵐勉・郡山益実（全学教育機構）、阿南光政（農学部）

「環境コース」ー「地域環境の保全と市民社会」プログラム

・地域環境の保全と市民社会Ⅰ：五十嵐勉（全学教育機構）

・地域環境の保全と市民社会Ⅱ：五十嵐勉（全学教育機構）、兒玉宏樹（総合分析実験センター）、宮島徹（工学系研究科）

・地域環境の保全と市民社会Ⅲ：兒玉宏樹（総合分析実験センター）、宮島徹（工学系研究科）、五十嵐勉（全学教育機構）

・地域環境の保全と市民社会Ⅳ：五十嵐勉（全学教育機構）、樫澤秀木（経済学部）、藤村美穂（農学部）

■関連する主な学部専門科目

農学部

・干潟環境学（郡山益実）

・卒業研究（郡山益実）

・卒業研究（五十嵐勉）

・実験水気圏環境学（郡山益実）

農学研究科

・浅海環境工学特論（郡山益実）

Ⅳ.関連する主な教育・研究・社会貢献業績

＜教員＞

（社会貢献等）

・郡山益実：「東よか干潟環境保全及びワイズユース検討協議会」、副会長、2015年11月～

・郡山益実：「東よか干潟環境保全及びワイズユース検討協議会」、拠点施設検討部会部会長、2017年2月～

（講演等）

・郡山益実：「有明海における干潟生態系について」、佐賀県立佐賀農業高等学校、2016年6月30日

・郡山益実：『東よか干潟における調査研究（仮タイトル）、「前海を考えるシンポジウム第5回　～有明海ラムサール条約湿地交流会～」』、鹿島市エイブル研修室、2017年3月5日

＜学生＞

・前崎桜樹・郡山益実：「東よか干潟高潮間帯域におけるマクロベントスの生息分布と季節変化」、平成28年度農業農村工学会九州沖縄支部大会、鹿児島市、2016年10月20日、優秀ポスター賞受賞

プロジェクト C 地域の高齢者及び子どものヘルスプロモーション促進に向けた学生の実践力育成プロジェクト

佐賀大学健康教室集合写真

Ⅰ.プログラムの概要

実施代表者
井上　伸一
（教育学部･教授）

■事業実施主体：文化教育学部

■連携部局：文化教育学部健康スポーツ科学講座、文化教育学部地域生活講座

■取り組む地域課題：

・地域の高齢者の健康増進と子どもの体力向上

■連携自治体等：

佐賀県、佐賀市、嬉野市、鹿島市、ＮＰＯ法人スポーツフォアオール

■教育カリキュラム：

・ヘルスプロモーション実習
・レクリエーション実習
・バイオメカニクス

■主なPBL･SL型教育の地域とテーマ（自治体別）：

佐賀市：

・佐賀大学における地域住民参加者と学生スタッフでの健康教室の開催。講義や演習等で学んだ運動プログラムを作成し、参加者に指導することにより学生の実践力を育成
・身体測定･体力測定の分析と評価
・骨密度の分析と評価

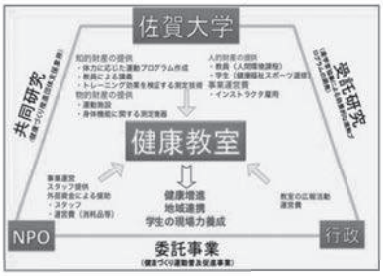
嬉野市・鹿島市：

・出張型の健康教室における学生オリジナルの運動プログラムの作成、指導、現場に即した指導力育成
・身体測定･体力測定の分析と評価
・骨密度の分析と評価

プログラムの目的

「地域の高齢者の健康増進と子どもの体力向上」を目的に、文化教育学部における実践力育成プロジェクトとして行います。地域の高齢者や子どもとの関わりを通して、学生の「指導力」、「企画運営力」、「課題解決力」、「コミュニケーション力」の育成を目指します。

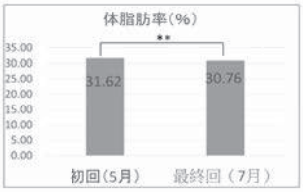
主な関連科目
◆学部専門科目（文化教育学部）
「ヘルスプロモーション実習Ⅰ・Ⅱ」担当：井上伸一、「レクリエーション実習」担当：松山郁夫
「健康福祉論」担当：山津幸司、「安全教育」担当：栗原淳、「バイオメカニクス」担当：井上伸一　他

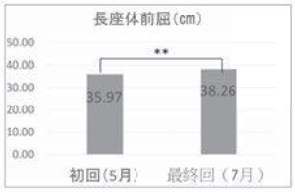


これまでの活動

■ 佐賀大学中高齢者のための健康教室

2004年から佐賀大学において地域住民参加者150名と学生スタッフ60名で健康教室を行っています。学生は演習等で学んだ運動プログラムを参加者に指導し、実践的な能力を身につけています。

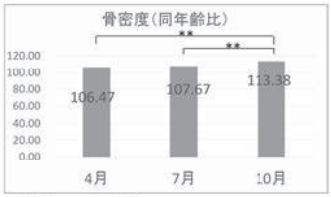




3ヶ月間の健康教室において、参加者の下肢筋力や柔軟性項目の向上が見られました。教室で得た測定データをもとに、より効果的な運動プログラムの開発にも努めています。

■ 嬉野市、鹿島市における出張健康教室

嬉野市、鹿島市において出張型の健康教室を行い、各地域の参加者（嬉野50名、鹿島80名）と学生およびNPOスタッフで活動しています。学生は身体測定・体力測定を分析評価、種々のトレーニングの効果を検証して、運動と健康について考究します。



3ヶ月間のトレーニングによって、多くの参加者は身体能力が向上し、体組成にも効果が表れています。これからも大学と自治体とNPO法人が協働して、地域の健康増進を促進していきます。

今後の予定

現在の地域における健康教室を継続、また新たな地域における事業の展開を行い、佐賀県全域におけるヘルスプロモーションの促進を行っていきます。

健康教室の流れ

血圧測定・問診
学生が血圧測定・問診します。参加者の方々が楽しく安全に運動を行えるよう、毎回教室が始まる前に測定します。学生に測定されて血圧が上がってしまうことも…。

身体・体力測定
健康教室参加前・参加後に身体測定、体力測定を行います。測定のなかには、体組成や骨密度など普段なかなか測れないものもあり、教室参加前後の記録を見比べて自分の頑張りがわかります!!いい結果が出たら自分をほめてあげてください。

ストレッチ・筋トレ
学生によるストレッチ・筋トレを行います。教室では年齢や希望に応じて班分けをしますので、各班のレベルに合わせたメニューで進行していきます。

リズムダンス
教室のメインプログラム!!インストラクターの大西真果先生によるリズムダンス。音楽のリズムに合わせて体を動かします。大西先生の掛け声と明るい音楽が流れだすと、みんな自然と体が動き出します。

レクリエーション
学生が考案したレクリエーション。「楽しい、嬉しい、悔しい」自分の感情を思い切り表現して、学生もスタッフも全員参加で楽しいレクを行います。

ミニ講義
大学の教員があなたの気になる健康、運動、栄養、生活等に関する短い講義を行います。いろいろな教員がそれぞれの専門分野について話します。

II.平成２８年度の活動

佐賀市：

■佐賀大学中高齢者のための健康教室

4/24-7/15（全15回）、10/21-12/16（全9回）

健康づくり推進団体支援事業における健康教室

文化教育学部人間環境課程

・ヘルスプロモーション実習II（25名）

・健康福祉論（6名）

教育学部学校教育課程

・ヘルスプロモーション実習（12名）

・安全教育（12名）

連携団体：NPO法人スポーツフォアオール

活動内容：

佐賀大学での健康教室において、参加者の運動プログラムの指導を行い、指導力やコミュニケーション力等の実践力の育成を行った。ストレッチや筋力トレーニングの運動プログラムを学生が構築し、高齢者に対する運動処方の実務的な能力を身に付けた。

成果（学生教育の観点から）：

世代の異なる高齢者とのコミュニケーション力を身に付けることができた。また、地域貢献事業に携わることにより、地域社会の一員としての意識が高まった。

班のメンバーに自己紹介している様子

鹿島市：

■鹿島市における出張健康教室

4/8-3/27（全69回）介護予防普及啓発事業における健康教室

骨密度を測定している様子

文化教育学部人間環境課程

・バイオメカニクス（6名）

連携団体：NPO法人スポーツフォアオール

活動内容：

出張型の健康教室において、学生自らが考えた運動プログラムの指導を行った。また参加者の体組成、骨密度の測定をし、分析・評価を行った。

成果（学生教育の観点から）：

出張型健康教室において高齢者に対する運動プログラムを計画立案することにより、運動処方に関する理解が深まった。また身体・体力測定を行うことで学生のヘルスプロモーションに対する知識の向上が見られた。

嬉野市：

■嬉野市における出張健康教室

5/10-8/23（全15回）、11/1-2/21（全15回）

ロコモ予防運動教室における健康教室

文化教育学部人間環境課程

・ヘルスプロモーション実習II（5名）

・バイオメカニクス（6名）

連携団体：NPO法人スポーツフォアオール

活動内容：

出張型の健康教室において、学生自らが考えた運動プログラムの指導を行った。また参加者の体組成、骨密度、活動量などの分析・評価を行った。

成果（学生教育の観点から）：

出張型健康教室に参加したことにより、嬉野市地域住民と学生との交流が深まった。また身体・体

柔軟性を測定している様子

力測定を行うことで学生のヘルスプロモーションに対する知識の向上が見られた。

Ⅲ.授業科目・担当者一覧

■関連する主な学部専門科目

文化教育学部

・ヘルスプロモーション実習Ⅱ（井上伸一）
・健康福祉論（山津幸司）
・バイオメカニクス（井上伸一）

教育学部

・安全教育（栗原　淳）
・ヘルスプロモーション実習（井上伸一）

Ⅳ.関連する主な教育・研究・社会貢献業績

＜教員＞

（講演等）

・井上伸一：「佐賀県課題解決支援講座」、平成28年11月9日、11月21日、12月7日、12月21日

＜学生＞

・甲斐亮介：「低体温と健康～生活習慣,精神状態が体温に及ぼす影響」、平成28年度佐賀大学文化教育学部人間環境課程卒業論文

プロジェクト D 地域との連携による地域経済政策に関わる学生主体の調査研究と成果の地域社会への還元

Ⅰ.プログラムの概要

実施代表者
戸田　順一郎
（経済学部･准教授）

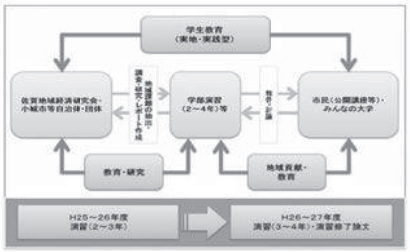
■事業実施主体：
経済学部（地域経済研究センター）
■連携部局：全学教育機構インターフェース「地域・佐賀学コース」

■取り組む地域課題：
・地域公共政策の立案
・地域産業の振興政策の立案
・地方政治の活性化
・地域ブランドの開発
■連携プロジェクト：A
■連携自治体等：
佐賀県（佐賀地域経済研究会）、佐賀市、唐津市、小城市

■教育カリキュラム：
・地域経済と社会
・演習

■主なPBL･SL型教育の地域とテーマ（自治体別）：
小城市：
・「地域資源を活用した市民の健康増進と地域活性化のための方策」をテーマとした調査研究
唐津市：
・まちづくりの観点を含めた各種防災計画の現状についての調査研究。
佐賀市：
・消費者の交通手段と地域資源（文化創造産業）の嗜好に基づく地域活性化に関する調査研究
・ＩＣＴ非利用者をターゲットとした実態把握と改善策の検討

学生自身が、地域の経済問題を調査して課題を見つけ、対策の検討とまとめを行います。地域が抱える課題への対策は、佐賀県下の市部の地域経済政策の立案主体からなる「佐賀地域経済研究会」の協力を得ながら行い、その成果は大学の公開講座等で発表して地域に還元します。



■ 地域資源を活用した市民の健康増進と地域活性化のための方策に関する調査研究［27年度］

石体でのフットパスコース探し

小城市における地域課題を題材とした調査研究（課題解決型学習(PBL)）。平成27年度からは、「地域資源を活用した市民の健康増進と地域活性化のための方策」というテーマについて、地域住民や小城市役所との協働のもと、同市内へのフットパスの導入に取り組んでいます。これまでは小城市石体（しゃくたい）地区において、コースづくりやイベントを実施してきました。

また、現在は地域住民のみなさんとともに小城のまちなかでのフットパスづくりにむけて取り組みをはじめています［経済学部戸田ゼミにおいて実施］。

石体まつりでのモニターツアー

先進地視察（熊本県美里町）

フットパス大学での事例報告

現地可能性調査（小城市）

市民向け講演会・体験会・交流会の企画・運営（小城市）

＜平成28年度の活動＞
4/10　石体まつりでのフットパスイベントの開催（@石体地区）
5/19　小城市観光ボランティアガイドの会との意見交換会（@桜減館）
6/23　小城市企画政策課との打合せ（@佐賀大学）
7/23　フットパス大学での学生による発表（@中間市）
8/10　小城市フットパス打合せ（@TEN）
9/14　桜岡校区区長会での説明（@ゆめぷらっと小城）
9/28　小城本町区長への説明、小城現地調査（@ゆめぷらっと小城）
10/16　伊万里フットパス研究会との石体フットパスコースのランプリング、意見交換（@石体地区）
小城フットパスづくりに向けた現地調査（@ゆめぷらっと小城、小城町地区）
10/19　小城市フットパス地域住民との打合せ（@ゆめぷらっと小城）
11/10　小城フットパスづくりに向けた地域住民との現地調査（@ゆめぷらっと小城、小城町地区）
11/26　フットパスコースづくり体験会（@ゆめぷらっと小城、小城町地区）

■ 赤松公民館での情報利活用普及活動

2012年度より「佐賀県高度情報化推進協議会」の実証研究として、情報通信技術のシニア層への利活用普及事業を開始しました。活動内容は、前年度の課題点の克服とニーズに対応し毎年変更しています。近年は、赤松公民館での情報通信技術に関するセキュリティー啓発などの講習会を行っています。

平成27年度は、赤松公民館主催の赤松文化祭に出店者として参加し、ICT非利用者をターゲットとした、ICT体験会及び相談会を実施しました。体験会では、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の方が参加できる体験、そして生活に身近で非利用者が実際に使用するイメージを持ってもらいやすいような体験になるように工夫を凝らし実施しました。

また、体験スペースの横にICT相談窓口を設け、スマートフォンやタブレットの基本的な使い方や機能の設定方法など、また小学生の親からは子どもにスマートフォンを使用させる際に感じている不安などについても相談を受けました。

iPadのカメラ機能の体験会

ICT相談会

■ 「地域防災と自治体」に関する調査研究（防災計画とまちづくり）［26-27年度］

防災は日本列島に住む私たちすべてが考えるべき大切な問題です。地方自治体も防災対策基本法により「地域防災計画」の策定が義務づけられ、その作業を開始しています。私たちは、高齢化が進む地域社会においてそれらがどのように進められているか、また地域防災計画の策定を町づくりにどのようにいかしているかを観点として調査を進めています。

27年度は、原発立地近接地域である唐津市の「ハザードマップ」の作成を、作成の過程、マップの特徴、マップの利活用のあり方にそくして調査しています。あわせて伊万里市でも同様の調査を実施しています［経済学部富田ゼミにおいて実施］。

唐津市役所でのヒアリング

今後の予定

小城市内において具体的なエリアを設定し、地域住民と協働により実際にフットパスコースの企画、策定、提案を予定。

Ⅱ.平成２８年度の活動

小城市：

■「地域資源を活用した市民の健康増進と地域活性化のための方策」に関する調査研究

地域住民、行政との協働によるフットパスを用いた地域活性化

①4/10　石体まつりでのフットパスイベントの開催（於　石体地区）

②5/19　小城市観光ボランティアガイドの会とのフットパスコースづくりに関する意見交換会（於　桜城館）。

③6/23　小城市企画政策課との打合せ（於　佐賀大学）

④7/23　フットパス大学での学生による発表（於中間市）

⑤9/14　桜岡校区区長会でのフットパスの取り組みに関する説明（於　ゆめぷらっと小城）

⑥9/28　小城本町区長への説明（於　小城本町）

⑦9/28　小城フットパスコースづくりに向けた現地調査（於　ゆめぷらっと小城）

⑧10/16　伊万里フットパス研究会との石体フットパスコースのランブリング、意見交換（於　石体地区）

⑨10/16　小城フットパスコースづくりに向けた現地調査（於　ゆめぷらっと小城、桜岡地区）

⑩10/19　小城市フットパス地域住民との打合せ（於　ゆめぷらっと小城）

⑪11/10　第1回小城フットパスコースづくり住民ワークショップ（於　ゆめぷらっと小城、桜岡地区）

⑫11/26　第2回小城フットパスコースづくり住民ワークショップ（兼 コースづくり体験会）（於　ゆめぷらっと小城、桜岡地区）

⑬12/11　第3回小城フットパスコースづくり住民ワークショップ（於　ゆめぷらっと小城、桜岡地区）

⑭1/13　フットパスコースづくりに関する先進地調査、研修（美里町）

フットパスイベントにおける石体コースの試歩の様子

⑮1/28　第4回小城フットパスコースづくり住民ワークショップ（於　ゆめぷらっと小城、桜岡地区）

⑯2/11　山梨大学、北九州市立大学とのフットパスコースづくりに関する合同ゼミ（於ゆめぷらっと小城、桜岡地区）

⑰3/20　第5回小城フットパスコースづくり住民ワークショップ（於　ゆめぷらっと小城、桜岡地区）

経済学部　経済学科　戸田ゼミ

・演習（3年・9名）

・基礎演習（10名）

①10名、②10名、③9名、④2名、⑤2名、⑥2名、⑦17名、⑧12名、⑨12名、⑩5名、⑪19名、⑫16名、⑬11名、⑭18名、⑮15名、⑯8名、⑰7名

活動内容：

小城市小城町石体地区および桜岡地区において、地域住民の方と協働しイベントやワークショッ

フットパスコースづくり住民ワークショップにおける議論の様子

プ等を開催してフットパスコースづくりや体制づくりに取り組んだ。

成果（学生教育の観点から）：

地域に入り地域住民や行政の方と接することで、多くを学ぶとともに地域に対する関心が深まった。また、地域における課題解決やまちづくりの難しさを知ることができた。

唐津市：

■防災対策による町づくり

①10月4日、11月15日　関連文献研究学習
②12月26日、1月10日　調査票作成
③2月16日　現地調査
④3月2日　成果発表会
①～④　経済学部　経済学科　富田ゼミ
・演習（4年・10名）
・演習（3年・4名）

活動内容：

唐津市における防災計画の作成に関する住民参加の実態調査および防災対策における自主防災組織・町内会のはたらきとその課題を調査した。

成果（学生教育の観点から）：

地域での調査を行う上での手法を学んだ。また、卒業論文（徳永一生「唐津市における防災対策の作成と住民参加」）としてまとめた。

佐賀市：

■赤松公民館文化祭でのICTリテラシ啓発発表及び調査分析

11/12　赤松公民館主催赤松文化祭

唐津市役所訪問

赤松文化祭りでのポスター説明

経済学部経営学科　羽石ゼミ
・演習（4年・4名）

活動内容：

佐賀市赤松公民館主催の赤松文化祭に出店者として参加し、身近なSNS事情と題したICTリテラシの啓発ポスター展示を行い、保護者のSNSに関する認識調査を実施した。また、赤松小学校と佐賀商業高校の児童生徒の利用状況調査を実施し、保護者と利用している児童生徒の認識の違いなどをまとめ、赤松公民館でポスター発表を行った。

成果（学生教育の観点から）：

SNSをはじめとするICTの保護者と児童生徒の認識の違いを明らかにし、その対策を考えるうえでの調査分析を行うことにより、調査・分析やそのための準備を学び大きな成長となった。

**■消費者の交通手段と地域資源（文化創造産業）の嗜好に基づく地域活性化に関する調査研究
－産業基盤と地域社会－**

1/31　外部講師による講義とディスカッション
経済学部
・地域政策（133名）
経済学部　経済学科　亀山ゼミ
・演習（3年・8名）
・演習（4年・3名）
・基礎演習（2年・7名）

連携団体：

九州電力佐賀支店（企画管理グループ）

3学年合同の演習におけるディスカッションの様子

活動内容：

地域政策において、LNGの輸送が国際物流においても地域経済においてもいかに重要であるか、また、エネルギー産業が地域で果たす役割を学習した。3学年合同の演習において、九州電力佐賀支社の社員の協力のもと実施した「佐賀の野菜と買い物場所」に関するアンケート調査をもとに、4年生が卒業論文の報告を行い、九州電力の社員とディスカッションを行った。その後、電力会社のCSRを通じた地域社会との関係、ならびに、社会人として働く際に必要なことを議論した。

成果（学生教育の観点から）：

企業と地域のあり方、企業が地域社会ではたす役割に関して、理解が深まるとともに、社会人と学生の購買行動の違いを知ることができた。さらには、社会人になる上で必要な考え方などでも意見交換ができ、個人差はあるが一定の学習効果は得られた。

Ⅲ.授業科目・担当者一覧

■関連する主な学部専門科目

・基礎演習・演習（3年）・演習（4年）（樫澤秀木・亀山嘉大・戸田順一郎・富田義典・畑山敏夫・羽石寛志・山本長次）
・地域政策（亀山嘉大）
・地域経済と社会Ⅰ（戸田順一郎）
・地域経済と社会Ⅲ（富田義典）

Ⅳ.関連する主な教育・研究・社会貢献業績

＜教員＞

（講演等）

・伊藤直之・戸田順一郎・田中尚人・萩尾寿隆：「フットパスコースづくりを活用した地域学習－小学校におけるシビックプライドの涵養をめざして－」、地理教育学会、2016年8月。

＜学生＞

・江崎・越智・比嘉・平山：「SNSトラブル増加の抑制における保護者へのICTリテラシ・情報モラル定着に関する実証研究」、平成28年度佐賀大学経済学部経営学科、卒業論文
・徳永一生：「唐津市における防災対策の作成と住民参加」、卒業論文
・山本一輝：「食材のブランド化による地域活性化－「佐賀野菜」ブランド確立への挑戦－」、平成28年度 佐賀大学経済学部経済学科 卒業論文
・森田鈴奈：「九州内自治体による中韓との姉妹都市交流の現状－佐賀の姉妹都市交流の課題に向けた提案－」、平成28年度 佐賀大学経済学部経済学科 卒業論文
・古場　望：「スポーツ参加市場の拡大と観戦行動－福岡・佐賀に住む佐賀大学生の意識調査から－」、平成28年度 佐賀大学経済学部経済学科 卒業論文

プロジェクト E 離島・山間地域における保健医療とQOL向上のための人材育成プロジェクト

学生によるヘルスプロモーションの様子

Ⅰ.プログラムの概要

実施代表者
杉岡　隆
（地域医療支援学講座・教授）

■事業実施主体：
医学部地域医療支援学講座（寄付講座）、
医学部社会医学講座予防医学分野

■連携部局：農学部生物環境科学科地域社会開発コース、全学教育機構インターフェース「地域・佐賀学コース」

■取り組む地域課題：
・「へき地」医療人材の育成
・離島や山間地域の保健医療とＱＯＬの向上

■連携プロジェクト：A

■連携自治体等：
佐賀県、佐賀市、唐津市、佐賀県医療センター好生館、佐賀市富士大和温泉病院、佐賀市三瀬診療所、唐津赤十字病院、七山診療所、唐津市小川島診療所、唐津市加唐島診療所、唐津市馬渡島診療所

■教育カリキュラム：
・地域枠入学生特別プログラム
「夏期地域医療実習（自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習）」
「佐賀県内基幹病院・中核病院実習」
「地域医療セミナー」
・インターフェース
「地域・佐賀学コース」：地域創成学プログラム

■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ（自治体別）：

佐賀県：
・佐賀県内の離島および山間部地区における宿泊型の地域医療実習の企画・支援
・離島及び山間部における医療対策、必要な資源について講義
・佐賀県立医療センター好生館、唐津赤十字病院における実習の企画調整

佐賀市：
・富士大和温泉病院、三瀬診療所における山間部地域医療実習の施設提供と講義

唐津市：
・小川島、加唐島、馬渡島における離島実習の企画・支援
・七山診療所実習の企画調整

離島や山間部で行う地域医療実習や佐賀県内の基幹病院実習を基盤として、地域における医療保健に関する教育プログラムを充実させるものです。地域・行政（佐賀県、佐賀市、唐津市 他）と連携し、地域の文化・伝統にも直接触れる機会を持つことで、地域に愛着を持った地域貢献の意欲を涵養することが目的です。

このプロジェクトにより育成された人材が、将来的には地域における保健医療活動に従事し、地域住民の保健医療およびQOLの向上に貢献することを目指します。

なお、以下のプログラムは医学部の正規カリキュラム（選択）として単位を付与しています。

■ 夏期地域医療実習（自治医科大学・佐賀大学・長崎大学医学部 合同夏期実習）

佐賀県唐津市の離島（小川島、加唐島、馬渡島）および山間部（唐津市七山、佐賀市三瀬）の診療所を中心に2泊3日の実習を行いました。実際に地域の医療・保健・福祉の現場に触れることで、地域医療に従事する医師の役割や責任について学習しました。また今年は「佐賀県の災害医療」をテーマに、佐賀県庁危機管理センターや佐賀大学病院のドクターヘリ、唐津赤十字病院を見学し、佐賀県医療センター好生館ではトリアージ机上訓練などの実習も行いました。

離島診療所　実習

災害時のトリアージ机上訓練 実習

各離島と三瀬地区で学生による地域住民のみなさまへのヘルスプロモーション（健康講話）を行いました。医療者として、医療情報をわかりやすく提供することは難しかったようですが、住民の方々からは良い評価をいただきました。

■ 佐賀県内基幹病院・中核病院実習

県内の地域医療の現状を把握し、大学病院などの専門診療との連携のあり方について学ぶことを目的にして、医学科1年時に県内の基幹・中核病院で実習を行いました。実習初日には、血圧測定実習や県内で活躍する佐賀大学OBの医師の話を聞き、実習に対するモチベーションが高まったようです。

血圧測定実習

実習の最終日は、実習で学んだこと、感じたことを共有し、地域医療が抱える問題点について話し合い、今後の学習目標をたてました。

県内の実習施設

■ 地域医療セミナー

年2回ほどのペースで、県内の地域医療の実情や問題に触れ、考えるためのセミナーを行っています。セミナー後には学生が講師や教員とディスカッションや交流する場も設けています。

今後の予定

県内の自治体と連携して、実際の地域医療の現場で医学実習を経験することにより、地域が抱える医療問題に直に触れることができました。

今後は、学生の地域医療に対する意識をさらに高め、学生みずから取り組むべき具体的な学習目標の設定と、ヘルスプロモーションなどの地域医療活動ができるようになることを目指します。

佐賀大学医学部
地域医療支援学講座

Ⅱ.平成２８年度の活動

佐賀県：

■地域枠入学生による早期臨床体験実習

9/5-9　地域枠入学生特別プログラム「佐賀県内基幹病院・中核病院実習」

医学部医学科 地域枠特別入学生および一般枠入学生

・地域枠入学生特別プログラム「佐賀県内基幹病院・中核病院実習」（28名）

連携団体：

佐賀県医療センター好生館、NHO佐賀病院、NHO嬉野医療センター、唐津赤十字病院、唐津市民病院きたはた、佐賀市立富士大和温泉病院、町立太良病院、伊万里有田共立病院、小城市民病院、大町町立病院、織田病院（鹿島市）、江口病院（小城市）、ひらまつ病院（小城市）、佐賀記念病院（佐賀市）

活動内容：

佐賀県内の地域基幹病院・中核病院で、1週間の参加型実習を行った。

成果（学生教育の観点から）：

医学部医学科1年次の早期に、地域の基幹病院・中核病院で実習を行うことで、地域医療に必要なスキルと地域のニーズに触れることができた。また、地域の医療者や住民からの医学生への期待を感じることにより、今後の学習のモチベーションを向上させ、学習目標を明確に立てることができた。

病院実習のまとめ

■離島及び山間部における地域医療実習と災害医療への取り組み

8/17-19　地域枠入学生特別プログラム「夏期地域医療実習（自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習）」

医学部医学科 地域枠入学生および一般枠入学生

・地域枠入学生特別プログラム「夏期地域医療実習」（14名）

連携団体：

佐賀県医務課、唐津市小川島診療所・加唐島診療所・馬渡島診療所、唐津赤十字病院、佐賀県医療センター好生館、佐賀市立富士大和温泉病院、佐賀市立国民健康保険三瀬診療所、佐賀市三瀬保健センター、七山診療所

活動内容：

実習には、自治医科大学学生8名、長崎大学医学部生4名を合わせた計26名が参加した。学生は4班に分かれて、唐津市の離島と佐賀市の山間部におけるへき地医療の現場を2泊3日の行程で見学した。学生は自分たちで協議して作成した医療に関するテーマについて、住民にむけてヘルスプロモーション（健康講話）を行った。また、県内の災害医療の取り組みについて、佐賀県庁危機管理センター、佐賀県医療センター好生館と唐津赤十字病院で実習を行った。

成果（学生教育の観点から）：

将来、佐賀県内の離島や山間部で医療を行うために必要な医療者としてのスキルと地域における

唐津市離島での地域医療実習

課題、ニーズを知ることができた。

学生自ら地域住民にヘルスプロモーションを行うことで、医療情報を伝えることの難しさとやりがいについて体験することができた。

県内の災害医療の現状や災害時における医療者や行政関係者の姿勢や環境整備、考えるべき地域課題について具体的に学習できた。

■熊本地震と佐賀の総合診療医

7/14　地域枠入学生特別プログラム「地域医療セミナー」

医学部医学科 地域枠入学生および一般枠入学生

・地域枠入学生特別プログラム「地域医療セミナー」（23名）

連携団体：佐賀大学医学部附属病院

活動内容：

平成28年4月に発生した熊本地震発生後、熊本市内の病院からの転院搬送患者13名のトリアージを佐賀大学医学部附属病院・総合診療部で担当した。この事例について、同部の多胡雅毅医師より「熊本地震時の佐賀大学病院への転院搬送患者受け入れの経験」について講義を行った。また、同地震発生後の熊本県益城町役場・避難所対策チームにおける支援活動に参加した佐賀大学医学部地域医療支援学講座の坂西雄太医師より活動内容について講義を行った。また講義後に質疑応答を行った。

成果（学生教育の観点から）：

災害発生時の医療支援や避難所運営における重要な役割を担うプライマリ・ケア医、総合診療医について、具体例をもとに概要を理解することができた。

■ソーシャル・キャピタルと健康格差

11/24　地域枠入学生特別プログラム「地域医療セミナー」

医学部医学科　地域枠入学生および一般枠入学生

・地域枠入学生特別プログラム「地域医療セミナー」（33名）

連携団体：

佐賀大学医学部附属病院、米国ハーバード大学大学院

活動内容：

社会疫学の世界的権威であるハーバード大学大学院のイチロー・カワチ教授を講師に招き、社会的背景やソーシャル・キャピタル（社会関係資本）などが健康に与える影響について講義を行った。

成果（学生教育の観点から）：

地域医療において住民の社会的背景やソーシャル・キャピタルなどの社会決定要因が健康に与える影響について、具体例をもとに概要を理解することができた。

地域医療セミナー講義風景

地域医療セミナー講義風景

Ⅲ.授業科目・担当者一覧

■関連する主な学部専門科目

・「生命科学の基礎C」（医学看護学研究の勧め）（杉岡　隆、坂西雄太）

■関連する主な学部専門科目

医学部

・Phase Ⅲ「Unit 1（地域医療）」（杉岡　隆、坂西雄太、黒木和哉）

・Phase Ⅲ「ユニット13（臨床入門）」（福森則男）

・Phase Ⅳ「臨床実習」（杉岡　隆、坂西雄太、福森則男、黒木和哉）

・Phase Ⅳ「地域医療実習」（杉岡　隆、坂西雄太、黒木和哉）

・Phase Ⅴ「地域枠入学生特別プログラム」

▷佐賀県内基幹病院・中核病院実習（杉岡　隆、坂西雄太、黒木和哉）

▷夏期地域医療実習（杉岡　隆、坂西雄太、黒木和哉）

▷地域医療セミナー（杉岡　隆、坂西雄太、黒木和哉）

・Phase Ⅴ「臨床系選択科目」

▷在宅医療・在宅ケア実習（杉岡　隆、坂西雄太）

▷地域包括ケア実習（杉岡　隆、坂西雄太）

▷地域家庭医療実習（杉岡　隆、坂西雄太）

・Phase Ⅰ「生活医療福祉学ー医療におけるチームアプローチのあり方ー」（堀川悦夫）

・Phase Ⅲ「ユニット12（社会医学・医療社会法制）」（原めぐみ）

Ⅳ.関連する主な教育・研究・社会貢献業績

＜教員＞

（論文等）

・Kurata T, Iwata S, Tsuda K, Kinoshita M, Saikusa M, Hara N, Oda M, Ohmae E, Arakai Y, Sugioka T, Takashima S, Iwata O. Physiological and pathological clinical conditions and light scattering in brain. Scientific Reports 6; 31354. 2016.

・大串昭彦，杉岡　隆．問題32,131,143．目でみるトレーニング第3集：67−68，277−278，303−304．2016.

（講演等）

・黒木和哉,堂込明子,坂西雄太,佐野雅之,山下秀一,杉岡　隆．同地域に連続し発生を認めたツツガムシ病の3例　第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会2016.6.11−12台東区立浅草公会堂・浅草ビューホテル・台東区民会館・東京都立産業貿易センター台東館

・江口幸四郎,福森則男,菊川　誠,伊藤こずえ,江口仁,倉田　毅,黒木和哉,坂西雄太,杉岡　隆．外来初診患者に対するプライマリ・ケア医の医療面接技法と患者の慢性疾患に対する自己効力感の変化の検討　第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会2016.6.11−12台東区立浅草公会堂・浅草ビューホテル・台東区民会館・東京都立産業貿易センター台東館

・久田祥雄,石丸幸太郎,原田陽介,中野浩文,佐々木英祐,杉岡　隆．ご存じですか?ANCA関連血管炎性中耳炎　2016.6.11−12台東区立浅草公会堂・浅草ビューホテル・台東区民会館・東京都立産業貿易センター台東館

・倉田　毅,福森則男,坂西雄太,黒木和哉,久田祥雄,堂込明子,徳永　剛,杉岡　隆．佐賀県内の全公立中学2年生を対象にした性教育活動の実態と知識の変化についての検討　第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会2016.6.11−12台東区立浅草公会堂・浅草ビューホテル・台東区民会館・東京都立産業貿易センター台東館

・坂西雄太，山本洋介，原めぐみ，福森則男，草場鉄周，田中恵太郎，杉岡隆，日本プライマリ・ケア連合学会ワクチンプロジェクトチーム，福原俊一．プライマリ・ケア医における公費助成制度の知識とワクチン接種推奨との関連　第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会2016．6.11−12台東区立浅草公会堂・浅草ビューホテル・台東区民会館・東京都立産業貿易センター台東館

・坂西雄太．シンポジウム みんなでつくろう地域ケアレシピ集・第2段.北海道幌加内町における任意接種ワクチンに対する公費全額助成の導入と医療者の啓発活動による接種率向上　第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2016,6,11-12　台東区立浅草公会堂・浅草ビューホテル・台東区民会館・東京都立産業貿易センター台東館

・堂込明子，多胡雅毅，上園英嗣，佐野雅之，坂西雄太，杉岡　隆，山下秀一．急性の鼠径部痛を繰り返し、NSAIDsにより速やかに改善した石灰沈着性腸腰筋炎の一例　第13回日本病院総合診療医学会学術総会　2016.9.16-17 品川プリンスホテル　アネックスタワー

・杉岡　隆、片岡裕貴、坂西雄太、佐々木彰、高田俊彦、竹島太郎、橋本忠幸、山本舜悟．臨床研究デザイン道場「診断の予測指標の作り方を学ぶ」第13回日本プライマリ・ケア連合学会秋季生涯教育セミナー 2016.11.7-8大阪

・坂西雄太．佐賀大学地域医療支援学講座の取り組み　第6回九州地域医療教育研究会 2016.4.2

・坂西雄太. 佐賀大学医学部生の入学時B型肝炎ワクチン接種時期の変更　日本医療マネジメント学会第15回九州・山口連合学会2016.9.16-17

黒木和哉．ドクターGの世界～臨床診断の流れ～　佐賀大学・大村高校ジョイントセミナー 2016.7.12

・坂西雄太. オトナのワクチン/アップデート　富士大和温泉病院予防医療セミナー　2016.12.8

<学生>

・荻野裕也,三島康大,荒木大夢,山口加恵,大石彩加,小林祐大.2016年度夏期地域医療実習（自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習）学生健康講話「熱中症」．唐津市加唐島診療所.2016年8月18日.

・江口紘平,犬塚諒子,渋木祥太,小柳貴史,古川慧月,松尾岬.2016年度夏期地域医療実習（自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習）　学生健康講話「熱中症予防」．唐津市小川島診療所.2016年8月18日.

・橋口公輔,龍千歩,牛島宏貴,中村和樹,羽生田菜月,古川壮真.2016年度夏期地域医療実習（自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習）学生健康講話「高血圧」．唐津市馬渡島診療所.2016年8月18日.

・古賀文崇,松浦洋,日高絹子,才田正義,新藤優里,森健史郎,松田和子,小川実里．2016年度夏期地域医療実習（自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習）　学生健康講話「腰痛」．佐賀市三瀬保健センター.2016年8月19日.

プロジェクト F

地域空間再生デザイン・プログラム

環アジア国際セミナー

Ⅰ.プログラムの概要

実施代表者
三島　伸雄
（工学系研究科・教授）

■事業実施主体：

工学系研究科（都市工学専攻）

■連携部局：全学教育機構インターフェース「地域・佐賀学コース」、農学部生物環境科学科地域社会開発学コース、医学部地域医療支援学講座、文化教育学部人間環境課程、全学教育機構・デジタル表現技術者養成プログラム、佐賀大学産学・地域連携機構（ゆっつら～と館）

■取り組む地域課題：

・中心市街地の活性化
・まちなか再生
・歴史的環境の再生と保全

■連携プロジェクト：A、J、L

■連携自治体等：

佐賀市、唐津市、嬉野市、鹿島市、小城市、NPO法人まちづくり機構ユマニテ佐賀、からつ大学交流連携センター、NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会、小城市中心市街地活性化協議会、学生サークル：コミュニティデザインクラブ

■教育カリキュラム：

・都市工学科・都市工学専攻専門教育：建築・都市デザイン・プログラムにおけるＰＢＬ/ＳＬ型フィールドワーク、Community based learning
・インターフェース
　「地域・佐賀学コース」：地域創成学プログラム

■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ（自治体別）：

佐賀市：

・まちなか居住のための地域空間の読解、空き家利活用に向けた調査・企画・提案・実施
・イベント空間の電飾デザイン、まちなか電飾に対する公共空間の制限の理解、企画、提案、実施

小城市：

・空き家の調査と利活用
・歴史的空間の調査

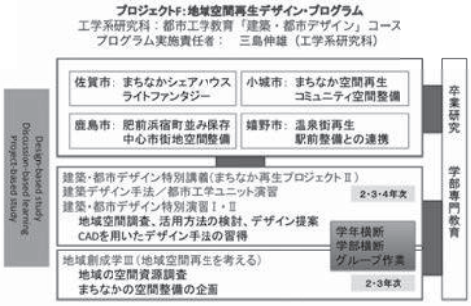
鹿島市：

・空き家の調査と利活用
・歴史的空間の調査、伝統的建造物などの空間利活用の企画・立案、デザイン提案
・駅空間の利活用提案

嬉野市：

・伝統的建造物の調査
・駅前空間の調査

「まちなか再生」「地域生豊かな空間創出」に向けて、地域空間再生デザインに資することができる人材を輩出することを目的とします。都市工学科・都市工学専攻の建築・都市デザイン関連科目を軸に、全学教育機構の「地域・佐賀学コース」「異文化理解コース」とも連携しながら、地域空間再生を目指します。



■ ライトファンタジー LED照明のデザイン参加（佐賀市）（西九州大学 プロジェクトJとの共同作業）

COTOCOの壁面デザイン

佐賀市の中心市街地活性化イベント「サガ・ライトファンタジー」の電飾作業を通じて、佐賀市の中心市街地活性化の取り組みや、LED照明を用いた公共空間電飾について学びました。平成27年度は、佐賀駅南口、駅前まちかど広場、土橋周辺、呉服元町の4箇所を対象にLEDを設置しました。オープニングセレモニーにも参加し、ハロウィンを楽しみました。＜学部2年生、3年生＞

ゆっつら～と館での話し合い

ミニバルーンのデザイン

駅前まちかど広場にて

■ 環アジア国際セミナーの実施（鹿島市）

2015年7月30日～8月3日、佐賀県鹿島市肥前浜宿の酒蔵や茅葺町家を貸し切って、日・韓・タイの建築・都市デザイン研究者や学生が集い、「グローバル社会における文化多様性と歴史的環境の保全活用 」について4泊5日で議論しました。学生たちは、肥前浜宿のまちの課題を調査し、提案物を作成し地域住民に発表しました。＜学部4年生＞

学生提案の作成作業風景（八宿公民館）

学生提案の発表（呉竹酒造）

■ 新幹線・嬉野温泉駅前計画立案（嬉野市）

PBL型設計演習として、嬉野温泉駅の計画提案を行いました。市長、嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会委員等が集まり、学生の提案に様々な質問を投げかけ、今後の計画について参考になったと大満足で帰られました。＜大学院1年生＞

学生提案の発表風景

嬉野市長の質問

■ まちなかの集住提案@TOJIN茶屋（佐賀市）

学生の発表

第16回コミュニティデザインカフェとして、佐賀市唐人の中低層集合住宅のデザイン提案を行い、その発表を行いました。地域から多くの参加者が集まり、まちなか居住による地域活性化について鋭い質問意見がありました。ぜひ実現を！という声が多くありました。
＜学部3年生＞

後藤・田口先生の解説

学生の発表

学生の発表

■ まちなか建築スケッチ

図学の授業で、学生が居住している「まちの間3号」の見学・スケッチを行いました。＜学部1年生＞

長崎街道に座り込んでスケッチ

今後の予定

学部専門科目を中心に大学院科目とも連動させながら、国際交流も図りつつ、地域に根ざした地域空間デザインを学ぶ専門教育プログラムの確立を図ります。

地域に積極的に足を運んで地域空間を考える学生を育て、地域再生・地域創生に貢献します。

II.平成２８年度の活動

佐賀市：

■ライトファンタジー

① 7/2　まちなか再生に関わる佐賀市役所の講義
② 7/20　LED電飾デザインの検討
③ 7/26　LED電飾デザインの具体化の検討
④ 8/6　竹狩り（西九州大学キャンパスにて）
⑤ 9/30　LEDスポット電飾用の竹灯篭制作
⑥10/15　LED電飾の現地制作
⑦10/16　LED電飾の現地仕上げ
⑧10/28　ライトファンタジーオープニングセレモニー
⑨ 1/13　LED電飾の撤去作業
①～⑨　理工学部都市工学科
・コース共通特別講義（まちなかI）（4名）
・コース共通特別講義（まちなかII）（45名）

連携団体：佐賀市商工観光課

活動内容：

①まちなか再生に関わる佐賀市のプロジェクト「四核構想」について講義を受けた（場所:佐賀市商工会館）。
②LED電飾のデザインイメージについて検討を行った。
③LED電飾について、実現性の観点などからチェックした。
④LED電飾のスポット照明としての竹灯篭を作るために、連携大学である西九州大学のキャンパスで竹狩りを行った。竹を切り出して適当な大きさに切り、佐賀大学に運んだ。

西九州大学での竹狩り

駅前まちかど広場におけるスポット照明

⑤スポット照明用の竹灯篭を制作した。
⑥スポット並びに植栽のLED電飾を現地で行った。
⑦スポット電飾並びに植栽電飾の仕上げ作業を行った。
⑧ライトファンタジーのオープニングセレモニーに西九州大学と参加し、パレードを行った。
⑨LED電飾の撤去作業を行った。竹などは焼却処分した。

成果（学生教育の観点から）：

LED電飾をまちなかに取り付ける時の注意事項（建築限界への配慮、固定）について学び、竹を作った電飾の可能性を明らかにすることができた。

なお、以上の成果を取りまとめて、修士2年古賀智之君が建築教育研究論文報告集に成果をまとめて発表した。古賀智之・渕上貴由樹・三島伸雄「学生のまちづくり参加能力向上に向けた評価尺度の開発」,建築教育研究論文報告集, No.16, pp.13-18, 2016.11

■佐賀よかとこの家「まちの間３号」

①10/17　まちなか視察とスケッチ
②1/16～2/15　まちの間3号のパース作成
理工学部都市工学科
・図学（9名）

連携学生サークル：

佐賀よかとこの家「まちの間３号」の学生住民

佐賀市内でのスケッチの様子

連携団体：

ＮＰＯ法人まちづくり機構ユマニテさが、佐賀市

活動内容：

①ＮＰＯ法人まちづくり機構ユマニテさがの伊豆氏による「佐賀市における活性化の取り組み」についての講義受講後、佐賀市中心市街地に位置する学生シェアハウス佐賀よかとこの家「まちの間３号」のスケッチ、および内外の視察を行った。図学で最終目標とするパースと自分の空間感覚とのギャップを認識した。

②図学の最終目標であるパースの作成を行った。

成果（学生教育の観点から）：

当初行ったスケッチと比較し、自分の空間感覚がいかに異なっていたかを実感することができた。また、佐賀の街中の活性化の取り組みを理解することができた。

■佐賀の集合住宅デザイン「門前に集まって住む」

①8/9　都市工学科の学生による建築デザイン提案の発表

②8/11　作品展示

理工学部都市工学科

・建築都市デザイン演習I（3年・30名）

連携学生サークル：コミュニティデザインクラブ

連携団体：

NPO法人まちづくり機構ユマニテさが、

日本建築学会佐賀支所

デザイン提案の発表風景（ゆっつらーと館）

活動内容：

①佐賀大学サテライトゆっつら～と館において、佐賀市松原神社の門前の新馬場通り一帯を敷地として、中低層集合住宅「門前に集まって住む」かたちを「物語」のある空間としてデザイン提案し、その成果発表を行った。

②佐賀大学サテライトゆっつら～と館で模型等を展示した。

フライヤー「門前に集まって住む」

成果（学生教育の観点から）：

佐賀のまちなかの歴史やその空間性を知る力、並びにその地歴に対して集まって住む空間を提案して発表する力を養うことができた。

小城市：

■地域創成学Ⅲにおける地域資源（建物等）活用プロジェクト「小城鍋島家と斎藤家」

①4/14、4/21、4/28、5/12、5/26、6/2、6/9、6/16、6/30、7/7　佐賀大学における講義と提案作成作業及び成果発表

②5/14　「小城鍋島家」と「斎藤家」の調査

③7/16　「小城鍋島家TEN」オープン1周年のイベントでの成果発表

全学教育機構　インターフェース科目

・地域創成学Ⅲ（40名）

連携団体：

アール・フォンテヌ（古川氏他）、小城鍋島家TEN、斎藤家、ie工房弘祐（鈴山氏）、小城市教育委員会文化課

活動内容：

①小城市中心市街地に立つ小城鍋島家住宅の改修活用1周年イベントと斎藤家の利活用に向けて、グループで提案作成作業を行った。利活用事例、佐賀の歴史の講義を行った上で、グループディスカッション、提案発表チラシの作成、発表を行った。

②提案物を作成する上での現地調査を行なった。

小城鍋島家ＴＥＮでのイベント風景

斎藤家の建物調査風景

③「小城鍋島家ＴＥＮ」オープン1周年のイベントで、提案したものを具体的に実践し、その成果発表を行った。

成果（学生教育の観点から）：

小城の町並みの特質や空き家の実態を知ることができた。また、それらを踏まえた空き家利活用提案やオープン1周年のイベント提案を行い、地域活性化の課題や住民意識を知ることができた。

鹿島市：

■環アジア国際セミナー（建築・都市デザインワークショップ）

①7/27　オリエンテーション、交流会

②7/28－8/2　鹿島市肥前浜宿でのワークショプ

③8/3　佐賀・福岡の建築視察

理工学部都市工学科、芸術地域デザイン学部

・建築都市デザイン特別講義（環アジア国際セミ

住民主催歓迎会における市長挨拶

学生の成果発表

ナー）（12名）※学生59名（韓国10名、タイ24名、ミャンマー6名、中国2名、チュニジア1名、バングラデッシュ1名、日本15名）、教員6名（韓国1名、タイ1名、ミャンマー1名、日本3名）

連携学生サークル：コミュニティデザインクラブ

連携団体：

鹿島市、肥前浜宿水とまちなみの会、浜町振興会、浜RUN舎、浜区長会、浜町婦人会、佐賀大学国際課

活動内容：

①韓国、タイ、ミャンマーから到着した教員・学生を迎えて、オリエンテーション並びに交流会を実施した。

②鹿島市肥前浜宿に移動して、ワークショップを実施した。初日は、現地オリエンテーション、住民主催の歓迎会。2日目から4日目は午前中に講義、午後に現地調査や提案物作成作業を行った。5日目に発表会を行い、夜は成果発表会を行った。

③武雄市図書館、筑後芸文館、太宰府などの建築視察を行った。

成果（学生教育の観点から）：

外国人学生と共同で建築都市デザインの作品を作ったことで、建築都市デザインに関わる地域空間再生デザイナーを目指す学生の国際感覚が育った。また、地方の歴史的町並みの空間実態やまちづくりの状況が理解できた。

■歴史的町並みにおける空き家等の利活用に関する調査

①10/23、11/30　歴史的町並みの空き家等の調査

②12/9　観光地域活性化セミナー

①～②　理工学部都市工学科

・卒業研究（15名）

連携団体：鹿島市、肥前浜宿水とまちなみの会

活動内容：

①鹿島市肥前浜宿を対象として、空き家等の利活用と観光動態に関する調査を行った。学生15名が調査に参加し、その結果を用いて今後の建物活用について議論した。

②鹿島市浜公民館で行われた観光地域活性化セミナーを実施し、これからの空き家利活用とその組織のあり方について議論した。地域から20名が参加した。

成果（学生教育の観点から）：

歴史的町並みにおける空き家の増加の実態と、今後の利活用のあり方について知識を得ることができた。

空き家等利活用に関する議論の様子

嬉野市：

■温泉街利活用調査

①8/29　事前調査

②9/5-6　嬉野温泉街利活用セミナー（台風で中止）

理工学部都市工学科、芸術地域デザイン学部

・卒業研究　4名（大学院生15名）

連携団体：嬉野市、嬉野温泉街組合

活動内容：

①温泉街利活用調査のため、事前調査を行った。

②1泊2日で現地調査と提案を行うための夏季セミナー実施予定だったが、台風のため中止となった。

嬉野温泉街事前調査

嬉野市：

Ⅲ.授業科目・担当者一覧

■関連するインターフェース科目

「地域・佐賀学コース」―「地域創成学」プログラム

・地域創成学Ⅲ：三島伸雄・後藤隆太郎・渕上貴由樹・田口陽子（工学系研究科）、五十嵐勉（全学教育機構）

■関連する主な学部専門科目

理工学部

・図学（三島伸雄・渕上貴由樹）

・基礎設計製図演習（後藤隆太郎・田口陽子・渕上貴由樹）

・建築・都市デザイン演習Ⅰ（後藤隆太郎・田口陽子）

・建築・都市デザイン演習Ⅱ（平瀬有人・渕上貴由樹）

・都市工学ユニット演習（建築・都市デザイン）（三島伸雄・中大窪千晶）

・デザイン手法分析（平瀬有人）

・建築都市デザイン特別講義（三島伸雄・平瀬有人）

・コース共通特別講義（三島伸雄）

・建築環境設計特別演習（小島昌一・中大窪千晶）

Ⅳ.関連する主な教育・研究・社会貢献業績

＜教員＞

（論文等）

・古賀智之,渕上貴由樹,三島伸雄:学生のまちづくり参加能力向上に向けた評価尺度の開発、第16回建築教育シンポジウム、建築教育研究論文報告集、日本建築学会、pp. 13-18, 2016.11

・M.R. Derbel, Y. Sumida and N. Mishima: COMPARATIVE ANALYSIS OF DIFFERENT LANDSCAPING APPROACH IN A TRADITIONAL AREA FROM THE PERSPECTIVE OF ARCHITECTURAL INSERTION, Proceedings of the 10th International Symposium on Lowland Technology, pp. 309-316, 2016.9.

・Yutaro Hidaka, and Nobuo Mishima: LOCATION PLANNING OF TEMPORARY EVACUATION AREAS ANALYSIS FOR DISASTER PREVENTION TOWN CONSIDERING PROBABILITY OF RUBBLE FLOW AND PROBABILITY OF STREET BLOCKADE, Proceedings of the 10th International Symposium on Lowland Technology, pp. 336-341, 2016.9.

・S. Siewwuttanagul, T. Inohae and N. Mishima: THE URBAN SPATIAL DEVELOPMENT POTENTIAL ASSESSMENT BY THE STUDY OF URBAN CENTRALITY ANALYSIS, Proceedings of the 10th International Symposium on Lowland Technology, pp.379-384, 2016.9.

・Yutaro Hidaka, Nobuo Mishima, Hiroshi Wakuya, Yasuhisa Okazaki, Yukuo Hayashida, Keiko Kitagawa, Sun-gyu Park, Yong-sun Oh: An evacuation route study based on probability of street blockade and risk of refuge place in a traditional lowland town, Proceedings of International Conference on Convergence Contents, pp. , 2016.12.

・Yumi Sumida, and Nobuo Mishima: A Study on System for Reuse of Vacant Houses of a Historic

Town by an Intermediate Organization viewing from Habitants' Perception, Proceedings of 4th International Conference on Civil and Urban Engineering, 2017.3 （採録決定）

・Shintaro Iwao, Nobuo Mishima, Hideo Tomita: Characteristics of the Two-storied Japanese-style Wooden Gate designed by Architect Kingo Tatsuno in Takeo Onsen, Proceedings of 4th International Conference on Civil and Urban Engineering, 2017.3 （採録決定）

・Haruka Masumori, Nobuo Mishima, and Tomoyuki Koga: Development of LED illumination work at a town center in collaboration of students from different fields, Proceedings of 4th International Conference on Civil and Urban Engineering, 2017.3 （採録決定）

・Y. TAGUCHI, T. MORIYAMA and Y. KARASAWA, "Complexity and Integration of Non-square Residential Works in Japanese Contemporary Architecture", Proceedings of 11th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, B-18-6 (2016.9)(Sendai)

（作品等）

・平瀬有人、平瀬祐子、富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー、日本建築学会作品選集2017、2017年3月（予定）

（受賞等）

・平瀬有人、平瀬祐子、富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー、JIA日本建築家協会優秀建築選、2016年6月

・平瀬有人、平瀬祐子、富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー、日本建築美術工芸協会AACA賞芦原義信賞〈新人賞〉、2016年12月

・平瀬有人、平瀬祐子、富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー、平成28年日本建築士会連合会賞優秀賞、2016年10月

・平瀬有人、平瀬祐子、富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー、グッドデザイン賞2016、2016年10月

（総説など）

・田口陽子・後藤隆太郎・地域デザイン特別演習有志, "Adaptive Re-use in Arita"（2016.12）（佐賀大学都市工学専攻・日蘭建築文化協会）

・田口陽子, "アムステルダム北地区のDe Ceuvelにおけるクリエイティブ・コミュニティの形成", 『居住文化とミュージアム –ネットワークでつなぐ新しい博物館のかたち　建築計画編-』,2016年度日本建築学会大会（九州）建築計画部門研究協議会資料,pp.84-87（2016.8）（日本建築学会）

（講演等）

・三島伸雄：「茅葺町家が連なる歴史的町並みまちづくりと防災研究～佐賀県鹿島市肥前浜宿での取り組み～」、2016年6月7日、福岡県建築住宅センター

・三島伸雄：「佐賀のまちづくり、2017年7月24日」、柳川市民の会

・三島伸雄：「歴史的地方都市の地震脆弱性とICT地域防災デザイン研究」、2017年8月31日、第32回ファジィシステムシンポジウム

・三島伸雄：「佐賀でのまちなか再生と実践例　失敗と成功」、2017年10月1日、下関市、

・三島伸雄：「Conservation of Cultural Diversity in Hizenhamashuku」、2017年11月26日、鹿島市肥前浜宿

・三島伸雄：『佐賀を知ろう・新しい佐賀を創ろう「都市の把握」』、2017年1月11日、佐賀大学（コンソーシアム佐賀主催）

・三島伸雄：「肥前浜駅と伝建地区」、2017年1月26日、鹿島市東部中学校

・田口陽子・森山拓弥・柄沢祐輔：「非整形住宅作品における複雑性と統合性 －現代日本の非整形住宅作品における空間設計手法(2)－」、2016年8月、福岡大学

・平瀬有人：「FHNI小田部保育園」、2016年8月、福岡大学

＜学生＞

平成28年度佐賀大学理工学部都市工学科卒業論

文、○卒業制作

・貞方惇来：「全天日射量の直散分離と直達日射実測値および天空画像から検討する佐賀市における日射の特徴に関する研究」
・豊永愛：「ストレス指数及び血圧の変動に基づく浴室内活動が人体に与える影響の研究」
・濱田恵子：「放射暖房設備を有する住宅における温熱環境および熱的快適性の実態調査」
・平野倖大：「ストレス指数を用いた着衣条件の違いによる熱的快適性の検討」
・生武未乃莉：「ディープラーニングを用いた景観画像分類の可能性」
・清田一：「VDT作業時における照度の違いが脳血流に及ぼす影響」
・松本玲奈：「緑地空間が脳血流に与える影響に関する基礎的研究」
・和田基：「昼光利用を目的とする多目的遺伝的アルゴリズムを用いたブラインドの最適形状の提案」
・安田貴俊：「国立公園に立地する近代要塞遺跡からの眺望改善に関する研究」
・八藤丸貴大：「海の中道海浜公園基本設計にみる環境設計家中村善一のデザイン思考に関する研究」
・山口陽平：「受け入れ基盤の弱い歴史的町並みにおける民泊・民宿の可能性　－団体宿泊者・住民・観光業者・観光客の四者意向分析－」
・閔羅賢：「街灯照度分布と居住者意識からみた歴史的町並みの防犯照明設置課題に関する研究」
・市丸龍：「移住者を受け入れる中山間地域の取り組みと生活環境－佐賀市古湯地区の実態調査から－」
・井上尚哉：「道路整備との関係に着目した旧宿場町の地区及び敷地空間の変容特性－長崎街道牛津宿を対象として－」
・深江大貴：「低平地における微高地に依拠した減災手法－牛津川沿岸部の集落を対象に－」
・本山雄馬：「地方小都市における郊外住宅地の住要求に関する研究－小城市牛津町を対象として－」
・大坪知奈：「佐賀大学附属図書館のラーニング・コモンズにおけるサインの改良提案」
・古賀奈々：「有田における文化芸術による空き家活用の課題と可能性」
・土井富夏城：「近現代オランダの包囲型集合住宅における断面構成」

○西諄子：「＋PLUS～友ヶ島の戦争遺跡において～」
○広谷洸多：「酢壺を廻る小径」
○荒木達也：「街宅創り－場所に居坐わる継ぎの住まい－」
○横尾允徳：「Cultivating Public Space　－福岡市青果市場跡地再生計画－」

（講演等）

・住田裕美・三島伸雄・渕上貴由樹：「歴史的町並みの住民認識からみた中間組織による空き家利活用管理体制」、2016年8月、福岡大学
・古賀智之・渕上貴由樹・三島伸雄：「PROGを採用した学生のまちづくり参加能力向上の分析手法に関する研究」、2016年8月、福岡大学
・埋金卓司・三島伸雄・渕上貴由樹：「韓国安東市河回村における延焼予測からみた避難経路立案」、2016年8月、福岡大学
・増森遥香・渕上貴由樹・三島伸雄：「異なる専門分野の学生によるまちなかLED電飾の共同制作プロセス」、2016年8月、福岡大学
・日高祐太朗・三島伸雄・渕上貴由樹：「道路閉塞確率からみた歴史的町並みの一時避難場所の検証」、2016年8月、福岡大学
・廣橋碧・渕上貴由樹・三島伸雄：「地目・等級からみた開墾会社永沢社による入植地整備　『明治三十二年　土地臺帳　印旛郡八街村八街』を資料として」、2016年8月、福岡大学
・副田和哉、平瀬有人：「全周パノラマ画像を用いた空間の記述法に関する研究 視覚情報の定量化による佐賀クリーク集落の空間特性」、2016年8月、福岡大学
・宮野弘詩、平瀬有人：「育まれる建築 再帰的環境

文脈による建築群の設計」、2016年8月、福岡大学

・荒牧優希、副田和哉、平瀬有人：「Lattice APARTMENT 第11回「新・木造の家」設計コンペティション出展作品」、2016年8月、福岡大学

・今利育美、副田和哉、平瀬有人：「ランドマークとしてのバルーントイレ 佐賀市嘉瀬川バルーントイレ改修プロポーザル応募作品」、2016年8月、福岡大学

・安武佑馬・田口陽子：「Circular Art Network －「アート」の循環が生み出すものづくりの生態系－」、2016年8月、福岡大学

・坂本明文・田口陽子：「学生のシェア居住のニーズに基づいた空き家活用提案 －有田町内山地区の旧江越家住宅を対象として－」、2016年8月、福岡大学

・森山拓弥・田口陽子・柄沢祐輔：「非整形住宅作品における変形方向と位相関係 －現代日本の非整形住宅作品における空間設計手法(1)－ 」、2016年8月、福岡大学

プロジェクト G アグリ資源の多様性を活用したアグリ医療及び機能性食品の開発プロジェクト

アグリセンターの視察と研修

Ⅰ.プログラムの概要

実施代表者
上埜　喜八
（農学部･准教授）

■事業実施主体：
アグリ創生教育研究センター、医学部

■連携部局：文化教育学部教育実践総合センター、農学部応用生物科学科生物資源開発学コース

■取り組む地域課題：
・アグリ医療やセラピー教育の開拓と普及
・機能性食品の開発とそれに関わる人材の育成

■連携プロジェクト：H、K

■連携自治体等：佐賀市

■教育カリキュラム：
・遺伝資源フィールド科学実習

■主なPBL･SL型教育の地域とテーマ（自治体別）：

佐賀市：
・アグリ資源の新しい活用を図るための人材育成教育プログラム作成
・ほ場のユビキタス化による、障がい者、家畜、支援者等の行動の遠隔追跡、モニタリング等の科学的実施
・機能性食品開発に係る産学官連携事業の実施

佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センターでは、食料資源として利用されている家畜や農産物の多様的活用を目的に、アグリ医療や機能性食品の開発に応用するプロジェクトを立ち上げ、農学部、医学部、文化教育学部と共同で研究教育の企画推進を行っています。

関連授業科目
資源循環フィールド科学実習I,II
資源循環フィールド科学演習I,II
植物代謝解析学実験I, II、
食料と生活I,IV、
資源循環生産学概説ほか

■ 新しい機能性食品としての微生物発酵茶製品の成分解析

発表者：佐賀大学大学院農学研究科1年　臼井彩夏

紅富貴(左) 黒麹茶(中) 米麹紅茶(右)

の後発酵茶は、地域に根ざした自然発生的な微生物を利用して種々様々なるのが現状である。

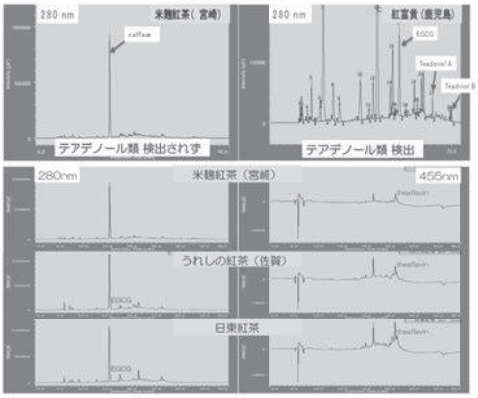
紅富貴・黒麹茶の製法(上) 米麹紅茶の製法(下)

目的

近年、新しい機能性食品として注目されている微生物制御発酵茶の開発を目的に、九州地域で販売されている発酵茶製品について、その成分解析を行い、機能性成分による効能の有用性を調査した。特に、抗メタボリックシンドローム成分として佐賀大学農学部が発見したテアデノール類を中心に分析し、発酵茶製品の機能性成分に基づく商品価値について分析した。

材料・方法

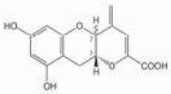
今回、*Aspergillus* を発酵処理に用いた微生物制御発酵茶である紅富貴(鹿児島産)と黒麹茶(福岡産)、また、紅茶に米麹処理をした米麹紅茶(宮崎産)を分析材料とした。さらに、酸化発酵茶であるうれしの紅茶（佐賀産）についても他の紅茶との成分比較を行った。分析にはHPLCを用い、EGCGなどのカテキン類、フラボノイド類、微生物制御発酵茶の特有成分であるテアデノール類、紅茶の特有成分であるテアフラビン類について分析を行った。



米麹紅茶では、EGCGが酸化され、テアフラビン類が生成しているが、含量は他の紅茶より少ない→米麹により紅茶ポリフェノール類が代謝されている？

❖ テアデノール類 とは

微生物発酵茶の特有成分。単一の*Aspergillus*の酵素反応により EGCG (ガレート型カテキン)から生成される。脂肪低減、肺癌の転移抑制、美白作用など、様々な健康効果が認められている。



teadenol A (2, 3-*cis*)
teadenol B (2, 3-*trans*)

日本生薬学会第62回年会(2015年9月11日)にて発酵茶新規成分について発表しました。

佐賀・茶学会第3回研究発表会(2015年11月28日)にて発酵茶成分について発表しました

発酵茶成分に関する成果が国際学術雑誌に掲載されました。

結果・考察

紅富貴と黒麹茶からはテアデノール類が検出された。一方、発酵段階でEGCGが減少していた米麹紅茶からはテアデノール類は検出されなかった。また、米麹紅茶はEGCGが酸化され、テアフラビン類が生成されたが、米麹の代謝により他の紅茶製品よりも含量が少なかった。結果として、紅富貴や黒麹茶は、日常的に飲むことでメタボリックシンドロームの予防が期待され、米麹紅茶は、苦みが少なく、嗜好性に特化した発酵茶であると考えられる。

今後の活動予定

佐賀産の新しい微生物制御発酵茶の生産や、微生物発酵茶を活用した食品、飲料の試作において必要となる、オリジナルな機能性成分の分析技術について研究します。

■ アグリ医療の開発

農学部を中心に医学部や教育学部と連携して、家畜の力を借りたアグリセラピーについて「アグリ医療部門」で取り組んでいます。西九州大学の学生や発達障がい児に体験をしてもらい、アグリ医療プログラムの開発を進めています。

■ キクイモを使った機能性食品の開発

アグリセンターを中心に、企業や自治体等と協働で、キクイモの栽培方法の研究や機能性の分析、商品開発などを行っています。キクイモは、血糖値の上昇を抑える成分を多く含む注目の機能性食品の原料です。

II.平成２８年度の活動

佐賀市：

■機能性食品に関する研究発表

6/4、11/12　茶に関する学会・研究会の開催

農学部　応用生物科学科

・植物代謝解析学実験I（2名）

・植物代謝解析学実験II（2名）

インターフェース科目「食料と生活Ⅳ」（40名）

連携団体：

佐賀大学茶の文化と科学研究所、佐賀･茶学会

活動内容：

佐賀県茶業試験場の研究者、茶企業の経営者、茶業関係者や一般人が参加する茶に関する研究発表会を6月と11月に佐賀大学農学部で開催した。

成果（学生教育の観点から）：

農学部植物代謝解析学研究室と全学教育機構インターフェース科目「食料と生活Ⅳ」の受講生が、学会ならびに研究発表会に参加し、機能性食品開発の実際について学び、研究に携わる企業情報を収集した。また、参加企業や佐賀県庁職員等との情報交換により、地元就職に関する貴重な情報を得ることができた。

茶に関する研究発表会　受付の様子

■アグリ医療に関する講義の実施

6/22・6/29　アグリ医療に関する講義

全学教育機構「障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム」科目

・高齢者・障がい者の生活・就労支援概論（同期型遠隔授業）

（本庄キャンパス216名、鍋島キャンパス13名）

活動内容：

「障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム」の必須科目である「高齢者・障がい者の生活・就労支援概論」のなかで、アニマルセラピーおよびアグリ医療開発について講義を行った。

成果（学生教育の観点から）：

医学部と農学部が連携して行っているアグリ医療開発のなかで、高齢者や障がい者の支援に農業の現場を活用する新たな取り組みがあることについて、理解を深めることができた。これにより、将来、高齢者や障がい者の就労を支援するために必要な知識を身に付けることができた。

アグリ医療に関する講義を同期型遠隔授業で実施

■作業療法学専攻学生の現場視察と研修の実施

6/29 西九州大学プロジェクトH連携事業（アグリセンター視察、研修）

西九州大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻（2年生）

・基礎作業学演習Ⅳ（園芸）（36名）

活動内容：

園芸療法の授業の一環として、西九州大学の学生が参加し、アグリセンターの現場視察、動植物との触れ合い体験を含む現場講義および研修を行った。

成果（学生教育の観点から）：

アグリセンターでの動植物とのふれあいや作業体験を通して、「生き物」「命」を扱うことの大切さ

や難しさを学び、農業および畜産業の現場において、それらを用いた医療的なリハビリテーションの可能性について検討することができた。

家畜との触れ合いでは牛のブラッシングを体験

■一般市民向け公開講座の実施

8/27・11/26・12/3・12/10　公開講座「手打ち蕎麦が出来るまで　～種まきから蕎麦打ちまで～」
農学部生物環境科学科
・資源循環フィールド科学実習（11名）

活動内容：

一般向け公開講座の一環として、アグリ創生教育研究センターの有機圃場において、蕎麦の栽培（播種、収穫、脱穀、製粉、蕎麦打ち、試食）を行い、有機蕎麦の栽培から蕎麦打ちの技術までを学んだ。

成果（学生教育の観点から）：

有機栽培の蕎麦を播種から試食まで体験することによって、技術だけではなく、環境、食の安全・安心について考える事が出来た。また、一連の栽培を通した学生と公開講座受講生との交流は、食育の観点からも良い体験となった。

■農作物の収穫体験を基にした情操教育プログラム

10～11月（全6回）
アグリ創生教育研究センターにおけるイモ掘り体験
農学部生物環境科学科
・資源循環フィールド科学実習（11名）

活動内容：

農学部附属アグリ創生教育研究センターにおいて、イモ掘り体験を行い、園児や父兄、引率者など延べ731名が参加した。

成果（学生教育の観点から）：

農作物の収穫体験を通じて、学生と地域住民との交流が深まるとともに、農業のアグリ医療へと発展した取り組みを学ぶことができた。

■発達障がい児支援プログラム開発

10/30　発達障がい児との農業体験・動物とのふれあい体験
・文化教育学部（6名）
・農学部生物環境科学科資源循環生産学コース（2名）

活動内容：

アグリセラピーの一環として、特別支援学校の生徒（発達障がい児）を対象に、家畜とのふれあい体験、サツマイモ掘り体験を実施した。最後に焼き芋を作り、皆で味わった。

成果（学生教育の観点から）：

セラピーの対象となる子どもたちと共に活動を行うことで、活動が子どもたちに与える影響について実証的な検証を行うことができ、発達障がい児支援のための新たな学習題材の選定や支援プログラム開発に向けた貴重な体験をした。

ヤギを散歩させて家畜と触れ合う

■機能性食品開発に向けたＰＲ活動

①11/11、12/6　PR動画の撮影

農学部　生物環境科学科

・資源循環フィールド科学演習I（4名）

・資源循環フィールド科学演習II（4名）

活動内容：

機能性食品としてキクイモを活用した商品の開発に向け、実施体制の整備や今後の方針に関する打合せ、原料のPR計画などを検討した。また随時進捗状況等について意見交換を行った。

成果（学生教育の観点から）：

社会への情報発信を行うに当たり、情報の伝え方やまとめ方について考えるきっかけとなった。また、取材対応等を通して社会における広報活動の流れについても理解することができた。

PR動画撮影の様子

■アグリ医療開発の実践

11/26、12/10、12/26、1/9、1/15、1/21

ヤギを用いた動物介在介入の効果検証実験

農学部生物環境科学科資源循環生産学コース

・卒業論文（1名）

連携団体：佐賀市手をつなぐ育成会 笑育舎

活動内容：

ダウン症候群の患者に対する、家畜（ヤギ）を利用した動物介在介入を体験し、様々な評価法による効果の判定を行った。

成果（学生教育の観点から）：

アグリ医療に関する取り組みについて、実際の療法と検証実験を体験することができた。

ダウン症候群患者における検証実験の様子

■収穫物を通じた地域との交流

11/30　アグリ創生教育研究センターにおける収穫感謝祭の実施

農学部生物環境科学科

・資源循環フィールド科学実習（11名）

活動内容：

農学部附属アグリ創生教育研究センターにおいて、収穫感謝祭を開催し、学内外から117名が参加した。

成果（学生教育の観点から）：

収穫物を通して学生と地域との交流を図ることができた。学生は農業を活用した社会貢献イベント開催の可能性を知ることができた。

■フィールドでの心身機能測定の実施と考察

12/8～1/19　アグリセンターでの心身機能測定

医学部 医学科

・医療心理学・生活医療福祉学　合同実習（106名）

活動内容：

医学科生が農学部附属アグリ創生教育研究センターに出向き、センターの活動概要やアグリセラピーの主旨や目的について理解すると共に、フィールドでの心身機能の測定を行い、その手法や問題点について考察を行った。

成果（学生教育の観点から）：

医学科生がフィールドでの測定を体験することで、

将来の赴任地でのデータ取得の必要性と技術的問題や環境の影響について理解することができた。

■支援施設との取り組み

12/20　佐賀県生活自立支援センター職員との意見交換

連携団体：公益社団法人佐賀社会福祉士会 佐賀県生活自立支援センター

活動内容：

佐賀県生活自立支援センターは佐賀県より委託を受けて「自立相談支援事業」および「就労準備相談支援事業」を実施しており、それらの事業における協力体制について意見交換を行った。

成果（学生教育の観点から）：

アグリ創生教育研究センターにおいて、農業の現場を利用した自立支援プログラム構築を進めていく中で、学生の参加が可能であり、実際の現場を体験できる体制が構築可能であることを確認した。

■機能性食品開発に係る行政・地域生産者・企業との連携

①1/7～9　スーパーでの試食PR

②1/24　企業との打合せ

③2/ 1　さがを創る交流会における試食・PR

農学部　生物環境科学科資源循環生産学コース

・資源循環フィールド科学演習I（4名）

・資源循環フィールド科学演習II（4名）

活動内容：

機能性食品としてキクイモを活用した商品の開発に向け、原料のＰＲ計画などを検討し、試食ＰＲを実施した。また、随時進捗状況等について意見交換を行った。

成果（学生教育の観点から）：

消費者や生産者と直接関わることで、それぞれの立場からのニーズや認知度などについて知ることができ、商品を普及・ＰＲするといった就職活動等に向けた社会勉強となった。

スーパーでの試食ＰＲ

Ⅲ.授業科目・担当者一覧

■関連するインターフェース科目

「生活と科学コース」－「食料と生活」プログラム

・食料と生活Ⅰ：鄭紹輝・江原史雄・福田伸二・松本雄一

・食料と生活Ⅳ：石丸幹二・光富勝・光武進

■関連する主な学部専門科目

農学部

・資源循環生産学概説（上埜喜八・江原史雄・福田伸二・松本雄一他）

・科学英語（上埜喜八・江原史雄・福田伸二・松本雄一他）

・資源循環フィールド科学演習I（上埜喜八・駒井史訓・江原史雄・福田伸二・松本雄一）

・資源循環フィールド科学演習II（上埜喜八・駒井史訓・江原史雄・福田伸二・松本雄一）

・卒業研究（石丸幹二・上埜喜八・江原史雄・福田伸二・松本雄一他）

・卒業研究（石丸幹二・上埜喜八・江原史雄・福田伸二・松本雄一他）

・植物代謝解析学実験I・II（石丸幹二）

医学部

・医療心理学・生活医療福祉学合同実習（堀川悦夫・松尾清美）

Ⅳ.関連する主な教育・研究・社会貢献業績

＜教員＞

（論文等）

・石丸幹二:植物組織培養によるポリフェノール類の生産．ポリフェノール:機能性成分研究開発の最新動向（シーエムシー出版,波多野力ら編集）,pp.109－115, 2016

（講演等）

・Kanji Ishimaru:New phenolic compounds from Camellia sinensis L. leaves fermented with Aspergillus sp. and their physiological functions. Asia-Pacific Tea Expo 2016 (Sep29-Oct2) (Taipei, Taiwan)

・松本雄一，丸田沙織，有馬進，江原史雄，上埜喜八，福田伸二，於保伸子，椛島弘治．メロン栽培におけるCucumis metuliferus台木の利用・施肥量が果実収量,外観,食味に及ぼす影響．園芸学会九州支部平成28年度大会

＜学生＞

・太田新菜，丸田沙織，安田みどり，久壽米木綾子，長根寿陽，松本雄一．マルチ被覆及び脇芽除去栽培がキクイモ塊茎の収量及びフルクタン含有率に及ぼす影響．園芸学会九州支部平成28年度大会

・有田美穂子，上埜喜八，有馬進，江原史雄，福田伸二，松本雄一．メロンつる割病抵抗性育種に向けたCucumis hystrixとメロンとの種間交雑における交雑不親和性の特徴．園芸学会平成28年度春季大会

・綱本真子，江原史雄，有馬進，上埜喜八，福田伸二，松本雄一．果実加温法によるCucumis anguriaとメロンとの種間雑種における雑種胚の発達促進．園芸学会平成28年度春季大会

・小島礼好，上埜喜八，佐藤達雄，草場基章，有馬進，江原史雄，福田伸二，松本雄一．特定防除資材（重曹・食酢）及び焼酎、ステビア濃縮液の葉面噴霧による野菜類灰色かび病の防除効果．園芸学会平成28年度春季大会

・大田原有志：「動物映像視聴がダウン症候群患者の自律神経機能におよぼす影響」、平成28年度佐賀大学農学部家畜医療応用学分野　卒業論文

・城戸有弥：「エッセンシャルオイル（精油）の吸入暴露に対するウシの反応」、平成28年度佐賀大学農学部家畜医療応用学分野　卒業論文

・髙原真弥：「イノシシに対するトウガラシ（カハットエース）の忌避効果の検証」、平成28年度佐賀大学農学部家畜医療応用学分野　卒業論文

・臼井彩夏：「日本各地で採集したノビルのフェノール成分解析」、2016年9月25日,日本生薬学会第63回年会（富山）

・Usui A.:Ferulic acid esters of glucosylglucose from *Allium macrostemon* Bunge. Journal of Asian Natural Products Research, http://dx.doi.org/10.1080/10286020.2016.1213722

・Usui A.:A New Flavonoid from *Camellia sinensis* Fermented Tea. Natural Product Communications, 11, 1281-1282

・徳久緑雨：「*Allium*属植物成分のクロマトグラフィー」、平成28年度佐賀大学農学部植物代謝解析学分野　卒業論文

・中野太郎：「ノビルの組織培養と成分解析」、平成28年度佐賀大学農学部植物代謝解析学分野卒業論文

地域志向教育研究経費採択事業一覧

平成28年4月25日から「地（知）の拠点整備事業　コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」の一環として地域志向教育研究経費公募型研究を公募し、20件の応募がありました。この中から16件が選定され、6月1日から事業を実施しました。

本経費は、地域を志向する教員の教育・研究・社会貢献活動を支援し、大学全体の地域志向型教育研究を活性化させるための経費です。

■各事業の内容と成果

1. 山下　宗利／芸術地域デザイン学部（A）

「Creative Cityの実現に向けた学生参加型フィールドワーク実習　－アートの視点を加味して－」

（目的及び計画）

本プログラムでは、芸術地域デザイン学部新入生とともに、佐賀市中心市街地を対象としてフィールドワーク実習を行い、対象地が抱える課題を自ら発見し、課題解決に向けた企画・提案を実践する。これらは、アートというこれまでにないファクターを用いて行う。中心市街地活性化の潮流のなか、若い世代を担い手として、彼らのアートの力で、「集積の利益から産業・文化が発生する」という本来の都市の持つ機能への回帰を具現化しようとする視点である。

（教育・研究・社会貢献における成果）

5月20日に芸術地域デザイン学部の新入生115名を8グループに分け、佐賀市中心市街地においてフィールドワークを実施した後、計20の小グループごとに課題の発見とその解決策を探る実習を行った。6月2日にNPO法人ユマニテさがからゲストスピーカー3名を迎え、20件の成果発表会、7月後半にその成果ポスターを佐賀大学美術館で展示し、地域住民へ発表した。これらから多くの学生に初めてフィールドワークを体験させる際の指導方法を確立することができた。また、佐賀市中心市街地を訪れた経験がない大半の学生にとっては、当該地域の現状や課題を知るよい機会となった。

（成果物）

【展示・発表会等】

・佐賀大学芸術地域デザイン学部1年「芸術表現基礎・地域デザイン基礎　成果発表展」佐賀大学美術館、2016年7月23日-8月10日

【記事掲載】

・「佐賀大学芸術地域デザイン学部　町歩き　活性化策提案」（佐賀新聞　2016年6月3日）

---

2. 石井　美恵／芸術地域デザイン学部（A）

『地域染織芸術の再興「佐賀・鹿島錦、鍋島段通、鍋島更紗」の大学教育プログラムへの導入に関する研究』

（目的及び計画）

地域芸術は地域性を視覚的に伝達する最高のメディアであり、なかでも佐賀県の染織芸術である佐賀・鹿島錦、段通、鍋島更紗は最高級品の類でネームバリューがある。これら佐賀地域染織芸術を大学教育プログラムへ導入するのが本研究の目的である。初年度は現状を把握するため、佐賀錦、鍋島緞通の伝承者を訪ねて聞き取りを行い、資料を収集し、2年目で伝承者による実習とテキストの製作をするための情報収集を行う。

（教育・研究・社会貢献における成果）

伝承者を訪ねて聞き取りをしたことで、芸術地域デザイン学部が地域と連携した教育・研究を実施する姿勢を伝えることができ、多くの協力が得られた。また、佐賀錦伝承者1名の撮影、および日本伝統工芸会所属の同伝承者1名と鍋島緞通製作者2名へのインタビューによる貴重な写真・取材メモでの記録を得た。さらに佐賀錦振興協議会および鹿島錦保存会の活動を記録し、学生の意識調査をした。また、地域デザインコースの学生と佐賀錦の絹糸を地域に自生する櫨で染色し「地域の色」として素材づくりに取り組み試織した。地域芸術の大学教育プログラムに導入によって、地域の伝承者が講師となって伝統文化を学生に伝えることで新しい発想やつながりが生まれ、活性化につながることが分かった。

3. 栗山　裕至／教育学部（A）

「地域児童と市民に向けた造形的感性育成プロジェクト研究」

（目的及び計画）

佐賀大学美術館で開催される、第57回「佐賀県学童美術展」（平面部門）の展示と連動してミニワークショップを行ない、表現と鑑賞の連動により地域の幼児・児童の造形的感性の開放や育成を図り、地域の造形文化振興に寄与する。実施は2016年12月17日（土）10時～16時、場所は佐賀大学美術館1階「スタジオ」「プロムナード」を使用。従来作品展示のみの場であった学童美術展に「表現の場」を設け、幼児・児童に体全体を使って造形活動を行なってもらうとともに、そうした活動を保護者や地域の大人に見て頂くことで、造形教育の理解・共感・浸透を得る。

（教育・研究・社会貢献における成果）

幼児から小学校高学年の児童まで幅広い年齢層の子どもに、２種類の活動メニューのいずれにも関心を持って参加してもらい、保護者も一緒になって活動し、造形活動の楽しさやスケール感を子どもとともに実感してもうことができた。今回、開放的な地域の公共スペースを有効に活用し実施したことで、小学校図画工作科における「表現（1）」（造形遊び）の教材研究や授業開発につなげることができた。さらに、佐賀大学美術館の存在をより身近に感じてもらえる機会を創出できた。ワークショップ実施の課題も見いだせ、地域の教員諸氏へ向けての美術教育実践に関わる提言を、より具体的に行

発泡スチロール素材と割り箸を使った活動

カラーポリ袋を使った造形活動

なえると考える。

（成果物）

【論文】

・栗山裕至「実践研究（大学支部）」平成28年度佐賀県造形教育研究会紀要（3月末発行予定）

---

4. 角　和博／教育学部・附属教育実践センター（A）

『「大学と地域が連携した地域学習（まちづくり教育）の実践」－佐賀の歴史を探訪し、郷土に愛着をもった人材を育成する－』

（目的及び計画）

佐賀大学生によるまちづくりボランティア「さがのわ」を中心に、佐賀市内の小学生がそれぞれの身近な歴史や行事、伝統あるいは地域の取り組みに興味を持ち、調べたことを発表し合う歴史学習の交流の場として、フォーラムを開催する。また、フォーラムに参加する小学生を対象に佐賀歴史探訪バスツアーを実施する。このプログラムを通して、小学生をはじめとする次の世代を担う若者に、佐賀の遺産への関心興味を持ってもらうとともに、佐賀の歴史、伝統等をより多くの市民の方々に発信し、理解へとつながることを期待する。また、教員を志す佐賀大学生がプログラムの主体となってフォーラムなどの企画を運営することで、佐賀の歴史を深く理解し、その魅力を子どもに伝承していく

力を持った教員を育成する。

（教育・研究・社会貢献における成果）

佐賀市立日新小学校、諸富南小学校、中川副小学校の3校の協力を得て、佐賀歴史探訪バスツアーとフォーラムを開催した。バスツアーは、フォーラムに参加する小学生と大学生ボランティアの27名が参加し、市内に点在する歴史遺構を巡り、明治日本の産業革命を支え、近代日本の礎を築いた当時の佐賀藩について体験的な学習を行った。フォーラムは佐賀大学生が運営し、参加校へ訪問して発表準備のサポートを行った。保護者も合わせて約100名が参加した。

（成果物）

【記事掲載】

・「児童　史跡や伝統紹介」（読売新聞　1月22日）
・「21日　子ども歴史発表会」（佐賀新聞　1月18日）

---

5. 徳田　誠／農学部・応用生物科学科（B）

「佐賀・有明地域における希少野生生物の生態に配慮した環境保全」

（目的及び計画）

天然記念物であり多良山系に生息するヤマネ、有明海流入河川にのみ生息するアリアケスジシマドジョウ、有明海の泥干潟を代表する塩生植物シチメンソウなど県内には様々な希少生物が分布している。本課題ではこれらの希少生物を対象とする。農学部応用生物科学科および大学院応用生物科学コースに所属する学生が、これらの生物の自然保護活動に携わる佐賀自然史研究会の会員らとの対話を通じて共同して野生生物の生態調査を実施し、自然保護と地域の産業活動との両立を可能にする環境保全のあり方を模索する。

（教育・研究・社会貢献における成果）

佐賀県内に生息する希少生物を対象とした調査により、ヤマネの新生息地や冬場の活動性、オヒキコウモリにおける活動の季節性アリアケスジシマドジョウの繁殖時期、マツナ属植物に国内未記録の属や種の昆虫の存在などを明らかにした。学部・大学院教育では生態学実験や卒業研究の一環として野外調査を実施し、システム生態学や応用動物昆虫学、インターフェース科目（食料と生活II）などの授業において研究成果を紹介した。また、農学部内において希少魚類の生態展示を実施した。哺乳類学会大会や佐賀自然史研究会の総会・会員発表会において発表した。

（成果物）

【論文】

・吉岡裕哉・明石夏澄・木下智章・副島和則・安田雅俊・徳田　誠（2016）国見岳（佐賀県嬉野市）におけるヤマネの初確認. 佐賀自然史研究（21）：1-5.

【研究発表会】

・吉岡裕哉・明石夏澄・木下智章・副島和則・安田雅俊・徳田　誠（2016）九州北西部におけるヤマネの生息状況と活動の季節性. 平成28年度日本哺乳類学会大会
・手塚絢美・安達修平・喜多章仁・徳田　誠（2016）塩生植物を寄主とするイソマツヒゲナガアブラムシの生活史と海水耐性（予報）. 日本昆虫学会九州支部第64回大会
・明石夏澄・喜多章仁・望岡佑佳里・徳田　誠（2017）標識再捕獲法によるアリアケスジシマドジョウの生息調査. 第24回佐賀自然史研究会総会・会員発表会
・原本すみれ・安田雅俊・徳田　誠（2017）佐賀市内におけるオヒキコウモリの活動時期. 第24回佐賀自然史研究会総会・会員発表会

---

6. 上野　大介／農学部・生物環境科学科（B）

「佐賀地域特有のクリークに着目した水環境保全技術の学習」

（目的及び計画）

さが水ものがたり館の見学

佐賀市内のクリークに定点を設定し、季節を通じて複数回の生物分析および化学分析の実習に取り組む。また佐賀市環境センター、佐賀市下水浄化センターおよびさが水ものがたり館と連携し、佐賀の水環境保全に対する先進的な取り組みを学習する。これら実習で得られた分析結果を学生自身でまとめ、自ら調べ、成果をアウトプットするアクティブラーニングを推進する。

（教育・研究・社会貢献における成果）

佐賀の代表的な水環境であるクリークに着目し、その歴史的背景や技術的な特徴、また季節や人間活動の変化が水質や生物相に与える影響を学習した。結果を学生自身でまとめ、自ら調べ、成果をアウトプットするアクティブラーニングの取り組みを通じ、佐賀の優れた治水技術や水質分析技術を習得し、水環境保全に関する学生の関心を高めることができた。

（成果物）

・ホームページによる結果の公表（http://environbio.ag.saga-u.ac.jp/ueno/）
・Facebookによる活動の広報（https://www.facebook.com/saga.environ.chem

---

7. 鈴木　智恵子／医学部・看護学科（C）

「看護学生による小児アトピー性皮膚炎予防のためのスキンケア教育」

（目的及び計画）

看護学生をスキンケア教育の講師として養成後、乳幼児の母親や学童期の子どもへの教育を行う。学生は、平成27年度に活動した学生に加え、平成28年度新一年生や他学年の新規希望者を公募し、スキンケアの方法の講義と演習を行ったうえで教員が適性を判定する。スキンケア教育プログラムは、昨年度の実習経験のある学生とともに再検討するとともに、公民館や小学校等の開催場所に合わせた内容を検討する。教室は可能な限り小児の科目の演習としても行い、親子への全体教育と個別教育を行う。

（教育・研究・社会貢献における成果）

平成28年9月から学生を公募し、その後、応募学生10名を対象にしたスキンケア方法の講義と演習を実施。教員が内容を随時チェックしながら、学生によるスキンケア教育プログラムを作成し、学生講師の育成および適性判定を行った。今年度は公民館や保育園等4カ所で講習会を開催（総計23組）し、全体への教育と個別教育を行った。母子を対象に根拠のある正しいスキンケアの知識と方法を知る機会を提供できた。また、学生は地域の母子と関わることで、対象者に合わせた対応ができるようになってきた。

（成果物）

【発表】

・鈴木智惠子「皮膚清潔ケアを見直してみませんか？－看護学生によるスキンケア教室を通して－」第26会日本小児看護学会・テーマセッション（2016年7月23日-24日）

8. 羽石　寛志／経済学部・経営学科（D）

「ICTを利活用できていない層へのICT利活用促進アプローチモデル形成調査研究」

（目的及び計画）

現代社会においてICTの利活用ができないことによる不利益がシニア層をはじめとして重要な課題となっている。本事業では佐賀市赤松公民館でのこれまでの調査研究を継続し、今後の利活用促進アプローチモデル形成について検討することを目的とする。前述の課題について、これまでの研究の

赤松文化祭での啓発ポスター展示

課題の把握・整理をしたうえで、先行・関連研究の調査、赤松公民館でのICTの体験相談講習会等の開催・調査・分析を実施する。赤松公民館での講習会では、特に小中学生の保護者のICTリテラシの把握を行う。これは、４年生の卒業研究を中心に実施する（課題解決型学習＝PBL）。

（教育・研究・社会貢献における成果）

佐賀市赤松公民館主催の赤松文化祭に出展者として参加し、身近なSNS事情と題したICTリテラシの啓発ポスター展示を行い、保護者のSNSに関する認識調査を実施した。また、赤松小学校と佐賀商業高校の児童生徒の利用状況調査を実施し、保護者と利用している児童生徒の認識の違いなどをまとめ、赤松公民館でポスター発表を行った。学生は、本事業を通して、実際の調査を経験することで調査分析の準備・実施の困難な部分などを学ぶことができ、大いに成長するきっかけとなった。また、赤松公民館の利用者へのSNS利用状況の発表は社会貢献にもつながった。

（成果物）

【論文】

・江崎・越智・比嘉・平山：「SNSトラブル増加の抑制における保護者へのICTリテラシ・情報モラル定着に関する実証研究」、平成２８年度佐賀大学経済学部経営学科卒業論文

---

9. 坂西　雄太／医学部・地域医療支援学講座（E）

「佐賀県内の高齢内科患者の社会的孤立と短期健康アウトカムとの関連研究」

（目的及び計画）

佐賀県内の高齢内科患者の社会的孤立度と入院後の健康アウトカムとの関連を明らかにし、地域志向教育に反映させることを目的とする。平成27年度は、県内の地域中核病院６施設で300～600例を目標とし、高齢入院患者を対象にアンケート調査および入院後の健康アウトカム測定を行う。本年度（平成28年度）は、アンケート調査を継続し、必要症例数を確保したのちにデータ解析を行う。次年度（平成29年度）は、調査結果をまとめ、発表、論文化を行う。

（教育・研究・社会貢献における成果）

平成28年11月時点で297例のデータを収集した。この時点での解析において、入院前の社会的孤立と入院中・入院後６ヶ月以内の死亡との関連を認めた（調整オッズ比2.21，95%信頼区間1.04-4.7）。アウトカムの追跡には退院後６ヶ月を要し、またさらに症例数が必要となるため、平成29年度もデータ収集を継続する。必要症例集を確保したのちに最終解析をおこない、研究結果を公表する。高齢者の社会的孤立と健康との関連を地域医療実習に反映させ、実習を通した地域医療への理解と、将来の佐賀県内での地域医療の実践に役立てる。また研究結果を県内の各研究協力施設にフィードバックし地域医療の改善に貢献する。

（成果物）

【発表】

・坂西雄太「佐賀県内の高齢内科患者の社会的孤立と短期健康アウトカムとの関連研究」（途中解析結果）、平成28年11月23日、COC・COC+共催シンポジウム・ポスター展

---

10. 黒木　和哉／医学部・地域医療支援学講座（E）

「医学科６年次の地域医療機関における臨床実習が地域志向性に与える影響に関する研究」

（目的及び計画）

本研究では、大学外で臨床実習を行った前後で医学生の地域医療に対する志向性の変化を明らかにするために質問紙による量的評価を行う。質問紙には、地域医療に対する興味や将来地域医療に従事する意欲についての項目が含まれる。さらに、次年度以降の実習がより効果的になるため研究結果を反映させることを目的とする。

（教育・研究・社会貢献における成果）

佐賀大学医学部医学科６年次の地域医療実習として佐賀県内20施設（中核病院10施設、クリニック10施設）で２週間（中核病院１週間、クリニック１週間）の臨床実習を行い、平成27年度94名、平成28年度105名より実習前後の質問紙による回

答を得た（回収率100%）。平成29年度も引き続き研究を継続し、地域医療に対する志向性の変化に寄与する因子の検索を行い、効果的な実習となるよう研究結果を反映させる。また、本研究により医学生の臨床実習による地域医療に対する認識の実情、志向性の変化を明らかにし、県内の協力施設にフィードバックを行い、将来の地域医療従事者を増加させる。

---

11. 和久屋　寛／工学系研究科・電気電子工学専攻（F）

「伝統的建造物群保存地区における人工知能関連技術を用いた避難経路探索の試み」

（目的及び計画）

近年は大規模自然災害が多発し、一般市民の間にも防災・減災に対する危機意識が高まっている。しかし、現状では都市型災害への取り組みが進んでいるものの、少子高齢化や過疎化という問題を抱える地方都市における試みは少ない。また、伝統的な建造物群保存地区では、法的な規制によってハード面で整備に困難を伴う場面もある。そこで、このような状況下、近年、急速に発展している人工知能（AI）関連技術を積極的に活用し、緊急時避難経路探索などの課題に挑戦する。

（教育・研究・社会貢献における成果）

ここでは肥前浜宿を対象地区と定め、実施者の担当学生とともに、緊急時の避難経路探索課題などに取り組んだ。遺伝的アルゴリズム（GA）と呼ばれる手法では、避難所を目指す複数の経路を同時

鹿島市肥前浜宿の現地視察

学会での研究発表

に見付け出し、計算時間の大幅短縮（数時間→1分未満）も達成した。この研究を進めるに当たっては、他専攻の教員・学生と意見交換を行ったり、地元住民と交流する場への参加を通して、我々の視野が大いに広がったと感じる。また、この研究成果発表は登壇学生の受賞へと結び付いた。

（成果物）

【学会発表】

・西村良貴，和久屋 寛，伊藤秀昭，三島伸雄：“遺伝的アルゴリズムを用いた緊急時避難経路探索の高速化”，第18回日本知能情報ファジィ学会九州支部学術講演会，B102（熊本高専，2016年12月10日）

・田中裕恒，和久屋 寛，伊藤秀昭，岡崎泰久，三島伸雄：“自己組織化マップを用いたハザードマップにおける危険箇所の情報可視化”，第18回日本知能情報ファジィ学会九州支部学術講演会，B103（熊本高専，2016年12月10日）

・田中裕恒，和久屋 寛，伊藤秀昭，岡崎泰久，三島伸雄：“自己組織化マップによる歴史的地方都市の災害種別に応じた危険箇所の分類”，第18回自己組織化マップ研究会2017，SOM2017-01（岡山大，2017年3月21日）

【表彰】

・田中裕恒：日本知能情報ファジィ学会九州支部学生優秀講演賞（第18回日本知能情報ファジィ学会九州支部学術講演会：熊本高専，2016年12月10日）

---

12. 北垣　浩志／農学部生物環境科学科（G）

「麹（こうじ）を使った化粧品の開発」

（目的及び計画）

当研究室が同定して構造決定し、米国化学会誌に論文（Journal of Agricultural and Food Chemistry, 60 (46), 11473-82 (2012)）を掲載した麹セラミドの肌バリア機能向上効果に着目して、麹を使った化粧品を地域企業（佐賀県鳥栖市・東洋新薬株式会社）とともに開発する。また麹セラミドの腸内細菌叢への影響を明らかにし、その摂食時の肌保湿能向上効果のメカニズムを明らかにする。

（教育・研究・社会貢献における成果）

東洋新薬において当研究室の研究成果を活かした麹セラミドを使った化粧品が上市された。麹セラミドの肌バリア機能アップの研究成果は、全国的な学会（日本生物工学会大会）で学会発表した。麹セラミドの腸内細菌叢への解析は、国際的学術誌に査読付論文を発表した（SpringerPlus, 5, 1321 (2016)）。この論文はダウンロード数が5か月で1400回を超え、日刊工業新聞、NHK福岡、西日本新聞に掲載・放映されるなど世界的・全国的な注目を集めた。また、学生は研究を通じて化粧品の研究ノウハウを身につけ、大手化粧品会社（マンダム株式会社）に内定を獲得した。

（成果物）

【論文】

・査読付き論文9本

・Hiroshi Hamajima, Ayumi Fujikawa, Mikako Yamashiro, Takatoshi Ogami, Seiichi Kitamura, Masahito Tsubata, Sei Tan, Haruka Matsunaga, Kazutaka Sawada, Satoshi Kumagai, Nobuyuki Hayashi, Koji Nagao, Teruyoshi Yanagita, Takuji Oka, Susumu Mitsutake and Hiroshi Kitagaki*Chemical analysis of the sugar moiety of monohexosylceramide contained in koji, Japanese traditional rice fermented with Aspergillus.Fermentation, 2016, 2(1), 2; doi:10.3390/fermentation2010002

・Hiroshi Hamajima, Haruka Matsunaga; Ayami Fujikawa; Tomoya Sato; Susumu Mitsutake; Teruyoshi Yanagita; Koji Nagao; Jiro Nakayama; Hiroshi Kitagaki*. Japanese Traditional Dietary Fungus Koji Aspergillus oryzae Functions as a Prebiotic for Blautia Coccoides through Glycosylceramide.SpringerPlus, 5, 1321 (2016)（日本農芸化学会トピックス賞）

・Jannatul Ferdouse、阪本真由子、酒谷真以、浜島浩史、松永陽香、柘植圭介、西向めぐみ、柳田晃良、永尾晃治、光武進、北垣浩志* “麹で造られる醸造食品のグリコシルセラミド含量定量手法の検討とそれを用いた定量” 日本醸造学会誌、in press (2017).

---

13. 松本　雄一

／農学部附属アグリ創生教育研究センター（G）

「地域の食農産業との連携によるアグリ資源を活用した機能性食品の開発と農業振興」

（目的及び計画）

機能性野菜キクイモの栽培法について地域生産者との連携も含めて確立し機能性成分の向上を図るとともに、地域食品産業との連携により高付加価値商品を開発する。教育・研究活動においては、申請者が所長を務める機能性農産物キクイモ研究所および佐賀・福岡地域機能性農産物推進協議会とも連携して行う。

（教育・研究・社会貢献における成果）

佐賀県内の企業、自治体等との連携体制が拡充され、佐賀市や基山町、みつせ菊芋研究会、西九州大学、（有）田中製麺、カフェソネス、ゆめマートさが、佐賀大学医学部等と連携して取り組みを推進できた。県との連携ではキクイモの機能性成分含量の推移を明らかにし、商品開発に必要な成分をより多く含有する原料の調達が可能となり、高付加価値商品の開発が見込まれる結果となった。これらを教育、研究へと活用し、商品開発に向けた研究成果、およびキクイモラーメンやパスタ等の商品開発、飲食店でのキクイモカレーやラタトゥイユ等の提供、スーパーでの試食・販売による普及が実現化された。

（成果物）

【論文】

・福本有香ら(2016) 佐賀の農産物による “機能性食品” の開発・普及！～学生と地域・企業との協働～. さがを創る交流会パネル

・丸田沙織(2016) キクイモにおける収穫時期の違いが収量及びイヌリン含有率に与える影響．農学部生物環境科学科卒業論文

14. 江原　史雄
／農学部附属アグリ創生教育研究センター（G）

「障がい者を対象とした農業フィールド資源活用によるアグリセラピー（動物介在）の効果検証」

（目的及び計画）

農業フィールド資源を活用したアグリセラピー開発において、対象者に対するセラピー効果を評価する必要がある。本事業では、血圧、心拍数、自律神経変動測定、内分泌系ストレスマーカー測定などの生理的指標に加え、無侵襲で脳機能測定が可能な近赤外分光法（NIRS）を用いて脳部位の活動を捉えることで、より詳細な評価法の検討を試みる。本事業は、「佐賀市手をつなぐ育成会笑育舎」および特定非営利活動法人「キッズの森」の協力により、発達障害やダウン症候群の患者を対象に行う計画であり、より実証的なアグリセラピー開発を目的とする。

（教育・研究・社会貢献における成果）

本事業では、ダウン症候群患者を対象に、動物映像視聴が自律神経機能に及ぼす影響を検証し、動物映像の視聴が被験者の心身にリラックス効果をもたらすことを証明した。これにより、新たな動物介在介入法として動物映像の利用が期待できる。加えて、佐賀市内の障がい児を対象とした家畜とのふれあい活動や活動に参加した学生に対する講義の実施により、実証的な研究と教育を行うことができた。また、新たに佐賀市内の支援活動団体との連携が可能となり、プロジェクトの周知とともに、アグリセラピー開発のための実証試験への協力を得ることができた。

（成果物）

【論文】

・大田原有志：「動物映像視聴がダウン症候群患者の自律神経機能に及ぼす影響」、平成２８年度佐賀大学農学部卒業論文

15. 堀川　悦夫
／医学部・地域医療科学教育研究センター（G）

「アグリセンターなどのフィールドワークにおける身体、認知機能測定システムの構築（2）」

（目的及び計画）

昨年度に引き続き、農学部附属アグリ創生教育研究センター（以下、アグリセンター）におけるセラピー開発において、その対象となる高次脳機能障がい者や発達障がい者などに対するセラピーの効果を測定し、その結果を対象者にフィードバックするための手法を検証する。測定対象は、姿勢運動制御の領域からは歩行や姿勢変化など、認知機能の領域からは処理速度、注意機能、遂行機能などである。これまでの臨床実践経験から得たシステムのアイディアにもとづき開発、検証、改良を行い、学生や地域住民などにおいても容易に使用、理解できるように改良を行う。

（教育・研究・社会貢献における成果）

脳卒中後遺症患者や認知機能低下高齢者の方などの、社会活動への復帰や、復職に必要な移動行動（モビリティ）の支援のために、アグリセンターでの移動行動計測の経験を生かして、実車運転時の位置計測を行い、実車運転評価の検証が可能となった。運転再開における支援として、佐賀大学病院での脳卒中後遺症患者の運転可否判断と、運転免許センターでの運転再開のための適性相談に参加し、支援を行った。支援対象者の移動行動を詳細に分析するため、移動と姿勢変化を同時に計測するシステムの構築を行った。また、認知機能測定を繰り返し行うための問題点を解決する検査方法の改良を行った。

（成果物）

・脳機能計測を行う場合に神経心理学検査が多用されるが、ある脳機能の変化を継続的に測定する場合に、同一の検査を繰り返して実施すると、練習効果が生じてしまう。この問題を解決するため、検査の主旨は変えずに繰り返し測定可能な改良型の検査を開発した。（特許・実用新案　出願予定）

16. 佐藤　珠美／医学部看護学科（H）

「佐賀県の母子保健課題を踏まえた助産師教育の開発」

（目的及び計画）

本事業の目的は、助産コースの学生（４年５名、３年４名）が、佐賀市内で、育児期の親や祖父母などを対象とした健康教育の企画・運営・評価、ケアの実践について学ぶこと、そして産後フォーラムの企画、運営に参加し、産後の女性や夫のニーズとその支援方法について学ぶことである。

（教育・研究・社会貢献における成果）

母親や祖父母を対象とした健康教育は、鍋島公民館にて、スキンケア教室２回と子育て・孫育て講座を行った。また、アトピー性皮膚炎の講演会にて、30名の親子に正しい保湿ケアの実演を行った。76名（うち本学を含む学生参加12名）が参加した「第３回産後フォーラム」においては両親学級とワークショップの企画・運営に参加し、父親や母親の真のニーズを知り、当事者を効果的に巻き込み両親学級を成功させる教育手法などについて学んだ。本フォーラムのまとめは、県内の母子保健行政機関、産婦人科施設、助産師学校などに配布し、共有する。他に、育児支援者を対象とした抱っこ教室に参加した。今年度は助産師学生5名中3名が県内に助産師として就職することが内定し、他の2名も地元に戻り、助産師として就職する予定である。

（成果物）

【記事掲載】

・「ひびの子育て×佐賀大学　おっぱいと抱っこの相談会　参加募集」（佐賀大学　平成28年5月20日）

産後フォーラム開催風景

【報告書】

・SUN-GOフォーラムさが実行委員会　第2回SUN-GOフォーラムさが　産後の危機を乗り越えろ！　～夫婦を最強のチームに～　実施報告書　平成28年12月

子育て・孫育て教室

九州・沖縄COC学生情報交換会「九州・沖縄COCインカレキャンプ」

日　　程：
平成２８年９月８日（木）～９日（金）
場　　所：
日本文理大学湯布院研修所

概　　要：

9月8日（木）～9日（金）、日本文理大学湯布院研修所で開催された『九州・沖縄COC学生情報交換会「九州・沖縄COCインカレキャンプ」』に学生3名と教職員が参加した。これは、大学COC事業の教育プログラムを受講した学生を中心に、情報交換の場を構築することを目的として、日本文理大学及び宮崎大学みやだいCOC推進機構の主催で開催し、当日は学生20名と教職員17名の計37名が集まった。学生は4チームに分かれ「帰りたくなる町/（もう一度）訪れたくなる町」をテーマに、まち歩きとグループワークを踏まえて、最終発表を行った。

1日目は、由布院温泉観光協会常務理事の太田慎太郎氏の講義から始まり、チームごとにアイスブレイク、まち歩き、グループワーク、中間発表と休む間もなくアクティブラーニング。2日目は、もう一度まちを歩きたいという学生メンバーが早朝6時から2回目のまち歩き。その後、グループワーク、最終発表、振り返りを行った。

1日目の中間発表の際は、「昔からの個人商店が減少している」という点や「道が狭い」「トイレが少ない」「ごちゃごちゃしている」等、改善点を指摘するチームが多くみられたが、2日目の最終発表では「ごちゃごちゃしているのが若い世代のニーズに合っている」「由布院には多様な世代のニーズに応える“らしさ”がある。これを地方再生のモデルとしたい」「変わらない自然や人などを守りつつ、店舗等の入れ替わりや増加で新しいものを取り入れて進化している」「“不変（自然・人）と変化（店舗・景色）”が魅力」等、全てのチームが由布院を地方再生の成功モデルとして認識し発表した。

この学生発表に、由布院温泉観光協会常務理事の太田氏からは「アンケートから若者の意見を知ってはいたが、直接、若者の生の声を聞いて“由布院はこれでいいんだ”と認めてもらえて本当に嬉しい」という感想があった。短い期間で、学生・教職員が多くの学びを得たキャンプとなった。

由布院温泉観光協会常務理事の太田慎太郎氏の講義

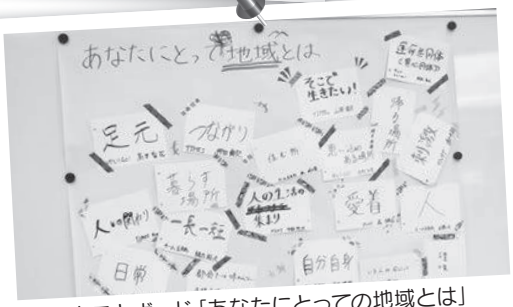
アイスブレイクでチームワークを構築

1日目のまち歩きの様子

まち歩きで出会った店舗の方との交流

学生・教職員37名が参加

まちの魅力や課題など写真を分類



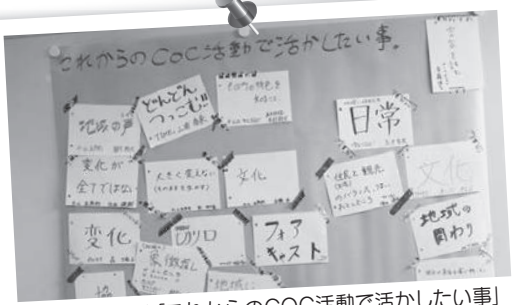
ひとことボード「あなたにとっての地域とは」

まち歩きの写真を基にグループワーク

2日目は各グループが最終発表

「帰りたくなる町／訪れたくなる町」をテーマに発表

最終発表後の振り返り



ひとことボード「これからのCOC活動で活かしたい事」

早朝の由布岳

地（知）の拠点事業（大学COC事業）/地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

COC/COC+　さがの未来を創る　地方創生と人材育成　シンポジウム

日　　程：

平成28年11月23日（水・祝）　13:30～17:15

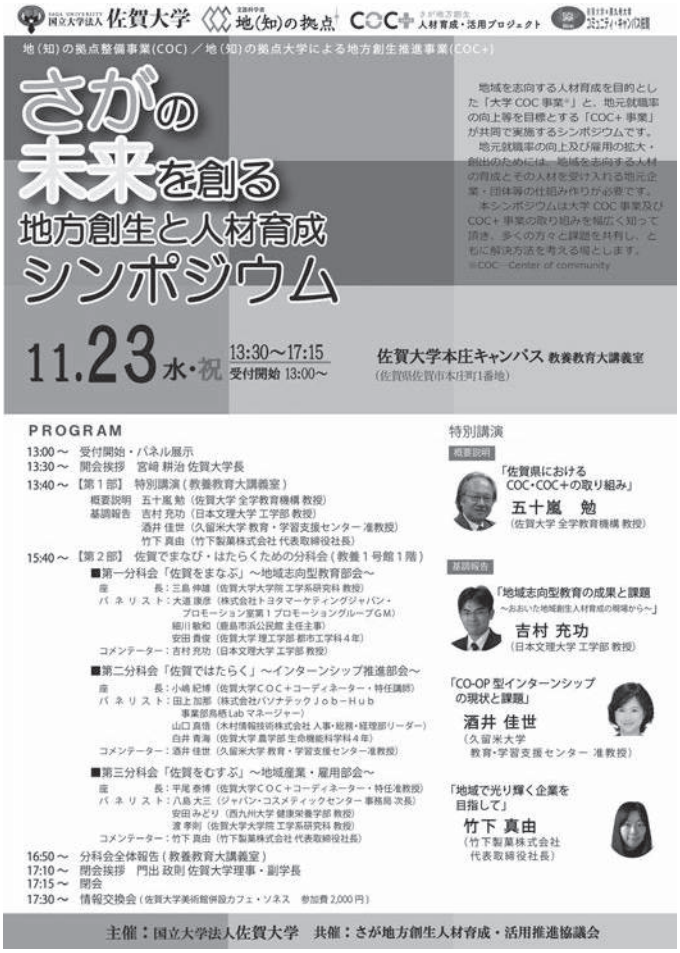
場　　所：

佐賀大学本庄キャンパス　教養教育大講義室

概　　要：

地域を志向する人材育成を目的とした「大学COC事業」と、地元就職率の向上を目標とする「COC+事業」が共同で実施した。当日は約160名が参加し、地域志向型教育やインターンシップ、地域産業・雇用についての基調報告を聞いた後、分科会で意見交換を行った。また、COCおよびCOC+事業を紹介するパネル展を同時開催した。

特別講演開催風景



国立大学法人 佐賀大学　地（知）の拠点　COC+ 人材育成・活用プロジェクト

地（知）の拠点整備事業（COC）／地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

さがの未来を創る
地方創生と人材育成
シンポジウム

地域を志向する人材育成を目的とした「大学 COC 事業※」と、地元就職率の向上等を目標とする「COC+ 事業」が共同で実施するシンポジウムです。
地元就職率の向上及び雇用の拡大・創出のためには、地域を志向する人材の育成とその人材を受け入れる地元企業・団体等の仕組み作りが必要です。
本シンポジウムは大学 COC 事業及び COC+ 事業の取り組みを幅広く知って頂き、多くの方々と課題を共有し、ともに解決方法を考える場とします。
※COC…Center of community

11.23 水・祝　13:30～17:15　受付開始 13:00～

佐賀大学本庄キャンパス 教養教育大講義室
（佐賀県佐賀市本庄町1番地）

PROGRAM

13:00～　受付開始・パネル展示
13:30～　開会挨拶　宮崎 耕治 佐賀大学長
13:40～【第1部】特別講演（教養教育大講義室）
　概要説明　五十嵐 勉（佐賀大学 全学教育機構 教授）
　基調報告　吉村 充功（日本文理大学 工学部 教授）
　　酒井 佳世（久留米大学 教育・学習支援センター 准教授）
　　竹下 真由（竹下製菓株式会社 代表取締役社長）
15:40～【第2部】佐賀でまなび・はたらくための分科会（教養1号館1階）
■第一分科会「佐賀をまなぶ」～地域志向型教育部会～
　座　　長：三島 伸雄（佐賀大学大学院 工学系研究科 教授）
　パネリスト：大道 康彦（株式会社トヨタマーケティングジャパン・プロモーション室第1プロモーショングループGM）
　　細川 敏和（鹿島市浜公民館 主任主事）
　　安田 貴俊（佐賀大学 理工学部 都市工学科4年）
　コメンテーター：吉村 充功（日本文理大学 工学部 教授）
■第二分科会「佐賀ではたらく」～インターンシップ推進部会～
　座　　長：小嶋 紀博（佐賀大学COC＋コーディネーター・特任講師）
　パネリスト：田上 加那（株式会社バソナテックJob-Hub事業部鳥栖Labマネージャー）
　　山口 真悟（木村情報技術株式会社 人事・総務・経理部リーダー）
　　白井 青海（佐賀大学 農学部 生命機能科学科4年）
　コメンテーター：酒井 佳世（久留米大学 教育・学習支援センター准教授）
■第三分科会「佐賀をむすぶ」～地域産業・雇用部会～
　座　　長：平尾 泰博（佐賀大学COC＋コーディネーター・特任准教授）
　パネリスト：八島 大三（ジャパン・コスメティックセンター 事務局 次長）
　　安田 みどり（西九州大学 健康栄養学部 教授）
　　渡 孝則（佐賀大学大学院 工学系研究科 教授）
　コメンテーター：竹下 真由（竹下製菓株式会社 代表取締役社長）
16:50～　分科会全体報告（教養教育大講義室）
17:10～　閉会挨拶　門出 政則 佐賀大学理事・副学長
17:15～　閉会
17:30～　情報交換会（佐賀大学美術館併設カフェ・ソネス　参加費 2,000円）

特別講演

概要説明
「佐賀県における COC・COC+の取り組み」
五十嵐　勉
（佐賀大学 全学教育機構 教授）

基調報告
「地域志向型教育の成果と課題 ～おおいた地域創生人材育成の現場から～」
吉村 充功
（日本文理大学 工学部 教授）

「CO-OP 型インターンシップの現状と課題」
酒井 佳世
（久留米大学 教育・学習支援センター 准教授）

「地域で光り輝く企業を目指して」
竹下 真由
（竹下製菓株式会社 代表取締役社長）

主催：国立大学法人佐賀大学　共催：さが地方創生人材育成・活用推進協議会

シンポジウムチラシ

特別講演

1. 概要説明

「佐賀県におけるCOC・COC+の取り組み」

五十嵐 勉（佐賀大学 全学教育機構 教授・COC+事業実施責任者）

平成25年度からはじまった大学COC事業のこれまでの取り組み内容と成果、地域志向型教育を踏まえたCOC+への展開について説明した。また、佐賀大学の学生アンケートの結果を基に、地域志向型科目受講と地元就職意欲の相関関係について述べた。

---

2. 基調報告

2-1.「地域志向型教育の成果と課題　～おおいた地域創生人材育成の現場から～」

吉村 充功（日本文理大学 工学部 教授・大学COC事業の事業推進責任者）

日本文理大学では、地域への愛着を持ち、主体的に課題を発見し、専門的なスキルを活用して住民や関係者と課題解決に取り組むことができる人材「地域創生人」の育成に取り組んでいる。この育成のため、体験交流活動から知識の習得、課題解決型学修を行うという学修サイクルを確立。具体的な活動内容や得られた学修成果のデータを基に、その相関関係を示しながら地域で学ぶ意義と成果を説明した。

2-2.「CO-OP 型インターンシップの現状と課題」

酒井 佳世（久留米大学 教育・学習支援センター 准教授）

久留米大学におけるWIL（職業統合的学習）と地方創生の取組み事例について、インターンシップおよびコープ教育の現状と課題を説明したうえで報告した。インターンシップは、キャリア教育や専門教育の実質化、教養教育の効果が期待され、実施校数（単位認定のみ）は年々増加している。大学でのキャリア教育の課題として、質の保証、一般共通教育科目での限界、専門科目との連携を挙げた。

2-3.「地域で光り輝く企業を目指して」

竹下 真由（竹下製菓株式会社 代表取締役社長）

創業から120年以上の竹下製菓の歴史と自社商品、佐賀発企業としての取り組みを報告した。地域貢献の取り組みとして、「ブラックモンブラン」を例に挙げ、気球「モンブランバルーン号」の制作、佐賀のＰＲにつながるような商品をつくる“地元密着型のコラボ企画”等を紹介。また、就職先として選んでもらうための企業情報発信や、子育てを応援する取り組み等、会社全体の体制を伝えた。

基調報告では講師３名に報告いただいた

佐賀でまなび・はたらくための分科会

分科会は「佐賀をまなぶ～地域志向型教育部会～」「佐賀ではたらく～インターンシップ推進部会～」「佐賀をむすぶ～地域産業・雇用部会～」の３つの部会に分かれて開催した。各分科会にCOCおよびCOC+関連科目受講生や連携企業・地域の担当者が登壇し、それぞれの取り組みや成果、課題等について意見交換を行った。最後に３部会の参加者が集まり、各部会の情報を共有した。

各分科会には20～50名程が参加

平成２８年度　地（知）の拠点整備事業

コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト
佐賀大学ＦＤ・ＳＤ研修会

日　　程：

平成28年9月26日（月）　13:00～16:00

場　　所：

佐賀大学本庄キャンパス　理工学部６号館（ＤＣ棟）
２階多目的セミナー室

基調報告開催風景

概　　要：

地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の先駆的な取組みを学ぶ研修会。基調講演では、弘前大学助教西村君平氏をお招きし、大学COC事業における学生評価方法について講演いただいた。弘前大学では、大学ＣＯＣ事業「青森ブランドの価値を作る地域人材の育成」における学生の評価方法としてルーブリック評価を取り入れている。その概要やどのようにルーブリック評価の研究・開発がなされたのか、そして開発されたルーブリックの特徴について、カリキュラムマップを示しながら具体的に説明。評価が難しい地域志向型の教育を「厚いルーブリック」で評価するというアイディアや、その評価方法をどのように実施していくかというお話に、講演後は会場からたくさんの質問があった。

その後の報告会では、佐賀大学プロジェクトEの坂西雄太氏、西九州大学プロジェクトHの上城憲司氏、佐賀大学地域志向教育研究経費事業の山田直子氏と北垣浩志氏に、大学ＣＯＣ事業におけるそれぞれの教育・研究・社会貢献活動の成果や課題を発表いただいた。

この研修会は佐賀大学のFD（Faculty Development）・SD（Staff Development）研修会として実施し、６３名が参加した。

地(知)の拠点
コミュニティ・キャンパス佐賀
平成２８年度　地（知）の拠点整備事業
コミュニティ・キャンパス佐賀
アクティベーション・プロジェクト
FD・SD研修会
地域志向型教育の評価方法
～学生の学びの成果を見える化するために～
参加無料
申込締切
9/20(火)
平成28年
9月26日（月）13:00 ～ 16:00
（受付 12:30 ～）
会場 佐賀大学本庄キャンパス
理工学部6号館（DC棟）2F 多目的セミナー室
対象 佐賀大学・西九州大学教職員
申し込み・問い合わせ
佐賀大学
地域創生推進センター TEL0952-28-8998（三島）
社会連携課 TEL0952-28-8958（園田）
coc@mail.admin.saga-u.ac.jp
西九州大学
地域連携センター TEL0952-37-6289（土橋）
chiren@nisikyu-u.ac.jp
主催 佐賀大学・西九州大学
students
teacher
地（知）の拠点整備事業（COC事業）の先駆的な取組みを学ぶ研修会。今回は、COC事業において「地域志向人財ループリック」を開発し、学生の評価方法に取り入れている弘前大学の取り組みを中心に紹介します。
また、佐賀大学・西九州大学が連携して取り組む「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」全１２の代表プロジェクトから２件、平成２７年度地域志向教育研究経費採択事業から２件の事例を報告します。
プログラム
13：00 開会
13：10 基調講演
「弘前大学における地域志向型教育の評価方法」
弘前大学 助教 西村 君平氏
広島大学大学院教育学研究科（高等教育開発専攻）修了。専門は、高等教育学、評価研究。現在、弘前大学COC推進室助教。弘前大学のCOC事業において「地域志向人材ループリック」を開発。学生の成果を可視化する手法を開発・研究している。
14：20 報告会
「佐賀大学・西九州大学の大学COC事業における地域志向教育・研究・社会貢献の実践」
◇佐賀大学 プロジェクトE
「離島・山間地域における保健医療とQOL向上のための人材育成プロジェクト」
医学部 講師 坂西 雄太
◇ 西九州大学 プロジェクトH
「介護（認知症）予防事業に着目したリハビリテーション教育プログラム」
リハビリテーション学部
准教授 上城 憲司
「地域志向教育研究経費事業成果報告」
◇地域協働型グローカルシチズン教育モデルの創出
国際交流推進センター
准教授 山田 直子
◇高機能性清酒の開発と佐賀県企業における製造
農学部 教授 北垣 浩志
16：00 閉会

FD/SD 研修会

文部科学省　地（知）の拠点整備事業　佐賀大学・西九州大学

コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト 外部評価の実施

日　　程：

平成29年2月14日（火）13:00～17:00

場　　所：

佐賀大学本庄キャンパス　理工学部８号館1階　社会連携課会議室

概　　要：

コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト運営委員会が行った「自己点検評価」の結果について、運営委員会以外の者による外部評価を実施した。

外部の有識者を外部評価委員会委員として招聘し、自己点検評価報告書の書面審査、討論による評価を依頼した。外部評価委員会は、評価報告書を運営委員会委員長に提出し、運営委員会が行う事業等の質的向上を図り、その運営全般の改善・改革に資するとともに、ステークホルダーや社会からの負託に応えることを目的とする。

1）外部評価委員会

協議事項等：

13：00～13：10　開会の挨拶

13：10～13：15　外部評価委員会委員の紹介

13：15～13：20　コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会関係者の紹介

13：20～17：00　外部評価委員会

①外部評価委員会実施要領（案）について

②外部評価委員会委員長の選出

③事業、及び自己点検評価書の概要について

④質疑・応答

⑤外部評価書の作成、及び取りまとめ

（運営委員会関係者退出）

⑥今後のスケジュールについて

評価報告書の最終報告書の提出

17：00　閉会

2）学部評価報告書の提出　平成29年3月17日（金）

外部評価委員会は、「外部評価報告書」を取りまとめ、コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会に提出する。

外部評価委員会の委員名簿

吉村　充功　　日本文理大学・教授
　　日本文理大学人間力育成センター・センター長
渡邉　亮太　　福岡工業大学ＦＤ推進室・室長
遠藤　　彰　　佐賀県 政策部 企画課 副課長
伊豆　哲也　　特定非営利活動法人まちづくり機構ユマニテさが 常務理事

コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会の出席者名簿

門出　政則　　コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会委員長
　　佐賀大学副学長（研究・社会貢献担当）
井本　浩之　　西九州大学事業実施責任者・教授
　　西九州大学副学長（社会貢献担当）
三島　伸雄　　佐賀大学事業実施責任者・教授
　　産学・地域連携機構地域連携部門長（併任）
木塚　徳男　　佐賀大学社会連携課・課長
三島　　舞　　佐賀大学ＣＯＣ事業コーディネーター
中島　哲男　　西九州大学センター事務室・事務長

（事務補佐業務関係者）
佐賀大学　社会連携課係長　　井上　謙一
佐賀大学　社会連携課　　園田　浩之

外部評価委員会の様子

新聞掲載記事等

■嬉野温泉駅周辺整備を提言

2016/4/6　読売新聞

嬉野温泉駅周辺整備を提言

まちづくり委　緑の中に店や交通拠点

嬉野温泉駅周辺の整備イメージ＝駅舎、提言書から

九州新幹線長崎（西九州）ルートの新駅・嬉野温泉駅（仮称）周辺の整備について、「嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会」（委員長＝三島伸雄・佐賀大教授）が3月下旬、提言書をまとめ、谷口太一郎・嬉野市長に提出した。温泉の湯煙が立ち上る水路や噴水を配置し、緑の中に店舗や交流、交通の拠点を整備して、にぎわいを創出することなどを盛り込んでいる。市は提言を基に計画を具体化し、2022年度に予定されている新幹線開業までに整備する方針だ。（内村大作）

駅西口の約3万平方㍍を対象に、市や旅館、茶業、商工団体の代表らでつくる同委員会が、14年12月から計8回議論してきた。

提言書は、「健康と癒やしのまち」のアピールを目標に掲げる。緑と調和する低層で小規模の建物群を散策路に沿って建設。直売所や店舗、カフェ、レストランを回遊してもらう。観光案内所や交流センター、広場を設け、屋内外でのイベントにも対応する。

約1・5㌔離れた温泉街とつなぐため、駅出口そばに送迎車の待機場を用意。車やバスでの来訪を想定し、約200台分の駐車場も整備する。隣接して移転する嬉野医療センターとの一体感も考慮する。

建設費は概算で約7億円。市は今後、施設整備やテナントに民間事業者の参画を募り、市民の意見も聞きながら、計画を詰める。

谷口市長は「ワクワクする他にない素晴らしい提言をいただいた。民間の協力も得て、実現に向け努力したい」と語り、三島委員長は「嬉野の魅力を感じ、街へと誘導するスポットになれば」と期待した。

■街中に農園を設置　世代間交流を図る

2016/4/10　西日本新聞

空き地を活用　街中に「農園」

佐大生が社会実験

佐賀大生が佐賀市呉服元町の空き地で野菜を栽培しているプランター

佐賀大生が佐賀市呉服元町の同大のサテライト館「ゆっくら～と館」近くの空き地にプランターを設置し、農作物を育てる社会実験をしている。同館で昨年開かれた佐賀大の高齢者講座「街角大学」で受講生から「郊外ではなく、街中で畑仕事やガーデニングをしたい」と提案を受けた五十嵐勉教授（58）が「空き地活用のモデルとして確立したい」と始めた。

空き地は管理するNPO法人「まちづくり機構ユマニテさが」から無償で借りた。農園は縦14・5㍍、横4・8㍍の広さで「呉服元町ファーム」と命名。五十嵐教授の講義を受ける学生と佐賀大の農業サークル「ＦｏｒＳ（フォーエス）」のメンバーが2月下旬から2週間かけてプランター25個を設置。ハーブやエンドウ豆、ニンジンなど約15種類の野菜を種から育てている。

今は学生だけで栽培しているが、今後の手入れや管理は5月13日に開講予定の街角大学を受講する高齢者に任せる予定。野菜の種類も自由に選んでもらい、収穫した作物は1人暮らしの高齢者にも提供したいとしている。五十嵐教授は「成功すれば市内の他の空き地にも活動を広げたい」と話す。（梅本邦明）

■おっぱいと抱っこの相談会を実施

2016/5/20　佐賀新聞

ひびの子育て×佐賀大学

おっぱいと抱っこの相談会　参加募集

佐賀大学医学部看護学科（佐藤珠美教授ら）は6月2日10～12時、佐賀市の鍋島公民館で開く「おっぱいと抱っこの相談会」に参加する女性を募っている。無料、予約制。

授乳、卒乳、おっぱいのセルフケア、抱っこの仕方など一人30分程度、助産師が個別相談を受け付ける。現在、授乳をしている人やこれから出産を迎える人など、相談したい人は誰でも参加できる。子どもの同伴も可能。待ち時間はお母さん同士のおしゃべり、情報交換の時間に。

定員10人。おっぱいケアを希望する人は、バスタオル1枚とフェイスタオル2枚を持参。

申し込み・問い合わせは鍋島公民館、電話0952(31)2984（担当・大川）。

待ち時間に参加した親子と交流を深める学生たち＝昨年6月、佐賀市の鍋島公民館

■まち歩きで地域活性化策を提案

2016/6/3　佐賀新聞

佐賀大学芸術地域デザイン学部

町歩き 活性化策提案

地元の"宝"に光当てる

長崎街道やクリーク

佐賀市

4月に発足した佐賀大学芸術地域デザイン学部の学生が2日、授業でのフィールドワークの報告会に臨んだ。1年生115人が20のグループに分かれて佐賀市内を歩き、「芸術で地域をデザインする」という観点から地域の活性化策を提案した。

文化教育学部を改組して発足した新学部は、芸術を通じて地域創生に貢献する人材養成を目指す。1年生全員が受講する共通科目で、5月中旬からフィールドワークに取り組んできた。

長崎街道に街灯が少なく、夜に歩くと暗いと感じたグループは、手作りのライトを設置するプランを発表。街灯ではなく手作りのライトにすることで、地域住民との交流も図れると訴えた。実際に教室でもライトを照らしてアピールした。

カヤックでのクリーク巡りを提案したグループは、町歩きを加えることでクリークの行き止まりを活用でき、商業振興にもつながるとPRした。

手作りライトを発表した前田沙綺さん(19)は「町を歩き、地域の人と話すことは貴重な経験になった」と話した。

アドバイザーとして報告会に参加したユマニテさがの伊豆哲也タウンマネジャー(63)は「行政にお願いするのではなく、市民が参加できる取り組みを具体的に提案できていた」と評価した。（江島貴之）

20のグループに分かれてフィールドワークの成果を発表した報告会＝佐賀市の佐賀大学本庄キャンパス

■「佐賀・茶学会」で煎茶の歴史、魅力紹介

2016/6/5　佐賀新聞

煎茶の歴史、魅力紹介

茶学会 小川さん講師に40人

講演で、煎茶の歴史や魅力を説明する小川可楽さん＝佐賀市の佐賀大学本庄キャンパス

佐賀市　市民参加型で茶について総合的に学ぶ「佐賀・茶学会」（野中源一郎会長）は4日、佐賀市で講演会を開いた。約40人が参加。京都市の小川流煎茶家元嗣の小川可楽さんが、煎茶の歴史や魅力などを伝えた。

小川さんは煎茶道の遊び感覚で茶を楽しむ「利き茶」などを挙げ、「味が繊細なので、賞味する力が必要になる」と指摘した。平安時代の古文書に「煎茶」が出てきて貴族階級で流行していた歴史も解説した。

中国の唐の時代につくられた茶の詩から階層社会の不平等さに対する問い掛けが読み取れるとし、「民へのいたわりや、社会の矛盾に目を向けることも茶の精神につながっている」と述べた。講演会は茶学会の総会に合わせて開いた。（山本礼史）

■「AQUA SOCIAL FES !! 2016」蕨野の棚田で田植え

2016/6/6　佐賀新聞

景観守れ 蕨野の棚田で田植え

アクアフェス

田んぼに入って丁寧に苗を植えていく参加者＝唐津市相知町の蕨野の棚田

悪戦苦闘、でも楽しく

唐津市相知

「日本の棚田百選」に指定されている唐津市相知町の「蕨野の棚田」を守る環境保全プロジェクト「AQUA SOCIAL FES!!（アクアソーシャルフェス）2016」が5日、同棚田で開かれた。家族連れら155人が田植え体験を通し、日本の原風景を守る大切さを再確認した。

田植えは標高約350メートルにある4枚の棚田で体験した。佐賀大学農学部の五十嵐勉教授から「親指、中指、薬指で3本ずつ苗を取って」「第一関節ぐらいまでしっかり植えて」と助言を受け、参加者は横一列になって「夢しずく」の苗を棚田に植えた。

参加者は慣れない作業に尻もちをつくなど悪戦苦闘しながらも、1時間半の作業を楽しんだ。昼食では棚田米のおにぎりや豚汁を味わい、棚田に住む生き物を学ぶ環境教室もあった。佐賀市から家族5人で参加した高橋浩一郎さん（45）は「田植えは重労働だと実感したし、やり遂げた達成感もあった。棚田の風景は素晴らしかった」と話した。

蕨野の棚田は全国の棚田で初めて「国の重要文化的景観」にも選ばれている。ただ、手入れが難しく、農家の高齢化や後継者不足で耕作放棄地も増え、景観の維持が課題になっている。

「アクアフェス」はトヨタ自動車が全国の地方新聞社と連携。佐賀新聞社とNPO法人「蕨野の棚田を守ろう会」が主催し、佐賀大学コミュニティ・キャンパス佐賀推進室の協力で実施した。9月下旬には、棚田で稲刈りを予定している。

（唐津支社・古川浩司）

日本の棚田百選に選ばれている「蕨野の棚田」を保全するアクアソーシャルフェス。155人が参加し、田植えを体験した＝唐津市相知町

■「佐賀環境フォーラム」淡水魚を観察する体験学習開催

2016/7/3　佐賀新聞

絶滅危惧種 クリークに

淡水魚観察 市民ら体験学習

クリーク内に入り、淡水魚を捕まえる大学生ら。観察後は放流した＝佐賀市鍋島町蛎久

佐賀市

佐賀の河川にいる淡水魚を観察する体験学習が6月26日、佐賀市鍋島町蛎久のクリークなど3カ所で開かれた。大学生や市民ら約50人が、佐賀平野が国内有数の淡水魚のすみかで、絶滅危惧種が今も生息していることを学んだ。

牛津高校の中原正登指導教諭が、江戸時代から張り巡らされてきた治水・農業用のクリークが多様な魚種を育んだと説明。農家の高齢化で地域農業が衰え、クリークがコンクリート舗装されて生息が困難になりつつあるが、いまだに都市部でも絶滅危惧種が見つかる点を指摘した。

未舗装のクリーク、河川の取水口、都市部の水路の3カ所で魚を捕まえた。在来種を食べる外来魚だけでなく、絶滅危惧種のアリアケスジシマドジョウ、オヤニラミなどを見つけて図鑑確認した。佐賀大学文化教育学部2年の青木かのんさん（19）は「こんな近くにいるなんて思わなかった。人が造ったものが環境を破壊することは知っていたが、昔ながらのクリークが魚を守ってきたことに驚かされた」と話していた。

体験学習は、佐賀市と佐賀大学が連携する環境教育事業「佐賀環境フォーラム」の一環で開いた。

（大田浩司）

■「小城鍋島家Ten」オープン1周年記念イベント開催

2016/7/18　佐賀新聞

学生が用意した流しそうめんで、笑顔でそうめんをすくう来場者ら＝小城市小城町の小城鍋島家Ｔｅｎ

そうめん流しに笑顔

「小城鍋島家Ten」1周年　学生らもてなす

小城市

小城鍋島藩の分家、西小路鍋島家旧宅を改装したカフェとギャラリー「小城鍋島家Ｔｅｎ」のオープン1周年記念イベントが16日、小城市小城町の同施設であった。地域活性化を図る佐賀大学の学生もスタッフとして働き、地域住民をもてなした。

市が歴史的建造物を生かして観光振興につなげようと改装し、昨年7月にオープンイベントの企画には、佐賀大学で地域資源の活用方法を学ぶ佐賀大学の学生約40人も、授業の一環として携わった。

パラソルを設置してオープンカフェのようにした庭では、カレーや焼きそばなどを提供。学生らが半分に切った竹を使い、流しそうめんも行った。屋内の和室では学生とカルタに興じる来場者の姿も見られた。

家族4人で訪れた池田祐己さん(34)＝小城市＝は「子どもたちも楽しんでいるようでうれしい」と話し、娘の乃彩ちゃん(3)も「そうめんがおいしかった」と笑顔を見せた。カフェを運営する一般社団法人「文化芸術の泉アール・フォンテヌ」の古川久美子代表は「イベントを通して学生がいろんな経験してくれたらうれしい。カフェは地域の高齢者や母親などが交流できる場になれば」と話した。

（藤本拓希）

NHK佐賀県のニュース　佐賀放送局

■地域の課題解決の実践例を報告

NHK　NEWS　WEB　2016/9/27
（http://www3.nhk.or.jp/lnews/saga/5085629661.html?t=1474934590866）

地域の課題解決に向けた教育や研究に共同で取り組んでいる、佐賀大学と西九州大学の活動報告会が佐賀市で開かれました。

佐賀大学と西九州大学は、自治体とも連携して、3年前から学生を地域の中で学ばせ、課題解決に向けて取り組む教育や研究を行っていて、26日、佐賀大学で開かれた活動報告会には、およそ40人が参加しました。この中で、佐賀大学は、離島や山間部などを含め、県内各地で保健医療に貢献する人材の育成を目的に、医学部の学生たちが県内の離島の診療所の訪問などを行っていることを説明しました。

また、西九州大学では、学生たちが高齢者に呼びかけて725人を検査し、その結果87人が認知症の疑いがあるとわかり、自治体の支援につなげたことなどを報告しました。

この取り組みは来年度まで続く予定で、担当する佐賀大学社会連携課の三島舞コーディネーターは「地域の現状を知ることは、学生たちの学びを深めるのに役立っていると感じる。地域に愛着を持ち、この地域のために働きたいと思う学生が育ち、それが地域の活性化などにつながってほしい」と話していました。

■「AQUA SOCIAL FES !! 2016」蕨野の棚田で稲刈り

2016/10/2　佐賀新聞

実りの秋を迎え、棚田で稲刈りをし、収穫の喜びを実感する参加者ら＝唐津市相知町蕨野

稲刈り、棚田の恵み実感

相知町蕨野でアクアフェス

唐津市相知

八幡岳の中腹、唐津市相知町蕨野地区の棚田で1日、家族連れや佐賀大生ら100人が稲刈りをした。春に田植えをした棚田保全プロジェクト「アクアソーシャルフェス」の仕上げで、収穫の喜びと農家の苦労を実体験した。

ふもとの蕨野棚田交流広場から歩いて約2キロ。佐賀市の会社員柳川正智さん(45)は「歩くだけでも大変なのに、毎日ここまで来て農作業をしていた昔の人の苦労がしのばれる」と話しながら、稲刈りは初体験という長女で小学3年の結衣さん(9)と汗を流した。

午前中はもやが垂れ込めていたが、稲刈りが終わる頃には晴れ上がった。地元の人たちが用意した棚田米のご飯やふかし芋、豚汁を味わい、「日本の棚田百選」に選ばれた景観を心地よさそうに眺めていた。

蕨野地区では約700枚の棚田を45戸で耕作する。共催した地元のNPO「蕨野の棚田を守ろう会」理事長の川原増雄さん(69)は「1日だけでもこんなに人が集まったら、村が活気づく」と歓迎する。8日は午後6時から棚田をライトアップし、月灯りコンサートを開く。

プロジェクトは佐賀新聞社主催、トヨタ自動車協賛で、佐賀大コミュニティ・キャンパス佐賀推進室が協力する。同大農学部の五十嵐勉教授は「農業未体験の学生も多いが、恒例行事となり、要領も分かってきたようだ」と教育面でも成果を感じていた。

（吉木正彦）

■「今どき大学生」で佐賀大農学部４年の前﨑桜樹さんを紹介

2016/11/16　佐賀新聞

有明海で干潟環境調査

今どき大学生

佐賀大農学部４年　前﨑桜樹さん

佐賀大農学部４年の前﨑桜樹（さくら）さんは、農業や自然、環境に興味があり、生物環境科学科のある佐賀大を受験した。浅海干潟環境学を専門とする郡山益実准教授の研究生となり、広大な干潟をもつ有明海に毎週のように調査にきている。

泥の中の酸素量や、生息する生物の種類、巣穴の分布などを調査。生物たちの息づく音を感じている。昨年の大出水で山から流された樹木が散乱し、シチメンソウの減少など環境が変化しており、この湿地を守るにはどうしたらいいのか、データ分析している。

前﨑さんは本年度の「農業農村工学会・九州沖縄支部大会」で、「東よか干潟高潮間帯域におけるマクロベントスの生息と季節変化」の発表でポスター賞を受けた。将来もこれらの研究を続けていきたいそうだ。（地域リポーター・田中みゆき＝佐賀市）

■「グリコシルセラミド」で腸内細菌改善作用を確認

2016/11/25　日刊工業新聞

腸内細菌を麹成分改善

佐賀大など

【佐賀】佐賀大学は、しょうゆやみそなどの発酵食品に使う麹（こうじ）の成分「グリコシルセラミド」が腸内細菌の状態を改善することを明らかにした。マウスの腸内細菌への影響を調べ、善玉菌と呼ばれる菌を増加させるのを確認した。今後、その要因や人体での有効性について研究する考え。研究は九州大学、西九州大学と共同で実施した。

抽出したグリコシルセラミドをエサ状にしてマウスに与え、得られたふんを分析した。腸内細菌の組成の変化や腸内環境を整える善玉菌の増加を見た。

自己修復を可能にした。自動車車体への被膜や、医療用の止血シートなど幅広い製品への応用を見込める。

ゲル状の材料を切断して、再接触すると10分以内に80％以上まで回復することを確認した。また、フィルム状の材料では表面に付けた刃物の傷も、30分以内にはほとんど見えなくなるまで修復した。

従来の自己修復材料は、へこんでも元に戻る物理的特性か、切れてもつながる化学的特性のどちらか一方を用いるのが主流。自己修復の速さ・効率と硬さは二律背反にあった。

■学生の地元就職率向上を目指しシンポジウム開催

2016/11/26　佐賀新聞

地元学生 積極採用を

就職向上シンポ　佐賀大など企業に訴え

学生の地元就職率を向上させる取り組みを紹介したシンポジウム＝佐賀市の佐賀大学本庄キャンパス

佐賀市

学生の地元就職率を向上させる取り組みを紹介するシンポジウムが23日、佐賀市の佐賀大学本庄キャンパスであった。佐賀大学を含めた九州の大学3校がそれぞれの事例を紹介し、地元で活躍する若者を育てる重要性について話した。

講演には、佐賀大学の他、日本文理大学（大分県）と久留米大学（福岡県）の担当者が登壇した。

佐賀大学は2013年から、市街地活性化や過疎対策などの地域課題に取り組む人材を育成する事業を始め、19年度末までに地元就職率を現状の26％から10ポイント引き上げる目標を掲げている。同大学の五十嵐勉教授は、佐賀市や唐津市など6市1町と連携し、学生が授業を通して地域課題に取り組む仕組みを説明。「大学進学時や就職時の県外流出をいかに食い止めるかが大きな課題」とし、集まった地元企業関係者に「県内学生の積極的な採用を」と訴えた。

日本文理大学の吉村充功教授は学生への意識調査の結果を示し、「社会に貢献したい気持ちが強い一方、発揮できる場所がない」と問題点を指摘。学生が地元企業のPR映像を制作し、県内企業への理解を深める取り組みを紹介した。

シンポジウムには、地元企業の代表や県職員、学生など約250人が参加した。佐賀大学が事業成果を、就職の受け皿になる地元企業に知ってもらおうと企画した。（藤本拓希）

資　料

■コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト運営委員会設置要項

（平成25年9月26日制定）

（設置）

第1　国立大学法人佐賀大学及び学校法人西九州大学に,地（知）の拠点整備事業（事業名称：コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト）の実施に関し,必要な事項を審議するため,コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第2　運営委員会は,次に掲げる事項を審議する。

(1) プロジェクト実施に関する企画の立案及び推進に関すること。
(2) プロジェクトの予算管理に関すること。
(3) 自治体等との連携の推進に関すること。
(4) プロジェクトの自己点検評価に関すること。
(5) その他プロジェクトの実施に関する事項

（組織）

第3　運営委員会は,次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 佐賀大学理事のうち佐賀大学長が指名した者　1人
(2) 西九州大学理事のうち西九州大学長が指名した者　1人
(3) 佐賀大学における事業実施責任者
(4) 西九州大学における事業実施責任者
(5) 佐賀大学におけるプロジェクト実施責任者
(6) 西九州大学におけるプロジェクト実施責任者
(7) 佐賀大学全学教育機構専任教員のうち佐賀大学長が指名した者　若干人
(8) 西九州大学グループ地域連携センター教員のうち西九州大学長が指名した者　若干人
(9) コミュニティ・キャンパス佐賀コーディネーター
(10) その他第5第1号に規定する委員長が指名した者　若干人

（任期）

第4　第3第5号から第8号まで及び第10号の委員の任期は,2年とし,再任を妨げない。

2　第3第5号から第8号まで及び第10号の委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は,前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第5　運営委員会に委員長を置き,第3第1号の委員をもって充て,副委員長は第3第3号及び第4号の委員をもって充てる。

2　委員長は,委員会を招集し,その議長となる。

3　委員長に事故があるときは,副委員長が,その職務を代行する。

（議事）

第6　運営委員会は,委員の過半数の出席がなければ,議事を開き,議決をすることができない。ただし,やむを得ない理由により出席ができない場合にあっては,代理者の出席を認め,その者を委員に代えることができる。

2　議事は,出席した委員の3分の2以上の多数をもって議決する。

（委員以外の者の出席）

第7　運営委員会が必要と認めたときは,運営委員会に委員以外の者の出席を求め,意見を聴くことができる。

（部会）

第8　運営委員会に必要に応じて部会を置くことができる。

2　部会に関し必要な事項は,別に定める。

（事務）

第9　運営委員会の事務は,佐賀大学事務局関係各課及び西九州大学グループ地域連携センターの協力を得て,佐賀大学学術研究協力部社会連携課が行う。

（雑則）

第10　この要項に定めるもののほか,運営委員会の運営に関し,必要な事項は,委員長が別に定める。

附　則

1　この要項は,平成25年10月1日から実施する。

2　この要項実施後,最初に選出される第3第5号から第8号まで及び第10号の委員の任期は,第4第1項の規定にかかわらず,平成27年3月31日までとする。

附　則（平成27年7月22日改正）

この要項は,平成27年10月1日から実施する。

附　則（平成28年3月25日改正）

この要項は,平成28年4月1日から実施する。

■コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト運営委員会名簿

〈佐賀大学〉　平成29年2月3日

部　局	職　名	氏　名
理事（研究・社会貢献担当）	副学長	門出政則
工学系研究科	教授	三島伸雄
全学教育機構	教授	五十嵐　勉
教育学部	教授	井上伸一
経済学部	准教授	戸田順一郎
医学部	教授	杉岡　隆
（農）附属アグリ創生教育研究センター	准教授	上埜喜八
全学教育機構	准教授	郡山益実
全学教育機構	教授	諸泉俊介
全学教育機構	講師	山内一祥
社会連携課	コーディネーター	三島　舞
社会連携課	課長	木塚徳男

〈西九州大学〉

部　局	職　名	氏　名
理事（社会貢献担当）	副学長	井本浩之
健康栄養学部	教授	柳田晃良
健康福祉学部	教授	酒井　出
健康栄養学部	教授	安田みどり
リハビリテーション学部	准教授	上城憲司
健康福祉学部	講師	岡部由紀夫
センター事務室	事務長	中島哲男

■コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議設置要項

（平成25年11月15日制定）

（設置）

第1　地（知）の拠点整備事業（事業名称：コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト）の実施に関し,必要な事項を協議するため,コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

（協議事項）

第2　推進会議は,次に掲げる事項を協議する。

(1) 地域のニーズに対応した教育研究の推進に関すること。

(2) 地域と大学間の積極的な連携・対話の推進に関すること。

(3) その他プロジェクトの実施に関する事項

（組織）

第3　推進会議は,次に掲げる機関の担当者をもって構成する。

(1)　佐賀県

(2)　佐賀市

(3)　神埼市

(4)　唐津市

(5)　小城市

(6)　鹿島市

(7)　嬉野市

(8)　吉野ヶ里町

(9)　佐賀大学

(10) 西九州大学

(11) その他第4第1項に規定する会長が指名した者　若干人

（会長）

第4　推進会議に会長を置き,構成員の互選により選出する。

2　会長の任期は2年とし,再任を妨げない。

3　会長は,推進会議を招集し,その議長となる。

4　会長に事故があるときは,あらかじめ会長が指名した構成員がその職務を代行する。

（構成員以外の者の出席）

第5　推進会議は,必要に応じ構成員以外の者の出席を求め,意見を聴くことができる。

（事務）

第6　推進会議に関する事務は,佐賀大学事務局関係各課及び西九州大学グループ地域連携センターの協力を得て,佐賀大学学術研究協力部社会連携課が行う。

（雑則）

第7　この要項に定めるもののほか,推進会議の運営に関し必要な事項は,推進会議が別に定める。

附　則

1　この要項は,平成25年11月15日から実施する。

2　この要項の実施の際,現に会長の職にある者の任期は,第4第2項の規定にかかわらず,平成27年3月31日までとする。

附　則

この要項は,平成27年10月1日から適用する。

■コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議委員名簿

平成29年2月6日

所　　属	職　　名	氏　　名
佐賀県	政策部　企画課	坂井伸弥
佐賀市	企画調整部　企画政策課	豆田　仁
神埼市	総務企画部　企画室	中島勝利
唐津市	企画政策課(交流協定担当者)	牛草和人
小城市	企画政策課	楠田　武
鹿島市	総務部企画財政課	木原智典
嬉野市	総務企画部企画政策課	山口卓也
吉野ヶ里町	企画課課長	内田春幸
佐賀大学	工学系研究科教授	三島伸雄
西九州大学	副学長	井本浩之
一般社団法人ユニバーサル人材開発研究所	代表理事	大野博之
佐賀大学	全学教育機構教授	五十嵐　勉

〈関係者〉

西九州大学	事務長	中島哲男
佐賀大学	特任准教授	畑中　寛
佐賀大学	コーディネーター	三島　舞
佐賀大学	教務課長	松尾　訓
佐賀大学	社会連携課長	木塚徳男
佐賀大学	社会連携課係長	井上謙一
佐賀大学	社会連携課	園田浩之

■佐賀大学地域創生推進センター大学COC事業推進部門設置要項

（平成28年4月25日制定）

（設置）

第1　佐賀大学地域創生推進センター（以下「センター」という。）に,国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター規則（平成27年12月25日制定）第4条の規定に基づき,コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト（以下「プロジェクト」という。）を円滑に実施するため,大学COC事業推進部門（以下「部門」という。）を置く。

（組織）

第2　部門は,プロジェクト運営委員会委員のうち次に掲げる佐賀大学の関係者をもって組織する。

(1) 理事
(2) 事業実施責任者
(3) プロジェクト実施責任者
(4) 全学教育機構専任教員
(5) コミュニティ・キャンパス佐賀コーディネーター
(6) 社会連携課長

（業務）

第3　部門は,次に掲げる佐賀大学における業務を行う。

(1) プロジェクトの評価に関すること。
(2) プロジェクトの交付申請及び実績報告に関すること。
(3) プロジェクトの予算配分に関すること。
(4) 地域志向教育研究経費の公募及び担当教員の選定に関すること。
(5) 地域を志向する教育・研究・社会貢献に関するアンケートの実施に関すること。
(6) その他プロジェクト推進に関すること。

（議長）

第4　部門に議長を置き,第2第1号の委員をもって充てる。

2　議長は,会議を主宰する。

3　議長に事故があるときは,あらかじめ議長が指名した委員がその職務を代行する。

（雑則）

第5　この要項に定めるもののほか,部門の運営に関し必要な事項は,議長が別に定める。

附　則

この要項は,平成28年4月25日から実施する。

■佐賀大学地域創生推進センター
大学COC事業推進部門名簿

〈佐賀大学〉　　平成28年4月25日

部　　局	職　　名	氏　　名
理事（研究・社会貢献担当）	副　学　長	門　出　政　則
工学系研究科	教　　授	三　島　伸　雄
全学教育機構	教　　授	五十嵐　　勉
教育学部	教　　授	井　上　伸　一
経済学部	准　教　授	戸　田　順一郎
医学部	教　　授	杉　岡　　隆
（農）附属アグリ創生教育研究センター	准　教　授	上　埜　喜　八
全学教育機構	准　教　授	郡　山　益　実
全学教育機構	教　　授	諸　泉　俊　介
全学教育機構	講　　師	山　内　一　祥
社会連携課	コーディネーター	三　島　　舞
社会連携課	課　　長	木　塚　徳　男

編集後記

地（知）の拠点整備事業
コミュニティ・キャンパス佐賀
アクティベーション・プロジェクト
コーディネーター　**三島　舞**

本年度は、5カ年事業の4年目が終わり、各プロジェクトの地域志向科目における地域活動の定着と発展が進んだ年となった。また、本事業開始後の平成26年度から始まった「インターフェース科目」受講生は、卒業を迎える年となった。それぞれの人生において、これまでの地域志向型教育・研究・社会貢献活動で培った能力がどのように花開くのか大いに期待するところである。最終年度となる平成29年度は、本事業での活動が地域においてどのような効果を生んでいるのかもしっかりと見極め、地域に求められる持続的な事業としていきたい。

平成28年度
地（知）の拠点整備事業
コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト

成果報告書

平成29年3月31日発行

発行・企画・編集　国立大学法人　佐賀大学
地域創生推進センター
〒840-8502　佐賀県佐賀市本庄町1番地
TEL　0952-28-8958
FAX　0952-28-8186
HP　http://www.ccsap.saga-u.ac.jp
デザイン・印刷　福博印刷株式会社

本書に掲載されている写真及び記事の無断転載、複写を禁止します。